

## ○ 鈴鹿工業高等専門学校 教育の質保証に関する基本方針

〔 令和 7 年 2 月 28 日  
校 長 裁 定 〕  
最終改正令和 7 年 5 月 29 日

## 鈴鹿工業高等専門学校教育の質保証に関する基本方針

## 1 目的

鈴鹿工業高等専門学校自己点検評価・改善委員会規則（令和 7 年規則第 123 号）第 2 条第 4 項に基づき、教育の質保証に関し必要な事項を定める。

教育の質保証の実施に当たっては、PDCA サイクルを構築し、学校の目的及び三つの方針\*に基づいて行う。

\* 卒業（修了）の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

教育の質保証体制（PDCA サイクル図）については、別に定める。

## 2 教育の質保証のための実施手順

- (1) 教務委員会等は、学校の目的及び三つの方針に基づいて、社会の状況等を把握しつつ、教育の内部質保証に向けた取り組みを行い、各学科長及び教養教育科長による内部質保証点検表、教職員及び在学生等から聴取した意見等に基づき、取組状況の点検を行い、自己点検評価・改善委員会へ報告する。
- (2) 自己点検評価・改善委員会は、取組内容の進捗状況を確認し対応するとともに、前項の教務委員会等による点検報告を受け、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構が作成する「高等専門学校機関別認証評価 評価基準」に基づき、別途定める点検評価項目による点検評価を行い、その点検評価結果をとりまとめの上、運営会議へ報告する。
- (3) 点検評価は、7年以内ごとに1回実施するものとする。
- (4) 前々項の自己点検評価・改善委員会による点検評価結果について、運営会議において審議し決定する。
- (5) 前項で決定した点検評価結果について、運営諮問会議による点検評価（第三者評価）を実施する。
- (6) 教育の質の改善・向上に結び付けるため、前項の運営諮問会議による点検評価（第三者評価）の結果を踏まえ、自己点検評価・改善委員会において、改善項目等について検討、立案し、運営会議へ提案する。
- (7) 前項の自己点検評価・改善委員会による提案内容について、運営会議において審議し決定する。
- (8) 前項で決定した改善項目等への対応措置について、その計画を実施するため、校長より各種委員会へ指示する。
- (9) 点検評価結果について、本校の公式ウェブサイトにて公表する。

附 記

この基本方針は、令和7年2月28日から施行し、令和6年4月1日から適用する。

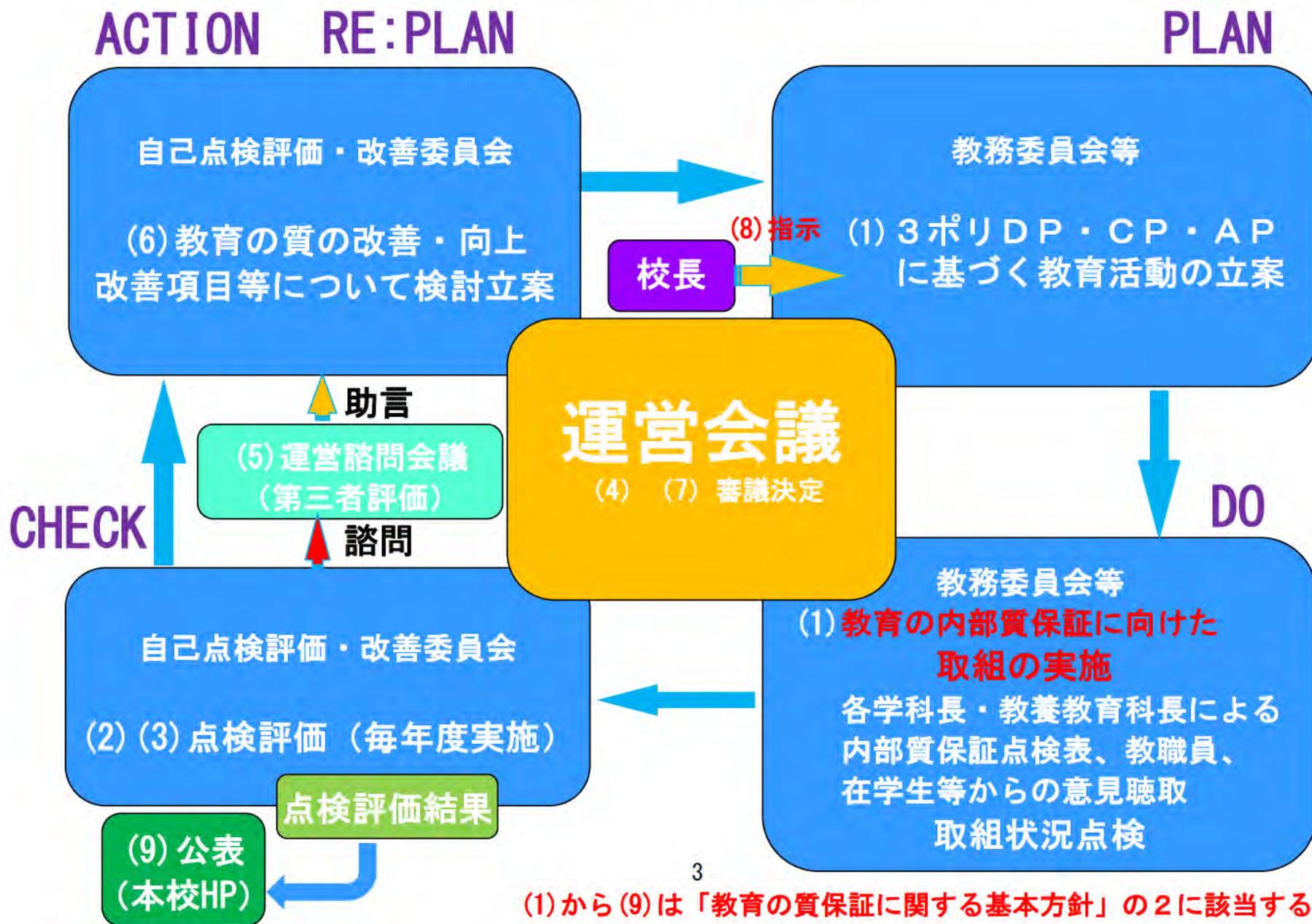
附 記

この基本方針は、令和7年4月14日から施行する。

附 記

この基本方針は、令和7年5月29日から施行する。

# ● 鈴鹿高専の教育の質保証体制



点検評価項目(教育の質保証に関する基本方針の2.(2)関係)

基準	観点	担当組織 (自己点検・評価)	担当組織 (改善・向上の取組)	根拠として必要な資料
<b>領域1 教育の内部質保証システム</b>				
基準1-1 内部質保証に係る体制が明確に規定されていること	観点1-1-① 教育活動を中心とした学校の活動の総合的な状況について、学校として定期的に自己点検・評価を実施するための方針、体制等が整備されていること	自己点検評価・改善委員会	各委員会等	◇自己点検評価及び評価に関する基本方針が明示されている規程等 ◇実施体制等が確認できる資料(学則、自己点検評価規程等) ◇自己点検評価及び評価に関する基本方針が明示されている規程等 ◇関係委員会の規程等及び評価に関する基本方針が明示されている規程等 ◇第三者評価に関する基本方針が明示されている規程等 ◇実施体制等が確認できる資料(学則、関係規程等)
基準1-2 内部質保証のための手順が、学校の目的及び三つの方針*を踏まえて明確に規定されていること *卒業(修了)の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)(以下、「DP」という。)	観点1-2-① 以下の事項を内部質保証体制が確認する手順を有していること (1)DPが学校の目的に基づき定められていること (2)CPが学校の目的及びDPと整合性をもって定められていること (3)APが学校の目的に基づき定められていること (4)学習成果の達成がDPの求める卒業(修了)に必要な水準となっていること	教務委員会、入学試験委員会	教務委員会、入学試験委員会	◇点検を行う体制が確認できる資料(関連委員会の規程等)
	観点1-2-② 教育課程ごとの点検・評価において、領域5の各基準に基づく判断を行うことが定められていること	教務委員会、入学試験委員会	教務委員会、入学試験委員会	◇点検・評価が実施されていることが確認できる資料(関連規程等)
	観点1-2-③ 施設・設備、学生支援に関して行う自己点検・評価の方法が定められていること	自己点検評価・改善委員会	各委員会等	◇自己点検・評価の基準・項目等が確認できる資料(基本方針、関連規程等)
	観点1-2-④ 関係者の意見を聴取る仕組みが設けられていること	自己点検評価・改善委員会	各委員会等	◇自己点検・評価の基準・項目等が確認できる資料(基本方針、関連規程等) ◇各評価結果等を踏まえて自己点検・評価が行われていることを示す報告書等の該当箇所(自己点検評価報告書の該当箇所又は担当組織の議事要旨、会議資料等)
	観点1-2-⑤ 内部質保証体制において共有、確認された自己点検・評価結果(設置計画履行状況等調査において付される意見等、監事、会計監査人からの意見、外部者による意見及び当該自己点検・評価を基に受けた第三者評価の結果を含む。)を踏まえた対応措置について検討、立案、提案する手順が定められていること	自己点検評価・改善委員会	各委員会等	◇自己点検・評価の結果を踏まえた対応措置について検討、立案、提案するための手順を定めた規程等
	観点1-2-⑥ 内部質保証体制において承認された対応措置の計画を実施する手順が定められていること	自己点検評価・改善委員会	自己点検評価・改善委員会	◇内部質保証体制において承認された対応措置の計画を実施するための手順を定めた規程等
	観点1-2-⑦ 内部質保証体制において、その決定した計画の進捗を確認するとともに、必要な対処方法を決定する手順が定められていること	自己点検評価・改善委員会	自己点検評価・改善委員会	◇対応計画の進捗確認、進捗状況に応じた対応を決定する手順について定めた規程等
	観点1-2-⑧ 自己点検・評価の結果が公表されていること	自己点検評価・改善委員会	自己点検評価・改善委員会	◇ウェブサイト掲載項目チェック表
基準1-3 自己点検・評価や第三者評価の結果を教育の質の改善・向上に結び付けていること	観点1-3-① 内部質保証体制において、機関別認証評価や第三者評価の結果を踏まえた改善がなされていること	自己点検評価・改善委員会	各委員会等	◇対応状況が確認できる資料(指摘事項に対しての改善策を審議・策定していることが確認できる会議資料、議事録等)
<b>領域2 教育組織及び教員・教育支援等</b>				
基準2-1 学校の教育に係る基本的な組織構成が、学校の目的に照らして適切であること	観点2-1-① 学科の構成が、学校の目的に照らして、適切となっていること	教務委員会	教務委員会	◇DP、学則、学校要覧等
	観点2-1-② 専攻の構成が、学校の目的に照らして、適切なものとなっていること	教務委員会	教務委員会	◇DP、学則、学校要覧等
基準2-2 教育活動を展開する上で必要な運営体制が適切に整備されていること	観点2-2-① 教員の組織的な役割分担の下で、教育に係る責任の所在が明確になっていること	運営会議	運営会議	◇教育活動を有効に展開するため必要と考えられる教務・学生支援・入試等の委員会の組織体制が確認できる資料(当該事項を審議するための組織の構成図、運営規程等)
	観点2-2-② 全校的見地から、校長等の下で教育研究活動について審議し又は実施する組織が整備されていること	運営会議	運営会議	◇教育研究活動について審議し又は実施する組織について定めている規程等 ◇評価の前年度の実施された同組織における会議の審議事項、資料及び議事要旨等
基準2-3 教育活動を展開する上で必要な教員が適切に整備されていること	観点2-3-① 設置基準に照らして、必要な人数の教員が配置されていること	運営会議	運営会議	◇高等専門学校現況表
	観点2-3-② 専攻科課程に必要な各分野の教育研究能力を有する専攻科担当教員が適切に配置されていること	運営会議	運営会議	◇担当教員一覧表等
	観点2-3-③ 教員の年齢及び性別の構成が著しく偏ることがないよう適切な配慮がなされていること	運営会議	運営会議	◇教員の年齢・性別構成
基準2-4 組織的に、教員の質を確保し、その維持、向上を図っていること	観点2-4-① 教員の採用及び昇任に当たって、教育上、研究上又は実務上の知識、能力及び実績に関する判断の方法等が明確に定められていること	運営会議	運営会議	◇教員の採用・昇任等に係る体制、基準、手続等に関する規程等(教員選考規則、昇任基準、審査要領等) ◇公募要領・様式、実績状況に関する資料等
	観点2-4-② 全教員の教育研究活動に対して、規程等に基づき学校による定期的な評価の仕組みがあること	校長	校長	◇実施体制等が確認できる資料(評価実施規程、教員評価の基準を定めたもの等) ◇評価の前年度に実施された評価実施組織における会議の審議事項、資料及び議事要旨等

点検評価項目(教育の質保証に関する基本方針の2.(2)関係)

基準	観点	担当組織 (自己点検・評価)	担当組織 (改善・向上の取組)	根拠として必要な資料
	観点2-4-③ 教員評価で把握された事項に対して、評価の目的に即した取組を行う仕組みがあること	運営会議	運営会議	◇取組に関する規程等(評価実施規程、改善指導について定めた規程等) ◇評価の前年度に実施された評価実施組織における会議の審議事項、資料及び議事要旨等
	観点2-4-④ 授業の内容及び方法の改善を図るためのファカルティ・ディベロップメント(FD)*が組織的に実施されていること	教務委員会	教務委員会	◇実施体制・実施方針・内容・方法が確認できる資料(FDの実施方針、委員会規程、委員会等の組織関係図等) ◇実施状況一覧
基準2-5 教育活動を支援又は補助する者が適切に配置され、資質の向上を図るための取組が適切に行われていること	観点2-5-① 教育活動を展開するために必要な教育支援者や教育補助者(指導補助者)が配置されていること	運営会議、総務課	運営会議、総務課	◇高等専門学校現況表 ◇役割分担が確認できる資料(事務組織規程、事務組織図、技術室規程)
	観点2-5-② 教育活動を展開するために必要な教育支援者や教育補助者(指導補助者)が担当する業務に応じて、研修等、必要な資質の維持、向上を図る取組が組織的に実施されていること	運営会議、総務課	運営会議、総務課	◇実施状況一覧
領域3 学習環境及び学生支援等				
基準3-1 教育組織及び教育課程に対応した施設・設備が整備されていること	観点3-1-① 教育活動を展開する上で必要な施設・設備が法令に基づき整備されていること	運営会議 キャンパス整備・マネジメント委員会、	キャンパス整備・マネジメント委員会	◇高等専門学校現況表 ◇設置状況が確認できる資料(キャンパスマップ、学生便覧等)
	観点3-1-② 施設・設備における安全性について配慮する体制が整備されていること	キャンパス整備・マネジメント委員会、安全衛生委員会	キャンパス整備・マネジメント委員会、安全衛生委員会	◇安全衛生管理体制が確認できる資料(安全衛生管理規程、関係委員会規程等) ◇設備使用に関する規程、設備利用の手引き等 ◇施設・設備の整備状況・整備計画等のバリアフリー化の取組を示す資料(障がい者差別解消法の合理的配慮について確認できる資料)
	観点3-1-③ 図書館において、教育研究上必要な資料を整備していること	図書・文化委員会	図書・文化委員会	◇高等専門学校現況表 ◇整備状況が確認できる資料(学校要覧、図書情報センター利用案内等) ◇「大学・短期大学・高等専門学校図書館調査」(日本図書館協会)結果
基準3-2 学生に対して、生活や進路、課外活動、経済面での援助等に関する相談・助言、支援が行われていること	観点3-2-① 学生の生活、健康、就職等進路に関する相談・助言体制及び各種ハラスメント等に関する相談・助言体制が整備されていること	学生委員会	学生委員会	◇整備状況が確認できる資料(生活指導の体制、指導内容、組織図、関連規程、学生への周知・案内文等) ◇各取組の実施状況が確認できる資料(過去3年度分の実施要項、学生への周知・案内文等) ◇実施体制等が確認できる資料(基本方針、マニュアル、関係規程等)
	観点3-2-② 特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援及び生活支援等を適切に行う体制が整備されていること	学生支援室	学生支援室	◇整備状況が確認できる資料(関係規程、留学生指導教員・学生チューターの配置状況、相談窓口の設置状況等) ◇整備状況が確認できる資料(関係規程等) ◇学生向け周知資料(学生生活の手引き等)
	観点3-2-③ 就職や進学等の進路指導を含め、キャリア教育の体制が整備され、機能していること	進路支援委員会	進路支援委員会	◇体制の整備状況が確認できる資料(関係規程等) ◇取組状況が確認できる資料(関係規程、実施要項、マニュアル、連携協定等)
	観点3-2-④ 学生の部活動や自治会活動等の課外活動が円滑に行われるよう、必要な支援を行う体制が整備されていること	学生委員会	学生委員会	◇支援体制等が確認できる資料(関係規程、組織図、施設の整備状況が確認できる資料等) ◇運動部活動の方針、活動時間・休業日に関する規定、地域のスポーツ団体との連携が確認できる資料等
	観点3-2-⑤ 学生寮を学生の生活及び勉学の場として整備していること	寮務委員会	寮務委員会	◇整備状況が確認できる資料(関係規程等) ◇生活支援の内容が確認できる資料(寮生のしおり等) ◇学習支援の内容が確認できる資料(自習室の整備状況、自習時間の設定が確認できる資料等) ◇管理・運営体制が確認できる資料(関係規程等) ◇実施体制等が確認できる資料(関係規程等、学生からの意見を集約するための仕組みを示す資料(目安箱等))
	観点3-2-⑥ 学生に対する経済面での援助が行われていること	学生委員会	学生委員会	◇実施状況が確認できる資料(学生便覧、関係規程、ウェブサイトでの明示、学生への周知・案内文等)
領域4 財務基盤及び管理運営				
基準4-1 財務運営が学校の目的に照らして適切であること	観点4-1-① 学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表され、また、財務に係る監査等が適正に行われていること	運営会議、総務課	運営会議、総務課	◇作成・公表状況が確認できる資料(ウェブサイト掲載項目チェック表等) ◇監査等が実施されていることが確認できる資料(学内会計監査規程等(科学研究費助成事業等の外部資金に関する監査規程も含む。)) ◇監査報告書等(外部監査、学内監査の監査報告書)
	観点4-1-② 教育研究活動に必要な予算が配分され、経費が執行されていること	運営会議、総務課	運営会議、総務課	◇設置者の貸借対照表等の財務諸表等(過去5年間) ◇設置者の損益計算書(過去5年間)
基準4-2 管理運営体制が整備され、機能していること	観点4-2-① 学校の管理運営体制が、適切な規模と機能を有していること	運営会議、自己点検評価・改善委員会、総務課	運営会議、自己点検評価・改善委員会、総務課	◇管理運営に関する諸規程、整備状況が確認できる資料 ◇諸規程、整備状況が確認できる資料(組織図等) ◇学校の管理運営に携わることとされている者の役割分担が確認できる資料
	観点4-2-② 法令遵守に係る取組及び危機管理に係る取組のための体制が整備されていること	リスク管理室、総務課	リスク管理室、総務課	◇法令遵守事項、危機管理体制等一覧 ◇危機管理マニュアル、学校防災マニュアル等 ◇訓練や講習会等の実施に関する規程・計画等

点検評価項目(教育の質保証に関する基本方針の2.(2)関係)

基準	観点	担当組織 (自己点検・評価)	担当組織 (改善・向上の取組)	根拠として必要な資料
	観点4-2-③ 学校として持続的な研究成果が創出されるような研究環境の整備や充実に向けた体制の整備や措置が組織的に図られているか【より望ましい取組として分析】	研究推進委員会	研究推進委員会	◇実施状況が確認できる資料(関係規程、実績等) ◇関係規程、活用計画や実績等 ◇過去5年間の外部の財務資源の受入れの取組及び受入実績に関する資料 ◇実施体制・実施方針・内容・方法が確認できる資料(体制図、研究倫理規程等の関係規程、公的研究費等使用マニュアル等) ◇特長的に研究成果が得られていることが確認できる資料
	観点4-2-④ 学校の組織的な取組として行う地域における連携による活動について、その推進に向けた体制の整備や措置が図られているか【より望ましい取組として分析】	研究推進委員会	研究推進委員会	◇実施方針・実施体制が確認できる資料(関係規程、関係委員会会議資料、議事要旨等) ◇活用状況が確認できる資料(関係規程、協定一覧、連携事業の実績等) ◇優れた成果が得られていることが確認できる資料
基準4-3 管理運営を円滑に行うための事務組織が、適切な規模と機能を有していること	観点4-3-① 適切な規模と機能を有する管理運営を円滑に行うための事務組織が整備されていること	運営会議、総務課	運営会議、総務課	◇体制について定めた規程等
	観点4-3-② 管理運営体制及び管理運営を円滑に行うための事務組織が十分に任務を果たすことができるよう、研修等、管理運営に関わる職員の資質の向上を図るための取組(スタッフ・ディベロップメント)が組織的に行われていること	教務委員会	教務委員会	◇実施体制・実施方針・内容・方法が確認できる資料(SDの実施方針、委員会規程、委員会等の組織関係図等)、実施状況一覧
基準4-4 教員と事務職員等との役割分担が適切であり、連携体制が確保されていること	観点4-4-① 教員と事務職員等の適切な役割分担の下、必要な連携体制が確保されていること	運営会議、総務課	運営会議、総務課	◇全校的な委員会等の体制が確認できる資料(関係規程等) ◇校務分掌・分担の一覧等
基準4-5 学校の教育研究活動等に関する情報の公表が適切であること	観点4-5-① 法令等が公表を求める事項が公表されていること	運営会議、総務課	運営会議、総務課	◇ウェブサイト掲載項目チェック表
制5 準学士課程の教育活動の状況				
基準5-1 DPが具体的なかつ明確であること	観点5-1-① DPが、学校の目的を踏まえて、具体的なかつ明確に策定されていること	教務委員会	教務委員会	◇準学士課程のDP
基準5-2 CPが具体的なかつ明確であり、DPと整合していること	観点5-2-① CPにおいて、①教育課程の編成の方針、②教育課程における教育・学習方法に関する方針、③学習成果の評価の方針を明確かつ具体的に明示していること	教務委員会	教務委員会	◇準学士課程のCP
	観点5-2-② CPがDPと整合性を有していること	教務委員会	教務委員会	◇準学士課程のCP及びDP
基準5-3 教育課程がCPに基づき体系的に編成され、授業科目の内容がDPIに基づき設定されていること	観点5-3-① 教育課程が体系的に編成されていること	教務委員会	教務委員会	◇授業科目の配置状況が確認できる資料(カリキュラムマップ、コース・ツリー、学生便覧等) ◇一般科目教育課程表、会議の議事録等 ◇進級に関する規程
	観点5-3-② 創造力、実践力等を育む教育方法の工夫が図られているか【より望ましい取組として分析】	教務委員会	教務委員会	◇教育プログラムの一環として行われている、創造力を育む教育方法の具体的な工夫が確認できる資料(シラバス、授業教材、受講者数等) ◇これらの取組実績により得られた、学校として優れた成果が確認できる資料
基準5-4 DP及びCPに基づき、適切な授業形態、学習指導法が採用されていること	観点5-4-① 1年間の授業を行う期間が原則として35週にわたるものとなっていること	教務委員会	教務委員会	◇35週が確保されている状況が確認できる資料(行事予定表、時間割表等)
	観点5-4-② 特別活動が90単位時間以上実施されていること	教務委員会	教務委員会	◇特別活動の実施状況が確認できる資料(関係規程、時間割表、特別活動予定表等)
	観点5-4-③ 適切な授業形態、学習指導法が採用され、授業の方法及び内容が学生に対して明示されていること	教務委員会	教務委員会	◇授業形態の開講状況(学科別の授業形態の構成割合等)が確認できる資料 ◇実施体制が確認できる資料(シラバス、事例を示す資料等) ◇シラバスの作成要領や具体例等が確認できる資料 ◇組織的な確認の体制が確認できる資料 ◇活用状況を把握する体制が確認できる資料 ◇改善を行った事例がある場合は、改善事例の具体的な内容が確認できる資料 ◇状況が確認できる資料(学則、学年暦、時間割、年間行事予定表等)
基準5-5 適切な履修指導、支援が行われていること	観点5-5-① 学生のニーズに応えるための履修指導の体制が組織として整備され、指導、助言が行われていること	教務委員会	教務委員会	◇実施状況が確認できる資料(関係規程、教育課程表、シラバス、実績等) ◇単位互換制度の内容が確認できる資料(関係規程等) ◇ガイダンス実施要項等
	観点5-5-② 学生のニーズに応えるための学習相談の体制が整備され、助言、支援が行われていること	教務委員会	教務委員会	◇整備状況が確認できる資料(関係規程、学生便覧、学生への周知・案内文、その他整備した体制が確認できる資料等)
	観点5-5-③ 正規学生に海外で学習する機会が提供され、有効に活用されているか【より望ましい取組として分析】	教務委員会	教務委員会	◇支援体制が確認できる資料(関係規程、利用実績等)
基準5-6 CPに基づき、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること	観点5-6-① DP及びCPに基づき定められている学習成果の評価の方針と整合性をもって、成績評価基準が組織として策定されていること	教務委員会	教務委員会	◇成績評価や単位認定に関する規程等 ◇成績評価の組織内でのチェック等、成績評価が適切に実施されていることが確認できる資料(関係規程、成績判定会議に関する資料等) ◇学修単位科目の授業時間外学修を把握する体制、手法、手順等に関する資料(会議資料等)
	観点5-6-② 成績評価認定基準が学生に周知されていること	教務委員会	教務委員会	◇周知を図る取組の内容が確認できる資料(学生便覧、ウェブサイトでの明示等) ◇追試験、再試験、単位追認試験の成績評価方法を定めた規程等

点検評価項目(教育の質保証に関する基本方針の2.(2)関係)

基準	観点	担当組織 (自己点検・評価)	担当組織 (改善・向上の取組)	根拠として必要な資料
	観点5-6-③ 成績評価基準に基づき各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認していること	教務委員会	教務委員会	◇学校として組織的に取り組まれている内容が確認できる資料(左記に示す事項について、どのようにチェックするかが記された規程等)
	観点5-6-④ 成績に対する異議申立て制度が組織的に設けられていること	教務委員会	教務委員会	◇学生からの意見申立てについて定めた規程等
基準5-7 学校の目的及びDPIに基づき、公正な卒業判定が実施されていること	観点5-7-① 卒業認定基準をDPIに従って、組織として策定していること	教務委員会	教務委員会	◇卒業要件が組織的に策定されていることが確認できる資料(学則、卒業認定基準等)
	観点5-7-② 策定された卒業要件が学生に周知されていること	教務委員会	教務委員会	◇周知した資料(学生便覧、ウェブサイトでの明示等)
	観点5-7-③ 卒業の認定が、卒業認定基準に基づき組織的に実施されていること	教務委員会	教務委員会	◇卒業判定時に使用する様式等
基準5-8 学校の目的及びDPIに基づき、適切な学習成果が得られていること	観点5-8-① DPIに沿った学習・教育の成果を確認するための体制が整備されていること	教務委員会	教務委員会	◇体制の整備状況が確認できる資料(関係規程等)
	観点5-8-② 卒業時の学生からの意見聴取の結果により、学校の目的及びDPIに基づいた学習成果が得られていること	教務委員会	教務委員会	◇意見聴取の結果から成果の把握・評価が実施されていることが確認できる資料(卒業時アンケート、アンケート結果、会議資料等)
	観点5-8-③ 卒業後、一定期間の就業経験等を経た卒業生からの意見聴取の結果により、学校の目的及びDPIに基づいた学習成果が得られていること	教務委員会	教務委員会	◇意見聴取の結果から成果の把握・評価が実施されていることが確認できる資料(卒業生アンケート、アンケート結果、会議資料等)
	観点5-8-④ 就職先等からの意見聴取の結果により、学校の目的及びDPIに基づいた学習成果が得られていること	教務委員会	教務委員会	◇意見聴取の結果から成果の把握・評価が実施されていることが確認できる資料(就職・進学先アンケート、アンケート結果、会議資料等)
基準5-9 APが具体的かつ明確であること	観点5-9-① APが学校の目的を踏まえて明確に定められていること	入学試験委員会	入学試験委員会	◇準学士課程のAP
基準5-10 学生の受入れが適切に実施されていること	観点5-10-① APIに沿って適切な受入方法が採用されており、実施体制により公正に実施されていること	入学試験委員会	入学試験委員会	◇選抜区分ごとの入学者選抜募集要項、面接要領、合否判定基準、合否判定様式、入学試験実施状況等が確認できる資料(議事要旨等)
	観点5-10-② APIに沿った学生の受入れが実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果が入学者選抜の改善に役立てられていること	入学試験委員会	入学試験委員会	◇体制の整備状況が確認できる資料(関係規程等) ◇検証した資料(会議資料等)
基準5-11 実入学者数が入学定員※に対して適正な数となっていること ※収容定員を5で除した数	観点5-11-① 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないこと	入学試験委員会	入学試験委員会	◇学則の該当箇所 ◇体制の整備状況が確認できる資料(関係規程等) ◇平均入学定員充足率計算表
領域6 専攻科課程の教育活動の状況				
基準6-1 DPが具体的かつ明確であること	観点6-1-① DPが、学校の目的を踏まえて、具体的かつ明確に策定されていること	教務委員会	教務委員会	◇専攻科課程のDP
基準6-2 CPが具体的かつ明確であり、DPと整合していること	観点6-2-① CPにおいて、①教育課程の編成の方針、②教育課程における教育・学習方法に関する方針、③学習成果の評価の方針を明確かつ具体的に明示していること	教務委員会	教務委員会	◇専攻科課程のCP
	観点6-2-② CPがDPと整合性を有していること	教務委員会	教務委員会	◇専攻科課程のCP及びDP
基準6-3 教育課程がCPに基づき体系的に編成され、授業科目の内容がDPIに基づき設定されていること	観点6-3-① 教育課程が体系的に編成されていること	教務委員会	教務委員会	◇授業科目の配置状況が確認できる資料(カリキュラムマップ、コース・ツリー、学生便覧等)
	観点6-3-② 準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展等を考慮した教育課程となっていること	教務委員会	教務委員会	◇連携及び発展等の考慮状況が確認できる資料(科目系統図、連携状況を示す資料等)
	観点6-3-③ 創造力、実践力等を育む教育方法の工夫が図られているか【より望ましい取組として分析】	教務委員会	教務委員会	◇教育プログラムの一環として行われている、創造力を育む教育方法の具体的な工夫が確認できる資料(シラバス、授業教材、受講者数等) ◇これらの取組実績により得られた、優れた成果が確認できる資料
基準6-4 DP及びCPに基づき、適切な授業形態、学習指導法が採用されていること	観点6-4-① 1年間の授業を行う期間が原則として35週にわたるものとなっていること	教務委員会	教務委員会	◇35週が確保されている状況が確認できる資料(行事予定表、時間割表等)
	観点6-4-② 適切な授業形態、学習指導法が採用され、授業の方法及び内容が学生に対して明示されていること	教務委員会	教務委員会	◇授業形態の開講状況(専攻別の授業形態の構成割合等)が確認できる資料 ◇実施体制が確認できる資料(シラバス、事例を示す資料等) ◇シラバスの作成要領や具体例等が確認できる資料 ◇組織的な確認の体制が確認できる資料 ◇活用状況を把握する体制が確認できる資料 ◇改善を行った事例がある場合は、改善事例の具体的な内容が確認できる資料 ◇学則(授業形態ごとの授業時間に関する定め) ◇明示状況が確認できる資料(シラバス、履修要項、学生便覧等)
	観点6-4-③ CPに基づき、教養教育や研究指導が適切に行われていること	教務委員会	教務委員会	◇教養教育や研究指導の実施状況が確認できる資料 ◇特別研究の指導の枠組み及び指導状況と内容を示す資料(指導教員・副指導教員の指導状況、技術職員の研究のサポート状況等)
基準6-5 適切な履修指導、支援が行われていること	観点6-5-① 学生のニーズに応えるための履修指導の体制が組織として整備され、指導、助言が行われていること	教務委員会	教務委員会	◇実施状況が確認できる資料(関係規程、教育課程表、シラバス、実績等) ◇単位互換制度の内容が確認できる資料(関係規程等) ◇ガイダンス実施要項等 ◇実施状況が確認できる資料(実施日程表、実施要項)

## 点検評価項目(教育の質保証に関する基本方針の2.(2)関係)

基準	観点	担当組織 (自己点検・評価)	担当組織 (改善・向上の取組)	根拠として必要な資料
	観点6-5-② 学生のニーズに応えるための学習相談の体制が整備され、助言、支援が行われていること	教務委員会	教務委員会	◇整備状況が確認できる資料(関係規程、学生便覧、学生への周知・案内文、その他整備した体制が確認できる資料等)
	観点6-5-③ 正規学生に海外で学習する機会が提供され、有効に活用されているか【より望ましい取組として分析】	教務委員会	教務委員会	◇支援体制が確認できる資料(関係規程、利用実績等)
基準6-6 CPIに基づき、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること	観点6-6-① DP及びCPIに基づき定められている学習成果の評価の方針と整合性をもって、成績評価基準が組織として策定されていること	教務委員会	教務委員会	◇成績評価や単位認定に関する規程等 ◇成績評価の組織内でのチェック等、成績評価が適切に実施されていることが確認できる資料(関係規程、成績評定会議に関する資料等) ◇学修単位科目の授業時間外学修を把握する体制、手法、手順等に関する資料(会議資料等)
	観点6-6-② 成績評価認定基準が学生に周知されていること	教務委員会	教務委員会	◇周知を図る取組の内容が確認できる資料(学生便覧、ウェブサイトでの明示等) ◇追試験、再試験、単位追認試験の成績評価方法を定めた規程等
	観点6-6-③ 成績評価基準に基づき各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認していること	教務委員会	教務委員会	◇学校として組織的に取り組まれている内容が確認できる資料(左記に示す事項について、どのようにチェックするかが記された規程、前年度の確認結果が確認できる資料等) ◇同一の試験問題が使われていないことの確認に関し、評価実施の前年度に行った組織的な措置が確認できる資料(関係の会議資料、議事録、(あれば)是正措置が行われたことを確認できる資料)
	観点6-6-④ 成績に対する異議申立制度が組織的に設けられていること	教務委員会	教務委員会	◇学生からの意見申立てについて定めた規程等
基準6-7 学校の目的及びDPIに基づき、公正な修了判定が実施されていること	観点6-7-① 修了認定基準をDPIに従って、組織として策定していること	教務委員会	教務委員会	◇修了要件が組織的に策定されていることが確認できる資料(学則、卒業認定基準等)
	観点6-7-② 策定された修了要件が学生に周知されていること	教務委員会	教務委員会	◇周知した資料(学生便覧、ウェブサイトでの明示等)
	観点6-7-③ 修了の認定が、修了認定基準に基づき組織的に実施されていること	教務委員会	教務委員会	◇修了判定時に使用する様式等
基準6-8 学校の目的及びDPIに基づき、適切な学習成果が得られていること	観点6-8-① DPIに沿った学習・教育の成果を確認するための体制が整備されていること	教務委員会	教務委員会	◇体制の整備状況が確認できる資料(関係規程等)
	観点6-8-② 修了時の学生からの意見聴取の結果により、学校の目的及びDPIに基づいた学習成果が得られていること	教務委員会	教務委員会	◇意見聴取の結果から成果の把握・評価が実施されていることが確認できる資料(修了時アンケート、アンケート結果、会議資料等)
	観点6-8-③ 修了後一定期間の就業経験等を経た修了生からの意見聴取の結果により、学校の目的及びDPIに基づいた学習成果が得られていること	教務委員会	教務委員会	◇意見聴取の結果から成果の把握・評価が実施されていることが確認できる資料(修了生アンケート、アンケート結果、会議資料等)
	観点6-8-④ 就職先等からの意見聴取の結果により、学校の目的及びDPIに基づいた学習成果が得られていること	教務委員会	教務委員会	◇意見聴取の結果から成果の把握・評価が実施されていることが確認できる資料(就職・進学先アンケート、アンケート結果、会議資料等)
基準6-9 APが具体的かつ明確であること	観点6-9-① APが学校の目的を踏まえて明確に定められていること	入学試験委員会	入学試験委員会	◇専攻科課程のAP
基準6-10 学生の受入れが適切に実施されていること	観点6-10-① APIに沿って適切な受入方法が採用されており、実施体制により公正に実施されていること	入学試験委員会	入学試験委員会	◇選抜区分ごとの入学者選抜募集要項、面接要領、合否判定基準、合否判定様式、入学試験実施状況等が確認できる資料(議事要旨等)
	観点6-10-② APIに沿った学生の受入れが実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果が入学者選抜の改善に役立てられていること	入学試験委員会	入学試験委員会	◇体制の整備状況が確認できる資料(関係規程等) ◇検証した資料(会議資料等)
基準6-11 実入学者数が適切な数となっていること	観点6-11-① 実入学者数が適切な数となっていること	入学試験委員会	入学試験委員会	◇学則の該当箇所 ◇体制の整備状況が確認できる資料(関係規程等) ◇平均入学定員充足率計算表

## ○ 鈴鹿工業高等専門学校運営規則

〔 平成 16 年 4 月 1 日 〕  
〔 規 則 第 2 号 〕  
最終改正令和 7 年 6 月 4 日

## 鈴鹿工業高等専門学校運営規則

(趣旨)

第 1 条 この規則は、独立行政法人国立高等専門学校機構鈴鹿工業高等専門学校（以下「本校」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(運営会議)

第 2 条 本校に、本校の教育研究及び管理運営に関する重要事項を審議し、もって本校の円滑な運営を図るため、運営会議を置く。

2 運営会議は、次の各号に掲げる教職員をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 副校長
- (3) 校長補佐
- (4) 学科長及び教養教育科長
- (5) 事務部長
- (6) 課長

3 運営会議が必要と認めたときは、議事に関連する教職員等の出席を求め、その意見を聴くことができる。

4 運営会議は、校長が主宰し、原則として毎月 1 回開催するものとする。ただし、必要ある場合は、臨時に開催することができる。

5 運営会議の庶務は、総務課において処理する。

(運営諮問会議)

第 2 条の 2 本校に、本校の学校運営の充実・発展に資することを目的として、運営諮問会議を置く。

2 運営諮問会議に関し必要な事項は、校長が別に定める。

(室の設置)

第 2 条の 3 本校に、本校における特定業務について企画立案し、及び実施する組織として次の各号に掲げる室を置く。なお、各号に掲げる室には本校運営体制図にあわせて、付随する業務を行うための担当を置くことができる。

- (1) リスク管理室
- (2) 教学 IR 室
- (3) 学生支援室
- (4) 広報室
- (5) 男女共同参画室
- (6) 国際交流室

## (7) 入試対策室

- 2 前項各号に掲げる室は、本校教職員の兼務者をもって組織する。
- 3 第1項に掲げる室は、本校の組織運営を円滑とするため第4条に掲げる委員会と連携して業務を行うものとする。
- 4 室及び担当の業務に関し必要な事項は、校長が別に定める。

(対策本部及び対策等委員会)

第3条 校長は、本校において発生する緊急かつ不測の事象（以下「危機事象」という。）を速やかに対処するため、危機事象に応じて対策本部を設置することができる。

- 2 対策本部に関し必要な事項は、校長が別に定める。
- 3 校長は、対策本部の設置に至る前に、危機事象に対する初動対応又は未然防止のため必要と判断した場合は、その対策又は調査を行う委員会を組織し、指揮するものとする。
- 4 前項に規定する委員会の名称、任務及び構成は、その都度、校長が決定し、当該委員会の庶務は原則として事務部長が処理する。

(委員会)

第4条 本校に、校長の諮問に応じ本校の運営に関する事項を審議するため、校長が主宰する委員会として次の各号に掲げる委員会を置き、校長が委員長となる。委員会の任務、組織及び庶務担当は、別表第1のとおりとする。なお、各号に掲げる委員会には本校運営体制図にあわせて、付随する業務を行うための担当を置くことができる。

- (1) 教員選考委員会
  - (2) キャンパス整備・マネジメント委員会
  - (3) 入学試験委員会
  - (4) 情報セキュリティ管理委員会
  - (5) いじめ防止等対策委員会
  - (6) 安全保障輸出管理委員会
  - (7) 総合安全管理委員会
- 2 前項に規定するもののほか、校長の諮問に応じ本校の運営に関する事項を審議するため、校長が指名した教職員が主宰する委員会として次の各号に掲げる委員会を置き、その任務、組織、委員長及び庶務担当は、別表第2のとおりとする。なお、各号に掲げる委員会には本校運営体制図にあわせて、付随する業務を行うための担当を置くことができる。
    - (1) 自己点検評価・改善委員会
    - (2) 教務委員会
    - (3) 学生委員会
    - (4) 寮務委員会
    - (5) 研究推進委員会
    - (6) 情報委員会
    - (7) 図書・文化委員会
    - (8) 安全衛生委員会
    - (9) ハラスメント防止等対策委員会
    - (10) 進路支援委員会

(11) 全国高専共同利用マテリアル分析センターマネジメント委員会

- 3 前項に掲げる教務委員会、学生委員会及び寮務委員会にあつては、年度の初めに、当該年度における運営の方針を校長に報告するとともに、教職員に周知しなければならない。
- 4 第2項に掲げる委員会は、少なくとも年度内に1回は開催し、その審議内容（当該委員会が設置する分科会及び部会における審議内容を含む。）を当該年度の末までに取りまとめ、校長に報告しなければならない。
- 5 第1項及び第2項に掲げる委員会に、必要に応じ委員長の職務を助ける副委員長を置くことができる。
- 6 副委員長は、校長が指名するものとする。
- 7 委員会及び担当の業務に関し必要な事項は、校長が別に定める。

（任期）

第5条 第4条に規定する委員会における委員（役職による委員を除く。）の任期は、2年とし、再任を妨げない。

- 2 前項の規定にかかわらず、任期の終期は、当該年度の末日とする。
- 3 欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員以外の出席）

第6条 第4条に規定する委員会が必要であると認めるときは、委員以外の者を出席させることができる。

（分科会）

第7条 第4条に規定する委員会に、委員長が指示する専門的事項について調査検討し、審議するため、必要に応じ分科会を置くことができる。

- 2 分科会において決定した事項については、当該分科会を設置する委員会（以下「設置委員会」といい、第8条において準用する。）において決定されたものとみなす。
- 3 分科会において審議又は決定した事項は、その都度、設置委員会の委員長に報告するものとする。
- 4 分科会は、少なくとも年度内に1回は開催し、その審議内容を当該年度の末までに取りまとめ、設置委員会に報告しなければならない。
- 5 分科会の任務、組織及び分科会長等は、校長が別に定める。

（部会）

第8条 第4条に規定する委員会に、委員長が指示する専門的事項について課題等を整理し、当該委員会の決定した事項を実施するため、必要に応じ部会を置くことができる。

- 2 部会において整理及び実施した事項は、その都度、設置委員会の委員長に報告するとともに、その活動内容を当該年度の末までに取りまとめ、設置委員会に報告しなければならない。
- 3 複数の部会にまたがる専門的事項を調整し、その整理に当たる場合には、設置委員会の委員長の指示により関係する部会を合同で開催することができる。
- 4 部会の任務、組織及び部会長等は、設置委員会の議を経て校長が別に定めるものとする。

（推進会議又は主事補会議等）

第9条 第4条に規定する委員会に、その審議を円滑に進めるため、必要に応じ推進会議又は主事補会議、協力会議、ワーキンググループを置くことができる。

- 2 推進会議、主事補会議、協力会議、ワーキンググループは、設置委員会の議を経て校長が別に定めるものとし、ワーキンググループについては、任務終了後は解散するものとする。

(審議事項の報告)

第10条 第4条に規定する委員会で審議された事項については、必要に応じ運営会議に報告するものとする。

(教職員会議)

第11条 本校に、校長、副校長又は校長補佐が必要と認める事項について教職員に周知し、又は意見交換を行うため、教職員会議を置く。

- 2 教職員会議は、校長、教職員（事務職員にあつては係長相当以上の者、技術職員にあつては技術専門職員以上の者）をもって組織する。

- 3 教職員会議は、校長が主宰し、原則として4月、5月、7月、10月及び2月の年5回開催するものとする。ただし、必要がある場合は、臨時に開催することができる。

- 4 教職員会議に司会者を置き、学科長又は教養教育科長のうちから選出された者をもって充てる。

- 5 教職員会議の庶務は、総務課で処理する。

(雑則)

第12条 この規則の取扱いについて疑義が生じた場合は、その都度、校長が決定するところによる。

附 則

- 1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。

- 2 この規則施行の際の委員会委員（役職による委員を除く。）の任期は、第4条第1項の規定にかかわらず、任期の終期は平成17年3月31日までとする。

附 則

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成17年12月5日から施行し、平成17年4月1日から適用する。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成20年5月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成20年7月7日から施行する。

附 則

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成 22 年 2 月 8 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 23 年 7 月 1 日から施行し、平成 23 年 5 月 31 日から適用する。

附 則

この規則は、平成 24 年 9 月 6 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 25 年 4 月 8 日から施行し、平成 25 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この規則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 28 年 3 月 16 日から施行し、平成 27 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この規則は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 30 年 2 月 7 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、令和 2 年 7 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、令和 3 年 4 月 14 日から施行し、令和 3 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この規則は、令和 4 年 5 月 11 日から施行し、令和 4 年 4 月 1 日から適用する。

附 則入試対策室

この規則は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、令和 6 年 4 月 10 日から施行し、令和 6 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この規則は、令和 7 年 2 月 5 日から施行する。

附 則

この規則は、令和 7 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、令和 7 年 6 月 4 日から施行する。

別表第1 (第4条第1項関係)

委員会 の名称	任 務	組 織	庶務担当
教員選考委員会	教員の採用及び昇任に関する事項を審議する。	(1) 校長 (2) 副校長 (3) 主事及び専攻科長 (4) その他校長が必要と認めた者	総務課
マネジ メント 委員 会 キ ャ ン パ ス 整 備 ・	本校の施設・インフラに関するハード整備と環境・交通等を含めたマネジメント等のソフト施策に関する事項を審議する。	(1) 校長 (2) 副校長 (3) 主事及び専攻科長 (4) 学科長及び教養教育科長 (5) 事務部長 (6) 課長	総務課
入 学 試 験 委 員 会	入学者選抜に関する事項を審議する。 入学試験の状況について、自己点検評価改善及び機関別認証評価に関する事項について審議する。	(1) 校長 (2) 副校長 (3) 主事及び専攻科長 (4) 学科長及び教養教育科長 (5) 入試対策室長 (6) 入試広報担当長 (7) 事務部長	学生課
情 報 セ キ ュ リ テ イ 管 理 委 員 会	独立行政法人国立高等専門学校機構情報セキュリティポリシー対策規則（機構規則第98号）第20条第2項及び鈴鹿工業高等専門学校情報公開取扱要項第3条に規定する事項を審議する。	(1) 情報セキュリティ責任者 （校長） (2) 情報セキュリティ副責任者 （副校長及び事務部長） (3) 情報セキュリティ推進責任者 (4) 情報セキュリティ管理者 （専攻科長、学科長、教養教育科長、課長及び教育研究支援センター技術長） (5) 情報処理センター長 (6) その他情報セキュリティ責任者が必要と認めた者	学生課

いじめ防止等対策委員会	学生のいじめに関する事項を審議する。	(1) 校長 (2) 副校長 (3) 教務主事 (4) 学生主事 (5) 寮務主事 (6) 専攻科長 (7) 学生支援室長 (8) 事務部長 (9) 学生課長 (10) 看護師 (11) その他校長が必要と認めた者	学生課
安全保障輸出管理委員会	安全保障輸出管理に関する事項を審議する。	(1) 学校統括責任者（校長） (2) 管理責任者（副校長） (3) 教務主事 (4) 研究主事 (5) 専攻科長 (6) 学科長及び教養教育科長 (7) 国際交流室長 (8) 事務部長 (9) 総務課長 (10) 学生課長 (11) その他校長が必要と認めた者	総務課
総合安全管理委員会	安全衛生・環境保全の包括的な管理に関する事項を審議する。	(1) 校長 (2) 副校長 (3) 事務部長 (4) 各学科及び教養教育科から選出された者 (5) 技術職員 (6) 総務課長 (7) 学生課長 (8) その他校長が必要と認めた者	総務課 学生課

別表第2 (第4条第2項関係)

委員会の名称	任 務	組 織	委員長	庶務担当
会 自己点検評価・改善委員会	本校の評価の基本方針を検討するとともに、評価の実施に関する事項を審議する。	(1) 副校長 (2) 主事及び専攻科長 (3) 学科長及び教養教育科長 (4) 事務部長 (5) その他校長が必要と認めた者	副校長	総務課
教務委員会	学科及び専攻科の教育計画の立案その他教務に関し、校長から諮問された事項及び専攻科の運営並びに教務主事又は専攻科長が必要と認めた事項を審議する。 教育の状況について、自己点検評価改善及び機関別認証評価に関する事項について審議する。 FD・SDを推進するための活動に関する事項を審議する。	(1) 副校長 (2) 主事及び専攻科長 (3) 教務主事補 (4) 学科長及び教養教育科長 (5) 教科責任者 (6) クリエーションセンター長、情報処理センター長、学生支援室長、事務部長並びに教育研究支援センター技術長 (8) 学生課長 (9) その他校長が必要と認めた者	教務主事	学生課
学生委員会	学生の生活（教務委員会及び寮務委員会の所掌に属する事項を除く。）に関し、校長から諮問された事項及び学生主事が必要と認めた事項を審議する。 学生支援の状況について、自己点検評価改善及び機関別認証評価に関する事項について審議する。	(1) 副校長 (2) 学生主事、教務主事及び寮務主事 (3) 学生主事補 (4) 学年主任 (5) 専攻科長補佐 (6) 学級担任及び担任補佐 (7) 学生支援室長 (8) 学生課長 (9) その他校長が必要と認めた者	学生主事	学生課

寮務委員会	<p>寄宿舍生の生活指導及び教育に関し、校長から諮問された事項及び寮務主事が必要と認めた事項を審議する。</p> <p>学寮の生活指導等に関する学生支援の状況について、自己点検評価改善及び機関別認証評価に関する事項について審議する。</p>	<p>(1)副校長 (2)寮務主事、教務主事及び学生主事 (3)寮務主事補 (4)寮監 (5)学生課長 (6)その他校長が必要と認めた者</p>	寮務主事	学生課
研究推進委員会	<p>共同研究等研究活動、地域貢献活動（主として研究活動に限る。）及び産業界等との連携・協力の実施に関し、校長から諮問された事項及び研究主事が必要と認めた事項を審議する。</p> <p>産学官金連携や地域連携等に関する状況について、自己点検評価改善及び機関別認証評価に関する事項について審議する。</p>	<p>(1)研究主事 (2)副研究主事 (3)研究主事補 (4)共同研究推進センター副センター長 (5)事務部長 (6)その他校長が必要と認めた者</p>	研究主事	総務課
情報委員会	<p>独立行政法人国立高等専門学校機構情報セキュリティポリシー対策規則（機構規則第98号）第22条第2項に規定する事項を行う。</p>	<p>(1)情報セキュリティ推進責任者 (2)情報処理センター長 (3)各学科及び教養教育科から選出された者 (4)その他校長が必要と認めた者</p>	情報セキュリティ推進責任者	学生課
図書・文化委員会	<p>図書館の運営及び図書館が主催する文化的な事業に関し、校長から諮問された事項及び図書館長が必要と認めた事項を審議する。</p>	<p>(1)図書館長 (2)学生課長 (3)各学科及び教養教育科から選出された者 (4)その他校長が必要と認めた者</p>	図書館長	学生課

安全衛生委員会	<p>校長の諮問に応じ、次の事項について審議する。</p> <p>(1) 教職員の健康障害を防止するための基本とするべき対策に関すること。</p> <p>(2) 教職員の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策に関すること。</p> <p>(3) 労働災害の原因及び再発防止対策で、衛生に係るものに関すること。</p> <p>(4) 前3号に掲げるもののほか、教職員の健康障害の防止及び健康の保持増進に関する重要事項。</p> <p>(5) その他校長が必要と認める事項に関すること。</p>	<p>(1) 副校長</p> <p>(2) 研究主事</p> <p>(3) 衛生管理者</p> <p>(4) 産業医</p> <p>(5) 事務部長</p> <p>(6) 総務課長</p> <p>(7) 安全衛生に関し経験を有する者のうちから校長が指名した者 (ただし、(2)から(7)までの委員の半数については、教職員の過半数を代表する者の推薦に基づく者とする。)</p>	副校長	総務課
ハラスメント防止等対策委員会	<p>(1) ハラスメントを防止し、排除するための広報、啓発活動及び研修の企画並びに実施すること。</p> <p>(2) ハラスメントに起因する問題に係る対策のうち、特に重要と考えられるものに関すること。</p> <p>(3) ハラスメントに係る概要の公表に関すること。</p> <p>(4) その他ハラスメントの防止等に関し、必要と認められる事項。</p>	<p>(1) 副校長</p> <p>(2) 主事及び専攻科長</p> <p>(3) 学生支援室長</p> <p>(4) 総務課長</p> <p>(5) 教職員の過半数代表者</p> <p>(6) その他校長が必要と認めた者</p>	副校長	総務課
進路支援委員会	<p>学生の進路支援に関し、校長から諮問された事項を審議する。</p>	<p>(1) 学科長及び教養教育科長</p> <p>(2) 専攻科長補佐</p> <p>(3) その他校長が必要と認めた者</p>	校長が指名した者	学生課

<p>員会 全国高専共同利用マテリアル分析センターマネジメント委</p>	<p>(1) センターの業務計画並びに機器、設備の管理運営及び連絡調整に関すること。  (2) センターに導入されている設備機器の管理運営及び保守に関すること。  (3) 学内共同利用及び学外共同利用の推進に供すること。  (4) 共同利用者に対し、施設の利用に関する技術的支援及び必要な情報の提供等の支援に供すること。  (5) その他センターの運営に必要な事項。</p>	<p>(1) 研究主事（センター長）  (2) 共同研究推進センター長  (3) 共同研究推進センター副センター長  (4) 広報室長  (5) 情報処理センター長  (6) 国際交流室長  (7) 教育研究支援センター長  (8) GEAR5.0 推進担当長  (9) その他センター長（研究主事）が必要と認めた者</p>	<p>研究主事</p>	<p>総務課</p>
--	---	--	-------------	------------

○ 鈴鹿工業高等専門学校自己点検評価・改善委員会規則

〔 令和7年2月5日  
規則第123号 〕

最終改正令和7年6月4日

鈴鹿工業高等専門学校自己点検評価・改善委員会規則

(設置)

第1条 鈴鹿工業高等専門学校運営規則第4条第2項の規定に基づき、鈴鹿工業高等専門学校自己点検評価・改善委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

- (1) 自己点検評価に関する基本方針の検討に関すること
- (2) 自己点検評価の実施計画に関すること
- (3) 自己点検評価及び改善に関すること
- (4) 自己点検評価の結果の公表に関すること
- (5) その他自己点検評価に関すること

2 鈴鹿工業高等専門学校の年度計画における自己点検評価は、毎年度実施する。

3 高等専門学校評価基準（機関別認証評価）に基づいた自己点検評価は、7年以内ごとに1回実施する。

4 その他自己点検評価の実施に関する事項は、別に定める。

(組織)

第3条 委員会は次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 副校長
- (2) 主事及び専攻科長
- (3) 学科長及び教養教育科長
- (4) 事務部長
- (5) その他委員長が必要と認めた者

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、副校長をもって充てる。

2 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

(事務)

第5条 委員会に関する事務は、総務課において処理する。

(雑則)

第6条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会の議を経て委員長が定める。

附 則

- 1 この規則は、令和7年2月5日から施行する。
- 2 鈴鹿工業高等専門学校自己点検評価・改善委員会実施要項（平成30年2月7日裁定）は廃止する。

附 則

この規則は、令和7年6月4日から施行し、令和7年4月1日から施行する。

## 鈴鹿工業高等専門学校運営諮問会議規則

〔平成27年12月9日〕  
規則第100号

最終改正令和7年6月4日

### 鈴鹿工業高等専門学校運営諮問会議規則

#### (設置)

第1条 独立行政法人国立高等専門学校機構鈴鹿工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、本校の学校運営の充実・発展に資することを目的として、運営諮問会議（以下「諮問会議」という。）を置く。

#### (任務)

第2条 諮問会議は、次の各号に掲げる事項について、校長の諮問に応じて審議・評価し、校長に対して提言、助言又は勧告等を行う。

- (1) 本校の教育研究上の目的を達成するための基本的な計画に関する重要事項
- (2) 本校の教育研究活動等の状況について、本校が行う点検・評価に関する重要事項
- (3) その他本校の運営に関する重要事項

#### (組織)

第3条 諮問会議は、校長が委嘱した次の各号に掲げる若干名の委員で組織する。

- (1) 高等教育機関及び研究機関に在職する者
- (2) 産業界及び地方公共団体等の関係者
- (3) 本校の卒業生
- (4) その他本校に関し学識及び経験を有する者

2 前項の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

#### (議長)

第4条 諮問会議に議長を置き、前条第1項第1号の委員のうちから、あらかじめ校長が指名する者をもってあてる。

2 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名する委員が、その職務を代行する。

#### (諮問会議の開催)

第5条 諮問会議は、校長が招集する。

- 2 諮問会議は、少なくとも年1回開催するものとする。
- 3 諮問会議は、必要に応じて専門委員会を置くことができる。
- 4 諮問会議が必要と認めたときは、委員以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。

#### (守秘義務)

第6条 委員は、その役割を遂行する上で知り得た情報を漏えいしてはならない。

#### (庶務)

第7条 諮問会議の庶務は、総務課において処理する。

#### (補則)

第8条 この規則に定めるもののほか、諮問会議の運営に関し必要な事項は、諮問会

議が定める。

附 則

- 1 この規則は、平成 27 年 12 月 9 日から施行する。
- 2 鈴鹿工業高等専門学校外部評価委員会規則(平成 16 年 9 月 6 日制定鈴鹿工業高等専門学校規則第 67 号) は、廃止する。

附 則

この規則は、令和 7 年 6 月 4 日から施行し、令和 7 年 4 月 1 日から適用する。

令和7年度自己点検評価\_\_外部評価\_\_アンケート等の実施計画

評価（評価期間） / 年度			H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
中期目標・中期計画 (5年間)	(実務責任者:点検評価担当長)		第3期			第4期					第5期		
JABEE→令和元年度まで (6年間)※継続審査受審なし	(実務責任者:プログラム責任者)		継続審査受審			継続審査未受審		令和元年度でJABEE認定取りやめ					
認証評価 (7年以内)	(実務責任者:点検評価担当長)		自己評価書試行版* *線上受審			認証評価受審*		認証評価報告書 (Web公開)			自己評価書試行版*	認証評価受審	認証評価報告書 (Web公開)
学外関係者へのアンケート調査	実施担当 (実施・まとめ・分析) 点検評価担当長	実施方法 / 集計											
運営諮問会議		総務課	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○
専攻科修了生上司 (対象修了年度)	自己点検評価・改善委員会 (点検評価担当)	Web 情報処理センター	● (H25~27)			● (H28~29)						○	○
学科卒業生上司 (対象卒業年度)	自己点検評価・改善委員会 (点検評価担当)	Web 情報処理センター	● (H26)		● (H28)			● (R1)				○	
専攻科修了生 (対象修了年度)	自己点検評価・改善委員会 (点検評価担当)	Web 情報処理センター		● (H25)			● (H27)				● (H30)		○ (R3)
学科卒業生 (対象卒業年度)	自己点検評価・改善委員会 (点検評価担当)	Web 情報処理センター		● (H25)			● (H27)				● (H30)		○ (R3)
インターンシップ評定書による評価	教務委員会 専攻科分科会		●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○
在学生保護者 (5月実施保護者懇談会で意見等聴取)	自己点検評価・改善委員会 (点検評価担当)	総務課	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○
学内関係者へのアンケート調査													
学校の目的の周知(教職員・非常勤講師) (自己点検評価に関する意見等聴取含む)	自己点検評価・改善委員会 (点検評価担当)	総務課	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○
3つの方針(3つのポリシー)	自己点検評価・改善委員会 (点検評価担当)	総務課	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○
授業アンケート・学習時間(全学生)	教務委員会(FD担当)		●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○
達成度評価(年度当初:1年, 専1除く)	自己点検評価・改善委員会 (点検評価担当)	Web 情報処理センター	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○
満足度等評価・達成度評価 (卒業(修了)予定者)	自己点検評価・改善委員会 (点検評価担当)	Web 情報処理センター	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○
学生との意見交換会	自己点検評価・改善委員会 (点検評価担当)	各科・専攻科	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○
一般・専門科目教員間・科目間連携	教務主事補	科目・学科	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○

3年に一度、テクノプラザ  
会員に対して鈴鹿高専に  
対するアンケートを実施

令和6年度 運営諮問会議委員名簿

【学外委員】

氏名	現職等	区分
ジンボ 神保 睦子	豊橋技術科学大学 理事・副学長（総括、高専連携担当） 高専連携地方創生機構長	高等教育機関 及び研究機関等
ツルハラ 鶴原 清志	三重大学 理事・副学長（教育担当）	高等教育機関 及び研究機関等
スズキ 鈴木 宏治	鈴鹿医療科学大学 副学長・社会連携研究センター長	高等教育機関 及び研究機関等
コバヤシ 小林 茂樹	SUZUKA産学官交流会 副会長 株式会社SANKEI 専務取締役	産業界及び 地方公共団体等
タキモト 瀧本 和彦	株式会社百五総合研究所 理事（コンサルティング事業部部长）	産業界及び 地方公共団体等
スキノ 杉野 浩二	鈴鹿市 副市長	産業界及び 地方公共団体等
コナカ 小中 敏克	鈴鹿高専テクノプラザ 会長 旭電気株式会社 元常務取締役	本校卒業生
ハヤマ 羽山 哉美	鈴鹿市中学校長会 会長 鼓ヶ浦中学校 校長	本校に関する 学識及び経験
タナカ 田中 堅	鈴鹿工業高等専門学校教育後援会 会長	本校に関する 学識及び経験

(敬称略)

【学内委員】

氏名	現職等
フジモト 藤本 慎司	鈴鹿工業高等専門学校 校長
シモルヤ 下古谷 博司	鈴鹿工業高等専門学校 副校長
タノエ 田添 丈博	鈴鹿工業高等専門学校 教務主事（校長補佐）
ナカモト 仲本 朝基	鈴鹿工業高等専門学校 学生主事（校長補佐）
フナコシ 船越 一彦	鈴鹿工業高等専門学校 寮務主事（校長補佐）
ヒライ 平井 信充	鈴鹿工業高等専門学校 研究主事（校長補佐）
ヤマグチ 山口 雅裕	鈴鹿工業高等専門学校 専攻科長（校長補佐）
カワムラ 河村 俊男	鈴鹿工業高等専門学校 事務部長

## 令和6年度第2回自己点検評価・改善委員会 兼 第3回 PDCA 推進会議 議事概要

日時： 令和7年3月6日（木）13:50～14:20

場所： 会議室B

出席者： ■■■■■ 副校長（PDCA 推進担当長）、■■■■■ 教務主事、■■■■■ 学生主事、■■■■■ 寮務主事、  
■■■■■ 研究主事、■■■■■ 専攻科長（点検評価副担当長）、■■■■■ 副専攻科長、■■■■■ 学科長(M)、  
■■■■■ 学科長(E)、■■■■■ 学科長(I)、■■■■■ 学科長(C)、■■■■■ 教養教育科長、■■■■■ 事務部長、  
■■■■■ 点検評価担当員、■■■■■ 点検評価担当員、■■■■■ 点検評価担当員、■■■■■ 点検評価担当  
員、  
■■■■■ 総務課長、■■■■■ 学生課長、総務企画係

## 議題

## 1. 委員会・PDCA 推進会議報告

## (1) 委員会の体制の見直し等について

■■■■■ PDCA 推進担当長から、資料 1-1 に基づき、「自己点検評価・改善委員会実施要項」を廃止し、新たに「自己点検評価・改善委員会規則」及び「教育の質保証に関する基本方針」を制定したことについて説明があった。

## (2) 令和7年度 点検評価・改善活動(PDCA サイクル)(案)について

■■■■■ PDCA 推進担当長から、資料 1-2 に基づき、令和7年度の点検評価・改善活動(PDCA サイクル)に関する説明があった。特に、新しい表ではサイクルが翌年5月まで継続するよう修正されたことが報告された。

## (3) 令和7年度自己点検評価・外部評価・アンケート等の実施計画

■■■■■ PDCA 推進担当長から、資料 1-3 に基づき、次年度の自己点検評価・外部評価・アンケート等の実施計画に関する説明があった。また、来年度は専攻科修了生及び学科卒業生の上司へのアンケートの実施、および機関別認証評価の受審が予定されていることが報告された。

## (4) その他

なし

## 2. 点検評価担当報告

## (1) 令和6年度 自己点検評価報告書(案)について

■■■■■ 副点検評価担当長から資料 2-1 に基づき、自己点検評価報告書に関する説明があった。

## (2) 令和6年度 機関別認証評価自己評価書(暫定版)について

■■■■■ 副点検評価担当長から資料 2-2 に基づき、機関別認証評価自己評価書(暫定版)について説明があった。また、本暫定版は、今後、大学改革支援・学位授与機構が実施する第1回目の事前相談へ提出する予定であることが報告された。

## (3) 令和6年度「学生との意見交換会」における意見等に対する対応実績のまとめについて

■■■■■ 副点検評価担当長より、資料 2-3 に基づき説明があり、学生の要望への対応について、各主事、学生課および総務課からの回答を Moodle にて学生へ公開したことが報告された。また、次年度は公開時期を早める予定であることも報告された。

## (4) 令和6年度「学習・教育到達目標」の達成度評価アンケート調査について

■■■■■ 副点検評価担当長より、資料 2-4 に基づき、アンケートの集計結果について説明があった。分析の結果、学年が上がるにつれて達成度の数値が向上する傾向が見られたことが確認された。

## (5) 令和6年度 専攻科修了予定者、学科卒業予定者への「学習・教育到達目標」の

達成度及び満足度等に関するアンケート調査について

■■■■副点検評価担当長から資料 2-5 に基づきアンケートの集計結果に関する説明があった。

(6) 点検評価・改善活動について

■■■■副点検評価担当長より、資料 2-6 に基づき、本年度の点検評価・改善活動が予定通り実施されたことが報告された。

(7) その他

■■■■副点検評価担当長より、試験答案の保管について、引き続き徹底して実施するよう依頼があった。

3. その他

なし

## 令和6年度第1回点検評価担当者会議議事要旨

日 時：令和7年3月27日（木）13:30～14:40

場 所：会議室B

出席者：■■■（担当長）、■■■（副担当長）、■■■（M）、■■■（E）、■■■（I）、■■■（C）、■■■（S）、■■■（G）、■■■（G）、■■■（G）、■■■事務部長、■■■（総務課）、■■■（学生課）、■■■

欠席者：■■■（G）

## 事項

## 1. 令和6年度の活動について

■■■担当長より、令和6年度の活動結果及び令和7年度の活動について、事項書に基づき以下のとおり説明があった。

- (1) 鈴鹿高専の目的の周知に関するアンケート調査(4/5～4/21 に実施)
  - ・ 回答数：147件(回答率99%)、結果は昨年と同様で概ね良好(4、5が80%以上)。
- (2) 学生との意見交換会
  - ・ 6月～11月に各科・専攻科で実施した。
  - ・ 対応結果を2月10日にMoodleにて公開した。
- (3) 答案保管状況のチェック
  - ・ ¥¥azami¥data¥r05への答案保管状況（専攻科，非常勤を含む）の確認を行った。
- (4) 自己点検評価報告書の作成
  - ・ 主に総務課により報告書原案（資料を含む）を作成 → 点検評価担当による確認 → 自己点検評価・改善委員会メンバーによる確認 という流れで作成した。
- (5) 学習・教育到達目標の達成度評価アンケート
  - ・ 例年同様、年度末に実施した。
  - ・ 昨年度からを減らし、アンケートの項目を統合し実施した。（3学年以上は現行のまま実施）
- (6) 卒業（専攻科修了）予定者満足度評価・達成度評価のアンケート
  - ・ 例年同様，年度末に実施した。
  - ・ 本科の回答数は185名（回答率：96%）、専攻科の回答数は25名（回答率：93%）
  - ・ 結果について、語学力(英語)や情報技術(プログラミング)についてあまり満足していない学生の割合が高いことから、高学年になるにつれて資格取得に重点が置かれるため、研究発表等で使えるようになることを目指す学生は不満に思う傾向にあるかもしれないことや、継続的な情報教育が必要であること等が議論された。

## 2. 令和7年度の活動について

## (1) 鈴鹿高専の目的の周知に関するアンケート調査

・ 例年同様、4月に実施する。教職員は4/4(金)の教職員会議で周知し Forms により回答収集、学生は1年学級担任より4/7(月)のオリエンテーションでマークシート配布、回収。

## (2) 学生との意見交換会

・ 前期中間試験後から夏休み前までを目途に実施し、年度内にPDCAサイクルを回せるようにする。各科での対応実績も夏休みまでにまとめる。

## (3) 答案保管状況のチェック

- ・ ¥¥azami¥data¥r07 答案保管状況（専攻科，非常勤を含む）の確認を行う。
- ・ 認証評価に向けて令和5,6年度の答案の収集を徹底するほか、試験問題同一性チェックのため下記への試験問題保管も点検し、特に試験問題保管については同一性チェックおよび教員へのフィードバックが必要なため4月早々の完全収集を目指すことから、■■■■担当長より、各科の点検評価担当者から保管率の低い教員へ個別にリマインドするよう依頼があった。

¥¥aspen¥group¥share¥試験問題点検

## (4) 自己点検評価報告書の作成

令和7年度についても、以下のスケジュールで自己点検評価報告書を作成する。

- ・ 11月上旬：主に総務課により、中間報告を元にした報告書原案（資料を含む）の完成
- ・ 12月中旬：点検評価担当によるチェック・修正
- ・ 1月中旬：自己点検評価・改善委員会メンバーによる確認
- ・ 3月：運営諮問会議で報告
- ・ 令和7年度自己点検評価報告書作成の担当について

■■■■担当長より、自己点検評価報告書作成の担当について以下のとおりとする旨提案があり、承認された。

事項	担当 (R6)	担当 (R7)
3.1-(1) 入学者の確保	■■■■	■■■■
3.1-(2) 教育課程の編成等	■■■■	■■■■
3.1-(3) 多様かつ優れた教員の確保	■■■■ ■■■■	■■■■ ■■■■
3.1-(4) 教育の質の向上及び改善	■■■■	■■■■
3.1-(5) 学生支援・生活支援等	■■■■ ■■■■	■■■■ ■■■■
3.1-(6) 教育環境の整備・活用	■■■■	■■■■
3.2 社会連携に関する目標	■■■■ ■■■■	■■■■ ■■■■
3.3 国際交流に関する目標	■■■■	■■■■
4 業務運営の効率化に関する事項	■■■■	■■■■

5 財務内容の改善に関する事項		
6 剰余金の使途		
7 その他業務運営に関する事項		

## (5) 学習・教育到達目標の達成度評価アンケート

- ・昨年度に引き続き Forms による回答からマークシートによる回答で実施。来年度の改善点としては、学年別にマークシートを用意すること、名前の後に学籍番号を書く欄を設けること等が挙げられた。

## (6) 卒業（専攻科修了）予定者満足度評価・達成度評価のアンケート

- ・昨年度に引き続き Forms による回答からマークシートによる回答で実施。

## (7) 卒業生・修了生へのアンケート

- ・テクノプラザ会員企業にアンケートを実施。

## (8) 認証評価の受審について

- ・認証評価受審年度にあたるので、自己点検書の作成等の準備が必要である。
- ・3/14(金)の学位授与機構による事前相談の結果に早急に対応。4月14日(月)までに資料をそろえる。

(4月下旬に学位授与機構へアップロード、5/12(月)の週に2回目事前相談)

- ・下記フォルダ内の「01\_R7\_【鈴鹿高专】\_様式 1\_自己評価書「本文編」(基準)\_改正対応.xlsx」へ記入。

¥aspen¥group¥share¥各種委員会¥点検評価部会¥08\_認証評価¥R07 認証評価関連¥自己評価書(R07)¥様式 1\_自己評価書「本文編」(基準)

資料右上には資料番号、右下には出典を記入。

備考欄(D列)に資料の補足説明(審査員に述べたいこと)を記入。どういう根拠でこの資料を挙げたのかを入れるのが望ましい。

資料の向きを修正(横向き資料を縦向きに)

※規則・規定の制定、改定が必要な箇所については「認証評価コアメンバー」で検討

## ・自己点検書分担案

事項	担当 (R7)	基準数等
領域 1 教育の内部質保証システム	■■■■■	基準数 3・観点数 10・ 点検評価項目数 17
領域 2 教育組織及び教員・教育支援者等	■■■■■	基準数 5・観点数 13・ 点検評価項目数 20
領域 3 学習環境及び学生支援等	■■■■■	基準数 2・観点数 9・ 点検評価項目数 29
領域 4 財務基盤及び管理運営	■■■■■	基準数 5・観点数 10・

		点検評価項目数 22
領域5 準学士課程の教育活動の状況	■■■■■ ■■■■■	基準数 11・観点数 26・ 点検評価項目数 54
領域6 専攻科課程の教育活動の状況	■■■■■ ■■■■■	基準 6-1～6-6 基準 6-7～6.11 基準数 11・観点数 27・ 点検評価項目数 49
合計		基準数 37・観点数 95・ 点検評価項目数 191

令和6年度「学生との意見交換会」における意見等およびそれらに対する対応  
 機械工学科 参加者内訳：学科各学年代表10名、機械工学科教職員9名【2024年6月13日 16:20～18:30実施】

	学生の意見・要望	学科・専攻科対応(予定)事項	学科・専攻科対応事項 対応実績	学校への要望(予定)事項 委員会・部会への要望事項	学校への要望事項 対応実績 委員会・部会への要望事項 対応実績
1. 学習・教育到達目標及び3つのポリシーの内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習・教育到達目標が教室に掲示してあることは知っている。(全学年)</li> <li>・学習・教育到達目標は、年度初めのオリエンテーションや授業の初めに説明があった。部分的に知っているが、あまり覚えていない。(2～5年)</li> <li>・アドミッションポリシーは大体知っているが、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーはよく知らない(1年)</li> </ul>	年度当初のオリエンテーションで説明済みのはずだが、再度、機会をみて学級担任から周知する。	学級担任、授業担当教員から改めて周知した。		
2. 授業等に関して学生を支援するシステム(シラバス、オフィスアワーズ、授業アンケート、資格・検定試験受験、進路指導など)について	<ul style="list-style-type: none"> <li>①GTECや技術英検を就活で使えるTOEICに統一した方がいい。(5年)</li> <li>②1年生対象のラポターを研究室配属前の3・4年次にも実施してほしい。(3、5年)</li> <li>③単位取得に関する欠課時数の制限をなくしてほしい。(5年)</li> <li>④授業アンケートの結果を知りたい。(5年)</li> <li>⑤オンライン授業を導入してほしい。(5年)</li> <li>⑥事前に授業スライド公開してほしい。(5年)</li> <li>⑦授業アンケートが科目によって匿名であったり、なかったりする。(4年)</li> <li>⑧大学のオープンキャンパスの日程を掲示してほしい。(3年)</li> <li>⑨資格試験を学校で受けたい。(2年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①それぞれターゲットとしている英語(ビジネス英語や技術英語など)があるため、一概には統一できない。</li> <li>②各研究室紹介ポスターをデザイン工房に展示している。中央階段に展示するなど掲示方法を考える。</li> <li>③単位取得規則が定められている。</li> <li>④学内専用ページに公開されている。</li> <li>⑤オンライン授業は高学年には好評で、低学年には不評だった。</li> <li>⑥指導方針によっては要望に沿えないこともある。</li> <li>⑦授業アンケートは統一されているものなので、確認する。</li> <li>⑧興味のある大学、先輩の進んだ大学を自分で調べ、確認した方が理解が深まる。</li> <li>⑨団体受検が可能となる人数が集まるようならば、相談してみれば、可能性はある。</li> </ul>	左記の通り	<教務> ⑦は昨年度のことだそうですので、確認してほしい。	⑦(教務係回答)同じ人が複数回答するのを防ぐためにFormsでアカウントを収集していますが、集計においては匿名にしています。
3. 教育環境および学生を支援するシステム(学級担任制、学生相談室、厚生施設、学寮、図書館、自主学習スペース、コンピュータなど)について	<ul style="list-style-type: none"> <li>①研究室でwifiが使いたい。(5年)</li> <li>②陸上競技場に土を入れてほしい。(5年)</li> <li>③M科棟両側の階段の水はけを良くするように直してほしい。(4、5年)</li> <li>④イノベーションセンターの通路の屋根が雨漏りするので、修理してほしい。(5年)</li> <li>⑤情報処理センターのパソコンにone driveを入れてほしい。(4年)</li> <li>⑥図書館が暑い。(4年)</li> <li>⑦鹿の湯で低学年がうるさい。(4年)</li> <li>⑧情報処理センターの演習室①でもwifiが使いたい。(3年)</li> <li>⑨M科の駐輪場の屋根を直してほしい。(3年)</li> <li>⑩自転車か風で倒れるので、M科の駐輪場に自転車スタンドをつけてほしい。(3年)</li> <li>⑪寮の点呼パソコンが古いので新しくしてほしい。(3年)</li> <li>⑫M科は女子更衣室を使っていないので、管理委員から外してほしい。(3年)</li> <li>⑬ほうきの埃取り器が欲しい。(2年)</li> <li>⑭5月下旬でも教室が暑い。(2年)</li> <li>⑮1・2階に手洗い場をつけてほしい。(1、2年)</li> <li>⑯教室に冷蔵庫が欲しい。(2年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①、⑧wifiスポット、エリアを増やしてもらうよう、学校に依頼する。</li> <li>②クラブから学校側に依頼してもらう。</li> <li>③M科棟両側の階段に水が溜まらないような修繕を学校に依頼する。</li> <li>④イノベーションセンターの通路の屋根の修繕を学校側に依頼する。</li> <li>⑤セキュリティの観点から、入れることはできないと伝えた。</li> <li>⑥、⑮遮光遮熱シートを活用することも考えられる。</li> <li>⑦教育寮ではあるが学生主体の自治が基本なので、寮長・寮役員でまずは対応する。</li> <li>⑨、⑩M科の駐輪場の改善・修繕を学校に依頼する。</li> <li>⑪寮の点呼パソコンについて寮で検討してもらう。</li> <li>⑫女子更衣室委員会で学生から提案する。</li> <li>⑬適切なものがあれば、学生課に伝えてもらう。</li> <li>⑭手洗い場設置を学校に依頼する。</li> <li>⑯クーラーバッグをつかい、お弁当の食中毒予防に努めるほしいと伝えた。</li> </ul>	左記の通り	<教室> ⑮ <情報処理センター> ①、⑧ <施設> ③、④、⑨、⑩、⑮ <寮務> ⑦、⑪ <図書館> ⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>①⑧(図書情報係回答)学内計画に基づき、令和7年7月以降に順次アクセスポイントを増設予定です。</li> <li>③(施設係回答)M科棟両側の階段の改善については構内の環境整備のひとつとして、予算の範囲内で学内整備順位を上げられるかも検討したうえで、対応していきたいと考えている。</li> <li>④(施設係回答)イノベーション交流プラザの通路屋根の改善については構内の環境整備のひとつとして、予算の範囲内で学内整備順位を上げられるかも検討したうえで、対応していきたいと考えている。</li> <li>⑥(図書情報係回答)エアコンについては、夏季は室温28℃以下になるように設定温度を適宜調節していますので、ご理解ください。</li> <li>⑦(寮務係回答)寮生会など寮生間の話し合いで解決して欲しい。お互いが気持ちよく使用できるよう思いやりの気持ちを持って欲しい。</li> <li>⑨⑩(施設係回答)M科棟の駐輪場の屋根については劣化状況等を確認し必要であれば修理等進めていきたいと考えている。自転車スタンドについては厳しい財政状況のなか整備することは難しい状況である。</li> <li>⑪(寮務係回答)第1青峰寮寮生の点呼用パソコンの事と思われるが、当該パソコンは令和6年3月に購入したパソコンであるので、しばらく更新は難しい。(男子寮の点呼用パソコンは、基本委託寮生が操作している)</li> <li>⑬(学生支援係回答)学生課の窓口に問い合わせください。</li> <li>⑮(施設係回答)施設の構造上、排水を接続することが困難なため現状、手洗い場を設置することは厳しい状況である。</li> </ul>
4. 教育に対する学生の満足度	5年:67.8%;実験レポートが大変。幅広く学べる。 4年:80%;特に不満はない。 3年:70%;テストのレベルが先生によって違う。 2年:70%;概ね満足。 1年:70%;まだあまりよく分かっていない。				
5. その他	なし				

## 令和6年度学生との意見交換会のまとめ

令和6年度「学生との意見交換会」における意見等およびそれらに対する対応

電気電子工学科 参加者内訳:1E 2名, 2E 2名, 3E 2名, 4E 3名, 5E 2名(計11名) 教員:山田伊、川口、西村高 7月4日(木)14:30 ~15:30

	学生の意見・要望	学科・専攻科対応(予定)事項	学科・専攻科対応事項 対応実績	学校への要望(予定)事項 委員会・部会への要望事項	学校への要望事項 対応実績 委員会・部会への要望事項 対応実績
1. 学習・教育到達目標及び3つのポリシーの内容について	1E 学生便覧のみに書いてあるので目にする機会が少ない。 2E うっすらとは知っている 3E 知っている 4E 理解している4人 知っているが、内容までは覚えていない24人 知らない7人 (35/39) 5E アドミッションポリシー ディプロマポリシー カリキュラムポリシーについてうっすらと覚えている。				
2. 授業等に関して学生を支援するシステム(シラバス、オフィスアワー、授業アンケート、資格・検定試験受験、進路指導など)について	1E ①資格に関する知識やアドバイスがあると良い。 1年なのであまりわからない。 2E ②授業内容を試験範囲にして欲しい。 授業のペースが早い、 声を大きくして欲しい(聞こえづらい) ③乙4や数検などの検定会場となって欲しい 3E ④電験の講習会を開いてほしい 4E 進路指導が丁寧で助かってます 5E ⑤授業アンケート忘れてしまう。めんどくさい。 ⑥試験前日に休みがあるのはありがたい。土日はさんでほしい。 ⑦授業を午前か午後どっちかに固めてほしい。 ⑧オンライン授業を増やしてほしい。	1E ①電気工事士や電験については、E科の授業や実験内で説明等を行っています。電気工事士の講習会は年に2回、放課後に実施しています。しかし1年生の専門科目がほとんどないことから、これらに加え1Eものづくり実習にて、資格についての説明を行うこととしました。英語、数学、国語等に係る資格についても、1年生からアドバイス等が欲しいという意見があったことを、学科長より教養の先生に伝えてもらいます。 2E ②左記の意見があったことを、教養の先生に学科長より伝えていただきます。 ③数検等の団体受験を実施して欲しいという意見があったことを、学生課に伝えます。また、教養の先生に学科長より伝えていただきます。 3E ④筆記試験のため講習会はありませんが、電気電子工学科の各授業で対応しています。 5E ⑤学校として必要なことなので協力をお願いします。多くの授業で授業開始時に時間をとっていると思います。その時間を使って回答してください。また、E科の教員にはアンケート回答の時間を確保してもらうよう、改めて周知します。 ⑥左記の意見があったことを学生課に伝えます。 ⑦左記の意見があったことを学生課に伝えます。 ⑧左記の意見があったことを学生課に伝えます。	左記の対応を行いました	学生課 ③⑥⑦⑧	③(教務係回答)教養学科(数学科や理科)からの意見があれば、検討いたします。 ⑥(教務係回答)意見として承ります。授業回数の制限や学校全体の行事予定の関係があるため、調整は難しくなります。なお、試験前日は、休みではなく、授業予備日です。期間中に補いきれない授業があった場合、授業振替日となります。 ⑦(教務係回答)教員の調整の必要があり限度があります。 ⑧(教務係回答)授業の特性上困難ですが、教務主事に意見として伝えます。

令和6年度「学生との意見交換会」における意見等およびそれらに対する対応

電気電子工学科 参加者内訳:1E 2名, 2E 2名, 3E 2名, 4E 3名, 5E 2名(計11名) 教員:山田伊、川口、西村高 7月4日(木)14:30 ~15:30

	学生の意見・要望	学科・専攻科対応(予定)事項	学科・専攻科対応事項 対応実績	学校への要望(予定)事項 委員会・部会への要望事項	学校への要望事項 対応実績 委員会・部会への要望事項 対応実績
<p>3. 教育環境および学生を支援するシステム(学級担任制, 学生相談室, 厚生施設, 学寮, 図書館, 自主学习スペース, コンピュータなど)について</p>	<p>1E ①利用方法がわかりにくいものがある。 図書館などについては比較的有効活用しているという意見が多く見受けられた。</p> <p>2E ②図書館の空調が効かず、暑い時がある。 ③図書館の電気がつかないデスクがある(交換して欲しい) ④教室の床(タイル)の交換、 ⑤WiFiが繋がりにくい日がある ⑥寮の網戸の交換</p> <p>3E ⑦図書館の椅子が少ない、試験前に静かに勉強するスペースがない</p> <p>4E ⑧集中して勉強できるスペースが少なく、4コマ後でも使える静かな自習スペースをもう少し増やしてほしい(第三合併やマルチメディア棟は騒がしい) ⑨情報処理センターを空きコマでも使えるようにしてほしい(授業で演習室が使われている時など後ろで使いたい) ⑩印刷しなくてはいけない資料(授業中に空欄に書き込むタイプの資料、タブレットを持たない学生は印刷している)を授業直前にアップしないで欲しい ⑪教室のエアコンが8:00~しかつけことが出来ず朝の教室が暑い</p> <p>5E ⑫研究室にもWi-Fiを飛ばしてほしい ⑬駐輪場の屋根を増やしてほしい ⑭図書館で借りれる本の冊数を増やしてほしい</p>	<p>1E ①イノベーション交流プラザ、起業家工房の利用方法について学生支援係に確認し、E科学生に周知します。また、試験前から試験終了までの期間、多目的学習室を自習用に開放してもらえないか学生支援係に希望を伝えます。</p> <p>2E ②室温をきちんと測定して、設定温度を調整して欲しい旨を図書館に伝えます ③左記の意見があったことを図書館に伝えます。また、学生は設備の不備を発見した場合は、直接図書館の事務の方に伝えてください。 ④タイルが剥がれている等の問題があることを学生課に伝えます。 ⑤左記の意見があったことを学生課に伝えます。 ⑥左記の意見があったことを寮事務に伝えます。</p> <p>3E ⑦左記の意見があったことを図書館に伝えます。 ⑦⑧図書館以外の静かに勉強できる自習スペースを増やして欲しいという意見があったことを学生課に伝えます。 3E以上の高学年については、放課後の教室は比較的静かとのことで、こちらを自習スペースとして有効利用してください。また、教室で自習するにあたり、試験前の時期はエアコン稼働時間を教室を施設する19時まで延長して欲しい旨を、学生課に伝えます。</p> <p>⑨あくまで「授業中」です。他学生の利用はできません。 ⑭左記の意見があったことを、教養の先生に学科長より伝えていただきます。 ⑩冷房が効きやすいよう、E科の先生に授業中エアコン使用時に窓とドアを開けてもらうよう周知します。</p> <p>5E ⑪左記の意見があったことを情報処理センターに伝えます。 ⑫左記の意見があったことを施設係に伝えます。 ⑬左記の意見があったことを図書館に伝えます。</p>	<p>左記の対応を行いました</p> <p>①多目的学習室の自習室としての利用はできないとの回答でした(学生支援係から)</p>	<p>学生課 ①④⑤⑦⑧</p> <p>図書館 ②③⑦</p> <p>寮 ⑥</p> <p>情報処理センター ⑪</p> <p>総務課 ⑫</p>	<p>①(教務係回答)第3合併教室を開放していますので、ぜひ利用してください。起業家工房については、高額な機械も置かれており、総務課総務企画係で利用者の受付を行なっています。</p> <p>②(図書情報係回答)エアコンについては、夏季は室温28℃以下になるように設定温度を適宜調節していますので、ご理解ください。</p> <p>③(図書情報係回答)図書館内の事務室に連絡いただければ、当日内に交換します。</p> <p>④(施設係回答)床のタイルの補修については学生課より修理伺いのほうを提出していただければ対応させていただきます。</p> <p>⑤(図書情報係回答)学内計画に基づき、令和7年7月以降に順次アクセスポイントを増設予定です。</p> <p>⑥(寮務係)第1青峰寮若しくは第4青峰寮における網戸全数の交換は工事費が膨大な金額となるので、学校の予算的に大変厳しいです。網の破れなど破損がある場合は、個別に寮事務室まで届け出してください。</p> <p>⑦(図書情報係回答)施設面積に見合う座席数となっていますのでこれ以上増やすのは難しいです。</p> <p>⑧(教務係)これ以上のスペースを確保することはできません。なお、総務課施設係にI科棟教室のエアコン停止時刻を19時に変更していただきました。</p> <p>⑩(図書情報係回答)学内計画に基づき、令和7年7月以降に順次アクセスポイントを増設予定です。</p> <p>⑫(施設係)駐輪場の屋根については建築基準法上届出が必要となり、また予算的にも厳しい状況のため設置することは困難である。</p> <p>⑬(図書情報係回答)⑬ご要望にお応えしたいところではありますが、学生の皆さんの読みたい本は新刊本や話題本などに集中しがちなところがあります。出来る限り沢山の学生に読みたい本が行き渡るよう、毎日図書館が利用できる授業期間中は貸出冊数を5冊までに制限しています。ごまめに返却・貸出を繰り返していただきますよう、ご理解よろしくお願います。なお、夏季休業期間前等の長期貸出については、10冊まで貸出冊数を増やしていますので是非ご利用ください。</p>
<p>4. 教育に対する学生の満足度</p>	<p>1E 非常に満足しているという意見が多かった。総じて満足している様子であった。</p> <p>2E 満足段階を3段階で表す。 3と回答したものがとてもよく満足しているものとする。 3...16人 2...21人 1...4人</p> <p>3E 満足している</p> <p>4E 満足である31人 満足でない4人 (35/39)</p> <p>5E 満足している</p>				
<p>5. その他</p>	<p>1E 特になし。</p> <p>2E 特になし。</p> <p>3E ①テスト最終日を2コマ目からにしてほしい(賛否あり)</p> <p>4E ②授業資料をダウンロードできるようにしてほしい(先生がダウンロードを禁止しているのではなく、Teamsの共有設定が間違っている) ③先生のテストの作り方を直してほしい(ChatGPTを使用して作成した問題) ④再試などで教室を使う時は事前にクラスに連絡してほしい(学年共通の科目で複数の学科が1つの教室で受験する場合に、使用する教室の学生に事前に連絡が欲しい 前期中間の再試で事前連絡がなかったため、他クラスの学生が入ってきて驚いた)</p> <p>5E ⑤学生イベントを増やしてほしい。 ⑥エアコン集中管理やめてほしい。 ⑦窓側に扇風機がないため蒸し暑い。 ⑧2コマしか授業がない日は午前か午後にとまとめてほしい。</p>	<p>1E</p> <p>2E</p> <p>3E ①左記の意見があったことを学生課に伝えます。</p> <p>4E ②左記の意見があったことを、教養の先生に学科長より伝えていただきます。 ③左記の意見があったことを、教養の先生に学科長より伝えていただきます。 ④左記の意見があったことを学生課に伝えます。また、教養の先生に学科長より伝えていただきます。</p> <p>5E ⑤行事が増えることで試験前の休みがなくなるなど、別の問題が生じる可能性があり、難しいです。 ⑥左記の意見があったことを学生課に伝えます。 ⑦左記の意見があったことを学生課に伝えます。 ⑧左記の意見があったことを学生課に伝えます。</p>	<p>左記の対応を行いました</p>	<p>学生課 ⑥⑦⑧</p>	<p>⑥(施設係)地球温暖化が問題視されている中で学校として省エネに取り組むことは必須事項であり、また昨今の光熱水費の高騰により予算の確保が厳しい状況であることを踏まえると集中管理を解除することはできません。</p> <p>⑦(施設係)ブラインドを閉めていただき全熱交換器(換気扇)を運転し適正にエアコンを使用いただければ室内環境は改善されるかと思えます。</p> <p>⑧(教務係)教員の調整の必要があり限度があります。</p>

## 令和6年度学生との意見交換会のまとめ

令和6年度「学生との意見交換会」における意見等およびそれらに対する対応

電子情報工学科 参加者内訳: 学生 10名(内回答のみ 0名)、教員 7名、 6月 24日 16:20 ~ 17:45

	学生の意見・要望	学科・専攻科対応 (予定)事項	学科・専攻科対応 事項 対応実績	学校への要望(予定)事項 委員会・部会への 要望事項	学校への要望事項 対応実績委員会・部会への要望事項対応実績
1. 学習・教育到達目標及び3つのポリシーの内容について	一部の学生は認知していないようだった。存在を知っているが、内容は完全に覚えてはいない。少しは知っている学生も一部いる。				
2. 授業等に関して学生を支援するシステム(シラバス、オフィスアワーズ、授業アンケート、資格・検定試験受験、進路指導など)について	<p>2-1.シラバスをもっとしっかり細かい所(成績の具体的な計算方法など)まで書いてほしい。</p> <p>2-2.提出物をはっきりと明示、紙媒体で提出する課題は事前に伝える事を義務付けて欲しい。といった意見があった。シラバスの更新に関する意見が多数を占めていた。</p> <p>2-3.平日だと部活やレポートなどで忙しいので、授業支援教室を休日に開いて欲しい</p> <p>2-4.国語の授業スライドをアップロードしてください。</p> <p>2-5.Moodle とteamsで資料配布を統一して欲しい。</p> <p>2-6.授業アンケートの効果を感ぜられない。</p> <p>2-7.シラバスは活用している。シラバスと実際のギャップがある科目がある。</p> <p>2-8.テスト問題で、難易度と配点のずれが大きい気がする科目がある。</p> <p>2-9.オフィスアワーズは意識していない。</p> <p>2-10.テストの出題範囲表が欲しい。</p> <p>2-11.創造工学演習でも、デザイン基礎のように研究費・活動費を少し出して欲しい。</p> <p>2-12.授業アンケートの結果を反映して欲しい</p> <p>2-13.特に理由がないなら授業アンケートを匿名にして欲しい</p> <p>2-14.授業振替の連絡方法を統一して欲しい</p> <p>2-15.ipad義務化になったのでペーパーレス化を進めてほしい。紙でほしい学生は印刷できる環境も作ってほしい</p> <p>2-16.オンライン授業の時に設定したスケジュール設定を切ってほしい</p> <p>2-17.不要チームの解散や削除をちゃんとしてほしい</p>			<p>2-1.教務係に周知してもらう</p> <p>2-2.教務委員会で検討、周知してもらう</p> <p>2-3.教務委員会で検討してもらう</p> <p>2-4.担当教員で線引きを明確にしてみたい、学生へ明示してもらう</p> <p>2-5.教務係に周知してもらう</p> <p>2-6.教務係に周知してもらう</p> <p>2-7.教務委員会で検討、周知してもらう</p> <p>2-8.教務委員会で検討してもらう</p> <p>2-9.教務係に周知してもらう</p> <p>2-10.教務委員会で検討してもらう</p> <p>2-11.教務委員会で検討してもらう</p> <p>2-12.教務係から周知してもらい、反映してもらう</p> <p>2-13.</p> <p>2-14.教務委員会で検討、周知してもらう</p> <p>2-15.教務委員会で検討、周知してもらう</p> <p>2-16.教務係に周知してもらう</p> <p>2-17.教務係に周知してもらう</p>	<p>2-1(教務係回答)教務委員会で周知するようにしますが、限度があります。</p> <p>2-2(教務係回答)教務委員会で周知するようにします。</p> <p>2-3(教務係回答)教員/講師/TAの勤務関係もあるため困難となります。</p> <p>2-4(教務係回答)教務委員会から周知します。</p> <p>2-5(教務係回答)教務委員会で周知します。</p> <p>2-6(教務係回答)教務委員会で周知します。</p> <p>2-7(教務係回答)教務委員会で周知します。</p> <p>2-8(教務係回答)教務委員会で周知します。</p> <p>2-9(教務係回答)教務委員会で周知します。</p> <p>2-10(教務係回答)教務委員会で検討します</p> <p>2-11(教務係回答)予算の関係上できかねます。</p> <p>2-12(教務係回答)教務委員会で周知するようにします。</p> <p>2-13(教務係回答)同じ人が複数回答するのを防ぐためにFormsでアカウントを収集していますが、集計においては匿名にしています。</p> <p>2-14(教務係回答)教務委員会で検討します</p> <p>2-15(教務係回答)印刷環境は売店、印刷局(教員のもとで利用してください)等で対応しています。ペーパーレス化については、教務委員会で周知します。</p> <p>2-16(教務係回答)教務委員会で周知します。</p> <p>2-17(総務企画係回答)不要チームについては、定期的にチェックをし不要なものは削除するよう担当者に周知を行う。</p>
3. 教育環境および学生を支援するシステム(学級担任制、学生相談室、厚生施設、学寮、図書館、自主学习スペース、コンピュータなど)について	<p>3-1.夏の図書館が暑い(複数名)</p> <p>3-2.実験室を土日にも入れるようにしてほしい。</p> <p>3-3.実験室の卓上ライトを全席に設置してほしい</p> <p>3-4.学習支援サポートを利用したいが部活・高専祭等で金曜しか行けないので、実施曜日を増やして欲しい。</p> <p>3-5.GW、冬休みなど1ヶ月以下の休みは学寮に滞在させて欲しい。</p> <p>3-1.図書館が暑い。</p> <p>3-6.運動場の雑草をどうにかして欲しい。</p> <p>3-7.プールを潰して新しい体育館を作ってフリースペースにして欲しい。</p> <p>3-8.前日に連絡を伝えず、1週間ほど前にしてほしい。</p> <p>3-9.評議委員会の開催日を、年間行事予定表に記載して欲しい。</p> <p>3-10.教室のホワイトボードペンを、詰め替えタイプに統一して欲しい。</p> <p>3-11.雨の日だけでも構わないので、白子駅から高専のシャトルバスが欲しい。</p> <p>3-12.MoodleやTeamsで情報を分散させないで欲しい</p> <p>3-13.Teamsで連絡にはメンションをして欲しい</p> <p>3-14.ホワイトボードを綺麗にしてもすぐに汚くなるので、どうにかしてほしい(なるべくなら書かない、書いてもすぐに消す等)</p> <p>3-15.(昨年度も提案した内容だが)落とし物案内などの、重要度の低い連絡にはメンションをつけなくて欲しい</p> <p>3-16.学食で弁当のみの利用をやめてほしい</p>	3-2.	3-2.1科教員での対応は難しい	<p>3-1.図書館で対応してもらう</p> <p>3-3.情報処理センターに検討してもらう</p> <p>3-4.教務係に検討してもらう</p> <p>3-5.寮務係での対応は難しい</p> <p>3-6.施設係で対応してもらう</p> <p>3-7.学校で検討してもらう</p> <p>3-8.学生課から学生会へ連絡、対応してもらう</p> <p>3-9.学生課から学生会へ連絡、対応してもらう</p> <p>3-10.教務係へ行ってください</p> <p>3-11.学校で検討してもらう</p> <p>3-12.教務係に周知してもらう</p> <p>3-13.情報処理センターで検討してもらう</p> <p>3-14.教務係へ行ってください</p> <p>3-15.情報処理センターから周知してもらう</p> <p>3-16.学校から周知してもらう</p>	<p>3-1(図書情報係回答)エアコンについては、夏季は室温28℃以下になるように設定温度を適宜調節していますので、ご理解ください。</p> <p>3-4(教務係回答)意見として承ります。担当教員と共有します。</p> <p>3-5(寮務係回答)寮に寮生が在寮する以上、教員寮監、委託寮監、学校職員、給食会社の方々の出勤が必要となるなど、予算面を含めて対応は難しい。</p> <p>3-6(施設係回答)運動場を整備することは予算的に厳しいため、定期的な草刈りや除草剤散布にて対応していきたいと考えている。</p> <p>3-7(施設係回答)学校内では建物を建てれる面積が決まっており、新たに建物を新築することはできません。</p> <p>3-8(学生支援係回答)学生会執行部へ対応するよう、連絡します。</p> <p>3-9(学生支援係回答)行事予定表は学校行事の予定等ですので、ご希望に沿うのが難しい状況です。</p> <p>3-10(教務係回答)すでに詰め替え用のペンもありますので、学生課にお持ちください。交換します。</p> <p>3-11(財務調達係回答)導入するための資金(予算面で厳しい)が無いのと、現状保有しているスクールバスの安全性の面からも導入は難しい。</p> <p>3-12(教務係回答)教務委員会で周知します。</p> <p>3-13(教務係回答)教務委員会で周知します。</p> <p>3-14(教務係回答)ホワイトボード用クリーナーを学生課で用意しており交換しますので、それを使用してください。</p> <p>3-15(学生支援係回答)消耗品などの落とし物は1カ月まとめて連絡するように令和6年12月より対応しています。</p> <p>3-16(学生支援係回答)軽食堂の利用制限は検討させていただきますが、ご希望に沿うのは難しいかと存じます。</p>
4. 教育に対する学生の満足度	<p>4-1.数学やプログラミングの課題でもっと難しい問題を数個用意して欲しい、もっと面白い授業をしてほしいという声もあった。</p> <p>4-2.二年生の前期後期の授業量バランスは見直してほしい</p>	<p>4-1.当該科目の教員へ通知して、対応を考えてもらう</p> <p>4-2.カリキュラム移行などの影響で2はこのようなバランスになってしまっている</p>	<p>4-1.科教員へは周知済み。対応を進めていく</p> <p>4-2.次年度以降から解消されていくと周知する</p>	<p>4-1.教務係+学科から周知してほしい</p> <p>4-2.教務委員会で検討、周知してもらう</p>	<p>4-1(教務係回答)教務委員会で周知いたしますが、授業アンケートでも回答いただきたい。</p> <p>4-2(教務係回答)教員の授業スケジュールの兼ね合いもあるため、困難な部分もありますが、教務委員会で周知いたします。</p>

令和6年度「学生との意見交換会」における意見等およびそれらに対する対応

電子情報工学科 参加者内訳：学生 10名(内回答のみ 0名)、教員 7名、 6月 24日 16:20 ~ 17:45

	学生の意見・要望	学科・専攻科対応 (予定)事項	学科・専攻科対応 事項 対応実績	学校への要望(予定)事項 委員会・部会への 要望事項	学校への要望事項 対応実績委員会・部会への要望事項対応実績
5. その他	5-1.体育の授業後は体操服で授業を受けさせてほしい、 5-2.無線LANをもっとどこでも繋がるようにしてほしい、 5-3.雨の日に別館に移動するとき用の傘を学校で用意して欲しいという声があった。 5-4.プールを直してほしい			5-1.学校で検討してもらう 5-2.情報処理センターで検討してもらう 5-3.学生支援係で検討してもらう 5-4.学校で検討してもらう	5-1(学生支援係回答)授業は制服または私服(3年以上は可)で体操服は認めていません。 5-2(図書情報係回答)学内計画に基づき、令和7年7月以降に順次アクセスポイントを増設予定です。 5-3(学生支援係回答)私用のために公費で購入(用意は)出来かねます。 5-4(施設係回答) プールの整備については維持管理のコストなどを考えると運用していくことができないため難しいです。

## 令和6年度学生との意見交換会のまとめ

令和6年度「学生との意見交換会」における意見等およびそれらに対する対応

生物応用化学科	意見聴取の方法: 1C: 対面 2C:対面 3C: 対面 4C:Forms 5C: Forms				
	学生の意見・要望	学科・専攻科対応(予定)事項	学科・専攻科対応事項 対応実績	学校への要望(予定)事項 委員会・部会への要望事項	学校への要望事項 対応実績 委員会・部会への要望事項 対応実績
1. 学習・教育到達目標及び3つのポリシーの内容について	<p>&lt;1C&gt;            (1)幅広い視野からの価値判断力という項目について継続して行ってほしい。            (2)60点という点数は高いと思ったが、上を目指すきっかけになるので、とても良いと思う。            (3)目標ができるので良いと思う            (4)3つのポリシーは理論的でわかりやすいです。            (5)わかりやすい。            (6)ポリシーに沿ってできていると思う。            (7)赤点が60点であり、危機感ができ、より勉強に取り組みようと思えるようになったため、良いと思う。            (8)テストで60点以上を叩き出すことは難しいのではと思っていたが、勉強しなくても思えていいなと思う。            &lt;3C&gt;            (9)内容を知らない            (10)気にしたことがない            (11)いいと思う</p>	(空白)	(空白)	(空白)	
2. 授業等に関して学生を支援するシステム(シラバス、オフィスアワーズ、授業アンケート、資格・検定試験受験、進路指導など)について	<p>&lt;1C&gt;            (1)手厚い支援を継続して行ってほしい。            (2)特に、検定試験において、気軽に、そして積極的に参加できることはすごく良い感じる。            (3)各先生方のオフィスアワーズがいつなのか知りたいです。            (4)将来役に立つので良いと思う            (5)学生に親切な仕組みでも助かっています。このまま続ければいいです。            (6)シラバスを見ておく授業が受けやすい。            (7)シラバスのおかげで授業が受けやすいと思う。            (8)個人ですぐに見ることができ、無くすこともないためいいと思う            (9)第一回目の授業でシラバスについて説明してもらえてあまり分からなかった成績の付け方もわかりやすく説明してもらえた。            (10)オフィスアワーズが行きにくい。            (11)授業サポートが少し分かりづらい            (12)授業によってノートを紙でとらなといけなかったりiPadで取らなといけなかったりで管理が大変なため統一して欲しい。            (13)英語以外の検定試験もやってほしい            (14)家が遠いので寮があって助かった。            (15)安心して勉強ができる            &lt;2C&gt;            (16)資格が取得しやすくなるようにTOEIC以外の資格試験の受験会場にもして欲しい(漢字検定、危険物取扱者試験乙種第4種など)。            (17)エッセイコンテストの強制参加の見直しをして欲しい。(レポート、再試験のある時期での実施により、予習・復習の時間が確保できない)            &lt;3C&gt;            (18)シラバスをもう少し見やすくしてほしい(見たいページにたどり着くのが大変)            (19)授業アンケートの結果をもっと反映させて欲しい            (20)授業アンケートの自己学習時間を記入する欄は何のためにあるのか？(いちいち覚えていない、単位は分、時間?)            (21)インターンシップや就職先の企業の一覧や進学先の大学の情報を低学年から見れるようにして欲しい            (22)オフィスアワーズを増やして欲しい            (23)シラバスと実際の授業進行が全く違う授業がある            (24)TOEICを勉強できるスペースをつかって欲しい(ヘッドフォンなどがあるリスニングが出来る部屋など)            (25)良いと思う</p>	(空白)	<p>(3)ホームページに記載されていますので、そちらで確認してください。または、先生へ直接尋ねてください。            (12)授業担当教員によって授業スタイルが異なります。まだ1年生ということで、高専の授業に慣れていないかと思いますが、授業をうける経験が増えてくると、板書の取り方に慣れてくると思います。            (13,16)どのような検定試験を受けたいかリクエストをだしてください。なお、検定試験は、ある一定数の幹事高専生の受講者がいなければ、幹事高専を会場として検定試験を実施することができませんことをご了承ください。            (18)シラバスは、ウェブシラバスシステムで複数の高専が統一したシステムを使っているため、変更は困難かと思っております。(一応、学生課へ要望を伝えます)。            (20)教員が勉強時間を把握するために設けています。            (23)授業の理解度によって進行が異なる場合はあると思っております。著しく進行が異なる場合は、教科担当の先生に理由等をたずねてください。</p>	<p>(17)国語科の先生方へ要望を伝えます(要望が叶えられるとは限りませ)            (19)各教員に要望を伝えます。            (21)学生課に要望します。            (22)学生課に要望します。オフィスアワーズ以外でも教員に個別質問するように心がけてください。            (24)そのようなスペースが確保できるかどうか、学生課に要望します。</p>	<p>(21)(教務係回答)インターンシップ担当学年へ共有します。なお、卒業生の就職先、進学先の一覧はホームページの進学・就職ページで公表しています。            (22)(教務係回答)教員の時間割等の関係上、困難かと思っております。それ以外の時間でも教員の都合を確認して、積極的に訪問してください。            (24)(教務係回答)予算上困難です。</p>
3. 教育環境および学生を支援するシステム(学級担任制、学生相談室、厚生施設、学寮、図書館、自主学習スペース、コンピュータなど)について	<p>&lt;1C&gt;            (1)利用しやすいシステムが充実していて満足している。            (2)学校内で、各学年の科の位置が分らず、よく迷子になる。            (3)図書館の設備はとも良い。            (4)図書館の地の自習学習スペースがどこにあるのか知りたいです。テスト期間の土日自習スペースを解放してほしいです。            (5)環境が良く意欲が出るので良いと思う            (6)勉強する際に、図書館をよく利用させてもらっています。非常に便利だと思っています。            (7)あまり担任と関わることがないので、今までより先生と話すことがなくなった            (8)教育を支援してくれるシステムは、充実しておりとても良い。図書館も色々な種類の本が充実しており利用しやすい。            (9)キレイで勉強しやすいです。            (10)情報処理センターの使用時間の延長            (11)図書館は毎週利用させてもらっていて、本の種類も豊富で良い。            (12)いま使い方がわからないものがある            (13)充実していると思います            (14)使いやすい            (15)図書館があつすぎる、学習スペースが少なくなると感じる            (16)図書館の冷房を暑い日は前期中間試験のテスト期間くらいからつけて欲しいです。            (17)図書館が少し暑い            (18)図書館が暑く感じることもある。            &lt;2C&gt;            (19)設備関係の充実をお願いしたい。(体育館内の冷房空調設備。グラウンドにウォータークーラー。防音室の整備(アコギ)。駐輪場の屋根の増設。)            (20)図書館内のエアコン設定温度を適切な温度にして欲しい(時間帯によって暑い)            (21)通学時間帯における白子駅と高専間のシャトルバスの開通。            &lt;3C&gt;            (22)学生を支援するシステム自体、どのようなものがあるのか知らない人が多いので、きちんと周知してほしい            (23)とても良い            (24)テスト期間に図書館を土日解放してくれるのが良かった            (25)テスト期間図書館が騒がしい(注意する人がいない、このはなラウンジの声も聞こえてくる)            (26)テスト期間はマルチメディア棟を日曜日開けて欲しい            (27)テストの前日の授業予備日があった            (28)テスト期間中の勉強できる場所を増やして欲しい(現在の指定場所が混んでいる)            (29)テストの前週までテスト範囲が終わらない科目がしんどい            (30)再試の回数を増やして欲しい            (31)学生相談室の存在をもっとアピールして、悩んでいる学生が行きやすいように工夫してほしい            (32)電子マネーを使える自動販売機を増やして欲しい            (33)冷水器を綺麗にしたい            (34)寮の部屋割りで複数人で入る場合、先輩後輩で組まなくてもよいのでは？            (35)寮に空き部屋があっても反則点がたまると思察させられるのはなぜ？            (36)10点以上で退寮になったのか？(15点ではなかったのか?)            (37)自治寮のなぜ昔からの制度を、説明なしに、寮生の意見を聞かず適用するのか？            (38)寮内の勉強スペースが活用できていてとても良い            (39)寮の門限をもう少し遅くしてほしい            (40)寮食の揚げ物がきついで、メニューを選べるように欲しい</p>	(空白)	<p>(2)校舎内に地図がありますので、そちらを参照して、位置を覚えてください。            (4)基本的に、自習学習スペースは常設されていません(テスト中に、第3合併講義室を自習室としていますが)。基本的に、自分の教室で自習等を行ってください。            (10)センター管理者等の配置が難しいため、困難です。            (12)何の使い方が分からないのか教えてください。教員や職員にも聞いてみてください。            &lt;2C&gt;            (21)以前にシャトルバスの利用希望調査を行いました。その結果、シャトルバスを運行するための費用は非常に高額であり、その一方で、高額な費用にあり利用希望人数が少なかったため、シャトルバス運行の検討を断念しています。            &lt;3C&gt;            (26)マルチメディア棟自体は、日曜日も空いています。情報処理センターは、職員不在のため、使用できません。            (29)授業の進度は、教科担当の先生に相談してください。            (30)教科担当の先生に相談してください。なお、再試験の回数を増やすことは、教務上、望ましいものではありません。1回の再試験で合格できるように十分に勉強してください(できれば、本試験で合格点数をとってください)。            (34)上級生が下級生を支援するための部屋割りとなっています。もし、部屋割りで要望があるならば、寮の運営のことに関するので、寮生会を通して寮事務へ要望してください。            (35)寮生活のルールを守れないためだと思います。            (36)寮事務へ確認してください。            (37)自治寮という表現はしていません。本校の寮は、教育寮です。寮に関するルールは、毎年、見直しをしていますので、昔からのルールをそのまま適用していません。また、ルールの変更を求めている場合は、寮生会を通してルール変更を希望するしかるべき理由を添えて、寮事務へ提出してください(寮生の意見を取りまとめて提出する組織が寮生会です)。            (39)寮生の安全を確保する上で、門限を遅くすることは望ましくありません。門限を遅くしてほしい場合は、安全面に触れた上での然るべき理由を添えて、寮生会を通して寮事務へ提出してください。            (40)寮生会を通して寮事務へ要望を提出してください。</p>	<p>(15,16,17,18,20)図書館へ要望します。光熱費高騰の関係で、設定温度を低くすることは難しいと思われれます。            &lt;2C&gt;            (19)学生課に要望します。ただし、予算の関係で、難しいと考えられます。            &lt;3C&gt;            (22)担任、学生課等からの周知を依頼します。なお、Teamsでも様々な支援システムを周知していますので、そちらも参照してください。            (25)図書館に対応を依頼します。ない、コハナラウンジで会話を制限することはできませんが、会話の音量には注意するように、学生課に要望を依頼します。            (27)学生課に要望します。なお、教室を有効活用してください。            (31)学生相談室長に要望します。            (32)学生課に要望します。            (33)学生課に要望します。</p>	<p>(15, 16, 17, 18, 20) (図書情報係回答) エアコンについては、夏季は室温28℃以下になるように設定温度を適宜調節していますので、ご理解ください。図書館の学習スペースについては、施設面積に見合う座席数となっていますのでこれ以上増やすのは難しいです。            (19) (施設係回答) 体育館内の冷房設備の整備については、予算の確保が難しいため全面改修を実施する際に検討させていただきます。グラウンドのウォータークーラーの設置については屋外での設置となりますので衛生環境上問題がある。またグラウンド自体に給水設備や排水設備がないため設置することは困難である。防音室の整備については学校の運営上、真に必要であるか判断した場合に、優先順位はかなり低くなってしまいます。また予算面なども考慮すると整備することは困難である。駐輪場の屋根については建築基準法上届出が必要となり、また予算的にも厳しい状況のため設置することは困難である。            (22) (教務係回答) カウンセラーによる学生相談、奨学金など学生便覧に掲載しているもののほか、学修サポートなどTeamsで共有しているものもあります。どのような支援を求めているか担任や学生課窓口にご相談ください。            (25) (図書情報係回答) 昨年度から館内掲示やTeamsでの注意喚起を増やすことにより、今年度は随分静かになっていると感じています。もしうるさければ図書館スタッフが注意しますのでカウンターまでお知らせください。            (27) (教務係回答) 引き続き授業予備日を設定していきます。なお、期間中に補いきれない授業があった場合、授業振替日となります。            (28) (教務係回答) 予算の都合もあり、現状学習スペースの確保は困難です。教室も活用してください。            (31) (学生支援係回答) SOS学生相談窓口がホームページ上にあります。また、学内向け情報 学生支援室案内もあります。学生支援室や学生課は定期的にアンケートも実施しており、その都度対応しています。            (32) (施設係回答) 電子マネー対応の自動販売機については昨年度に業者に依頼し一部、対応していただいているところではあるが、再度、また対応できていない自動販売機については業者へ問い合わせてみたいと思います。            (33) (学生支援係回答) メーカー指定時期に浄水器カートリッジなど交換しています。</p>

令和6年度学生との意見交換会のまとめ

令和6年度「学生との意見交換会」における意見等およびそれらに対する対応

生物応用化学科	意見聴取の方法: 1C: 対面 2C:対面 3C: 対面 4C:Forms 5C: Forms	学生の意見・要望	学科・専攻科対応(予定)事項	学科・専攻科対応事項 対応実績	学校への要望(予定)事項 委員会・部会への要望事項	学校への要望事項 対応実績 委員会・部会への要望事項 対応実績
4. 教育に対する学生の満足度		<1C> 87.8% <2C> 70% <3C> ○大変満足(13票) ○やや満足(17票) ○どちらでもない(10票) ○やや不満(票) ○大変不満(票)	(空白)			
5. その他		<1C> (1)授業が分かりづらいと感じることが多いから。 (2)生物と書いてあったから入ったのに化学しかやらない <3C> (3)50分テストで終了時間が分かりにくい(教室の時計を正確にして欲しい、もしくはテスト期間中は電光掲示板のデジタル時計を固定して欲しい。) (4)テストの時間割はどのように決めているのか? (5)放置自転車を片付けて欲しい (6)数学の教科書、ワークを解説や証明が略されていないものにして欲しい(自己学習がしやすい教科書) (7)テストの順位を点数のみで評価して欲しい (8)勉強したら点数の取れるテストを作って欲しい(数学だけを学びに来たわけじゃない) (9)成績の付け方が分からないと確認できない(素点、小テストを含めた成績点、平均点どれなのか分からない) (10)本試験よりも追試験の難易度の方が高い(担当教員もそのように述べている)科目がある。不公平だと思う。 (11)過去問が入手できるか、できないかによって成績に大幅に響く(公開するか逆に過去問が使えないように問題を大幅変更するかにして欲しい)	(空白)	(2)化学を一通り学んでから、生物の授業を進めていくカリキュラムです。生物分野を理解する上で化学の知識を一通り知っておく必要があります(生物から先にやると、化学をやっていないと理解できない単元がたくさんあります)。 <3C> (4)教務係で決めています。 (5)定期的に片付けています。 (7)成績の評価は、授業担当員の裁量(テスト、レポート、小テストの効果的な組み合わせ)で決められていますのでこちらの要望にはお応えできません。 (8)様々な視点から問われていることを解答できる力を身につけるために定期試験等の問題は作られていますので、それを踏まえて、勉強に取り組んでいただき、テストで良い点をとってください。(数学のウエイトは大きいですが、数学は理系の学問を学ぶ上で非常に重要な教科です。数学を理解することで、化学の知識や技術が現場で生かされています。 (11)過去問については、教科担当の先生により開示・非開示が調整されますので、全学的に対応を実施することは困難です。	<3C> (3)学生課に検討を依頼します。 (6)数学科の教員に要望します。 (10)該当教員に提出された意見を伝えます。	(3)(教務係回答)教室の時計を基準に試験監督の指示に従ってください。時計も正確に修正しておきます。時差がある場合は、届く場所であれば各クラスで修正もお願いします。また、スマートウォッチ等は不正行為とみなしますので、通信機能のない時計を各自ご使用ください。 (10)(教務係回答)教務委員会でも共有します。

## 令和6年度学生との意見交換会のまとめ

令和6年度「学生との意見交換会」における意見等およびそれらに対する対応

材料工学科 参加者内訳: 1S~5S:各学年2名  
実施日:2023年6月26日(水) 16:00 ~17:00

	学生の意見・要望	学科・専攻科対応(予定)事項	学科・専攻科対応事項 対応実績	学校への要望(予定)事項 委員会・部会への要望事項	学校への要望事項 対応実績 委員会・部会への要望事項 対応実績
1. 学習・教育到達目標及び3つのポリシーの内容について	①現状のままで十分(1年生) ②理解している、知っている(2、4、5年生) ③特になし(3年生)	現状のままで対応していく			
2. 授業等に関して学生を支援するシステム(シラバス、オフィスアワーズ、授業アンケート、資格・検定試験受験、進路指導など)について	①情報処理センターにもwifi使えるようにしてほしい(1、4年生) ②すべてデジタル媒体での提出にしてほしい(2年生) ③HPがおもい(2年生) ④オフィスアワーズ以外の時間に対応してもらう方が多い(4年生) ⑤SPIや面接用に部屋を借りたい(4年生) ⑥現状のままで十分(5年生) ⑦進路指導を低学年からしてほしい(5年生) ⑧情報処理応用を2-3年生にしてほしい(5年生)	①③⑤⑧教務係に要望を出すことを検討(学科) ②④⑦検討事項(学科)	左記のとおり	以下、対応をお願いいたします。 ①③情報処理センター ⑤⑧教務係	①(図書情報係回答)学内計画に基づき、令和7年7月以降に順次アクセスポイントを増設予定です。 ③(総務企画係回答)ホームページについては、画像ファイルの圧縮や不要ファイルの削除等の最適化を行い軽くなるよう努める。 ⑤(学生支援係回答)SPI用は教室等を利用ください。面接用は学科長等へ相談してください。 ⑧(教務係回答)教務委員会から学科へ情報共有いたします。
3. 教育環境および学生を支援するシステム(学級担任制、学生相談室、厚生施設、学寮、図書館、自主学习スペース、コンピュータなど)について	①現状のままで十分(1年生) ②土日マルチメディア棟を開放してほしい(2、3年生) ③SPIや面接用に部屋を借りたい(4年生) ④図書館の自習スペースを増やしてほしい、コンセントをすべてにつけてほしい(3、5年生) ⑤現状のままで十分(5年生)	②~④教務係に要望を出すこと検討(学科)	左記のとおり	以下、対応をお願いいたします。 ②③教務係 ④図書館	②(図書情報係回答)定期試験2週間前の土曜日については臨時閉館しています。(年間10日間程度)その他の土日については、人件費等の課題もあり、安全で適切な施設管理ができませんので開放はできません。 ③(学生支援係回答)SPI用は教室等を利用ください。面接用は学科長等へ相談してください。 ④(図書情報係回答)図書館の自習スペースについては、施設面積に見合う座席数となっていますのでこれ以上増やすのは難しいです。また、全ての自習テーブルにコンセントを増設するのは予算的にも安全管理上も難しいです。個人ごとの希望を叶えることは難しいため、ご自身でモバイルバッテリーを持参するなどしてください。
4. 教育に対する学生の満足度	①90%以上(1、2、5年生) ②1、2年でレポートの作り方やofficeの使い方を教えてほしい(3年生) ③専門的な実験をしてほしい(3年生) ④レジュメに空白の部分を作るなどしてほしい(4年生) ⑤80%(4、5年生) ⑥学生の居眠りや内職が多い(4年生)	②③④⑥検討事項(学科)	左記のとおり		
5. その他	①現状のままで十分(2年生) ②放置自転車の撤去(3年生) ③いらぬ教科書を無料で必要な人にわたるようにしてほしい(3年生) ④写真撮影などのガイドラインがほしい(4年生) ⑤寮の点呼・門限を遅くしてほしい(5年生) ⑥飲料費を値下げしてほしい(5年生) ⑦正面近くの道の舗装(5年生) ⑧体育館の男子トイレの匂いの改善(5年生) ⑨ドンキ前の裏門が狭い(5年生) ⑩白子駅と学校のバスがほしい(5年生) ⑪駐輪場の屋根がほしい(5年生)	②~⑪総務係に要望を出すことを検討(学科)	左記のとおり	以下対応をお願いいたします。 ②~⑪総務係	②(学生支援係回答)学生会へ検討していただけます。 ③(教務係回答)内容変更等あるため、仲介できません。 ④(総務企画係回答)写真撮影については、現在のところガイドラインを策定する予定は無いが、個人情報保護や肖像権の観点に配慮していただきたい。 ⑤(寮務係回答)高学年の夜点呼の時間は「21時20分まで」となっていますが、今のところ変更の検討予定は有りません。卒業研究及び創造工学(担当教員指導によるものに限る)のため、夜点呼に間に合わない場合は、予め「外出届」を提出し、許可をとれば22時30分までの延長が認められています。 ⑥(施設係回答)飲料費=自動販売機の値段として回答させていただきますが、昨今の厳しい経済情勢のなか物価も高騰している状況では自動販売機の値段を下げさせることは困難である。 ⑦(施設係回答)正門の道路舗装の改善については構内の環境整備のひとつとして、予算の範囲内で学内整備順位を上げられるかも検討したうえで、対応していきたいと考えている。 ⑧(施設係回答)体育館のトイレの匂いについては現状を確認し、必要に応じ対応処置をさせていただきます。 ⑨(施設係回答)北門については設置場所も構内の裏手となり管理が難しく、門を拡げてしまうと不審者等の進入を容易にさせてしまう懸念があるため今のところ門の拡張をする予定はない。 ⑩(財務調達係回答)導入するための資金(予算面で厳しい)が無いのと、現状保有しているスクールバスの安全性の面からも導入は難しい。 ⑪(施設係回答)駐輪場の屋根については建築基準法上届出が必要となり、また予算的にも厳しい状況のため設置することは困難である。

令和6年度「学生との意見交換会」における意見等およびそれらに対する対応

2A 参加者内訳:2A 人、教員 人  
1A 参加者内訳:1A 人、教員 人

	学生の意見・要望	学科・専攻科対応(予定)事項	学科・専攻科対応事項 対応実績	学校への要望(予定)事項 委員会・部会への要望事項	学校への要望事項 対応実績 委員会・部会への要望事項 対応実績
1. 学習・教育到達目標及び3つのポリシーの内容について	<p>【1A】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- あることを知らない学生もいる</li> <li>- 内容を知っている学生はほぼいない</li> </ul> <p>【2A】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- あることは知っている(ほぼ全員)</li> <li>- 内容の概要はなんとなく知っている(ほぼ全員)</li> </ul>	<p>○年度当初の伝達を徹底する。</p>			
2. 授業等に関して学生を支援するシステム(シラバス、オフィスアワーズ、授業アンケート、資格・検定試験受験、進路指導など)について	<p>【1A】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 座学が特定の日に集中している</li> <li>- 授業の進め方に問題があると感じる教員がいる。授業アンケートの結果が反映されているのか疑問がある。</li> </ul> <p>【2A】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- シラバス無い教科ある(輪講など)</li> <li>- ロボットテクノロジー 科目少ない 学位を取るために必要な科目が選択できる科目が少ない。1年生にも配分してほしい。</li> <li>- 2年目代数学特論、昨年度の意見交換かいの指摘が反映されていない(むしろ進捗が速くなっている)</li> <li>- 全く問題ない(S,C)</li> <li>- 一日特別研究の日が良いのでは？</li> </ul>	<p>○座学と特別研究の一週間での配分については、相反する意見・要望が出されている。どのように配分すべきか、引き続き専攻科分科会で議論する。</p> <p>○輪講もシラバスは公開されており、学生の勘違いだと思われる。</p> <p>○ロボットテクノロジーコースについて、1年生に配分されている授業が特段少ない状況ではない。いくつかの選択必修科目について、ロボットテクノロジーコースの選択必修も兼ねるように変更できるか、専攻科分科会で議論する。</p>		<p>○授業アンケートの取り扱いについては教務委員会に問題が指摘されていることを伝える。</p>	<p>○授業アンケートの反映(教務係回答)教務委員会で共有します。</p>
3. 教育環境および学生を支援するシステム(学級担任制、学生相談室、厚生施設、学寮、図書館、自主学習スペース、コンピュータなど)について	<p>【1A】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- ホワイトボードにすると書き込みが禁止されるので、教室をホワイトボード化しない方がいいように思う。</li> <li>- 教室のプロジェクターをもっと大きくしてほしい</li> <li>- moodleは二段階認証が面倒なので、授業資料のアップなどはできるだけteamsを使用して欲しい。</li> <li>- 専攻科生が寮に入れないのは本科入学時の約束を反故にするものではないか。</li> </ul> <p>【2A】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Wi-Fi 繋がらない</li> <li>- LTE電波 繋がらない</li> <li>- Moodle 入るのめんどい。多要素認証がめんどくさい。</li> <li>- 公欠届け From化 学生が2回行かなければいけない、対応できる人が少ないので待たされる。</li> <li>- 入試関係の書類 余裕を持って申請しているのに、締め切りギリギリで返ってくる。(フローを可視化できないか?)</li> </ul>	<p>○ホワイトボード、プロジェクター、電波等については専攻科棟改修にあわせてどのように改善(or現状維持)すべきか議論する。</p> <p>○二段階認証は時代の流れで逆らえない。teamsは容量制限が厳しくなったこともあり、今後もmoodle併用とならざるを得ない。</p>		<p>○公欠届、入試書類についてはどこが担当部署かを確認の上、要望を伝える。公欠届をForms化しても、学生が窓口に行くのは1回でいいのでは？</p>	<p>○公欠届(教務係回答)Forms入力目的は、紙への文字での記入の削減。どこでも入力可能な利便性を重視しています。学生が入力後の届出用紙を自分で印刷する手間を省くため学生課で印刷しており、合わせて負担軽減にはなっていると考えます。各教員の押印のデジタル化については、様々な申請手続きを含めて検討が必要。</p> <p>○入試関係書類(教務係回答)入試が集中する時期は申請も集中するため、出願期限を考慮して優先順位をつけて学校単位で対応している場合があることをご理解ください。</p>
4. 教育に対する学生の満足度	<p>【1A】</p> <p>可(60-64)名 良(65-79)名 優(80-100)名</p> <p>【2A】</p> <p>可(60-64)2名 良(65-79)15名 優(80-100)0名</p>				
5. その他	<p>【1A】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 専攻科棟にエレベーターが欲しい</li> <li>- 専攻科棟にウォーターサーバーが欲しい</li> <li>- 原付置き場に自転車放置されていて邪魔</li> <li>- 専攻科棟の駐輪場が狭い。教員用が併設されている影響もある。旧喫煙スペースを有効利用できないか。</li> <li>- teamsでの忘れ物の案内にメンションをつけなくて欲しい。そもそも案内が必要なのか。</li> <li>- 通学時の二輪の排気量制限をなくして欲しい。</li> </ul> <p>【2A】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 専攻科棟エレベーター欲しい</li> <li>- 専攻科棟ウォータークーラー</li> <li>- 渡り廊下</li> <li>- 3F 専攻科トイレ なぜ女子だけなのか？(謎)</li> </ul>	<p>○エレベーターについては専攻科棟改修の際には設置されるはず。ウォータークーラー、自転車置き場トイレについては今後議論する。</p>		<p>原付置き場や二輪の排気量制限については学生委員会に要望を伝える。</p>	<p>○原付置き場の放置自転車(学生支援係回答)学生会交通安全委員会へ打診します。</p> <p>○二輪の排気量制限(学生支援係回答)制限は学生委員会で決定した取扱いとなっています。</p>

教員 各位

教務主事  
FD担当長

### 令和6年度 後期授業アンケート実施について

例年、前期と後期に1回ずつ実施していただいている授業アンケートについて、今年度も下記のとおり実施いたしますので、ご協力をお願い致します。教員

#### 記

#### 1. 実施時期

全授業科目について、授業アンケートは1月22日(水)～2月4日(火)の期間で実施をお願いいたします。

#### 2. 実施方法

(1) Moodle 及び Forms 使用して実施します。Forms は、自由記述欄となります。

(2) 授業の途中、都合の良い時間帯に10分間程度アンケートを実施してください。

アクセスが集中し Moodle が繋がりにくい状況の時は、時間をずらして再度実施して下さい。

(3) スマートフォン等を利用して Moodle にログインさせ、ダッシュボードの「マイコース」より自分のクラスのアンケートをクリックし、該当する科目を選択し、回答するようにご指示下さい。また、アンケート以外に記述したいことがある学生には、Teams 学生課案内(R6)の投稿内 URL( <https://forms.office.com/r/PSmZLzfu4a> ) より Forms にて回答をさせてください。尚、個人を誹謗・中傷する記載は、絶対にしないようご指導ください。

(4) スマートフォンを忘れたなどの理由により手元にない学生に対しては、後ほど情報処理センターや自宅のパソコンより回答するようにご指示下さい。

#### 3. 集計結果

後日、集計結果を配付いたします。今後の授業の参考にしていただければ幸いです。

## 令和7年度 第3回教務委員会議事録

日時：令和7年6月18日(水) 15:00～16:05

出席：[REDACTED]

欠席：[REDACTED]

陪席：[REDACTED]

## 審議事項

## 1. 海外語学実習実施要項の改正について【資料】

委員長より、「海外語学実習実施要項」(校長裁定)の第4項に技術科学大学を追加することについて、資料に基づき説明があり、審議の結果、追加が承認された。また今年度の豊橋技術科学大学のペナン海外研修にこの変更が適用されることが確認された。

海外語学実習実施要項(教員手帳 p.142)

## 4 海外語学実習の対象となるプログラム

履修を認める海外語学実習の対象となるプログラム(以下「実習プログラム」という。)は、独立行政法人国立高等専門学校機構鈴鹿工業高等専門学校、他の高等専門学校、技術科学大学、独立行政法人国立高等専門学校機構及び営利団体又は公共団体等の機関が主催する実習プログラムとする。営利団体又は公共団体等の機関が主催する実習プログラムの場合は、教務委員会に諮り承認を得るものとする。

## 報告事項

## 1. 試験問題同一性チェック(R5-R6)の報告

委員長より、令和5年度、6年度試験問題の同一性について、点検評価担当が規定に基づき確認し、その結果が報告された。同一性が高いと判断された案件については、該当学科の教育改善フォローアップ担当及び該当教員に共有し、改善に取り組むこととする。

プログラムで同一性が高いと抽出されたものを、点検評価担当がチェック  
最終的に同一性が高いと判断されたもの 2件(いずれもR5の本試験と再試験)

## 2. 成績評価チェック(R6)の報告

委員長より、下記の内容を教務主事補が点検した結果について、報告があった。今後、内容を精査し、該当学科の教育改善フォローアップ担当及び該当教員に共有し、改善を進めていく。

今年度の点検対象学年 2年・5年

(2年・5年→1年・4年→3年・専攻科の3年でローテを予定)

- ・成績評価がシラバス通りに行われているか  
シラバスと合わないもの 8科目
- ・定期試験の統計量が適切であるか(今回は平均点50点以上)  
50点未満のもの 2科目(いずれも受講者少数)

### 3. 授業アンケート(R6 後期)の報告【資料】

委員長より、令和6年度後期の授業アンケート結果について、教務主事（教育改善フォローアップ担当長）がチェックしたことと、その結果の報告があった。

授業アンケート集計結果の取扱い規則が古くなっているため、今後FD担当で見直しを行う意向が委員長より示された。少数受講生の科目や、一部の学生による極端な回答があるため、平均点だけでは判断しきれないという意見や、取扱注意資料における配慮の必要性や、教学IRによる分析の意見があった。これらの意見を踏まえ、今後の検討が進められることになった。

授業アンケート結果を、教務主事（教育改善フォローアップ担当長）がチェック  
平均点が4未満 26件（うち回答者少数 8件）

### 4. 資格単位認定のシラバスについて【資料】

委員長より、認証評価 事前相談で指摘された資格等による単位認定をシラバス化することについて、適切に対応することの報告があった。

認証評価，事前相談(5/15)より

基準3-2 学生に対して、生活や進路、課外活動、経済面での援助等に関する相談・助言、支援が行われていること

観点3-2-③ 就職や進学等の進路指導を含め、キャリア教育の体制が整備され、機能していること

「資格取得によって単位を与える科目について、その科目名はカリキュラム上は存在しておらず、シラバスも公開されていないということでしょうか。」

シラバスのページに「関係する諸規則」という項目を設けて、資格単位認定の規則を載せておく  
[https://www.suzuka-ct.ac.jp/student/student\\_index/syllabus/](https://www.suzuka-ct.ac.jp/student/student_index/syllabus/)

### 5. 学修単位科目のシラバスの記載について

委員長より、学修単位科目のシラバスに自己学習の記載が正しくされていないことがあるため、担当教員に対して、シラバスを確認し、必要に応じて修正をするよう依頼をすることの報告があった。

認証評価，事前相談(5/15)より

基準5-6 CPに基づき、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること

観点5-6-① DP及びCPに基づき定められている学習成果の評価の方針と整合性をもって、成績評価基準が組織として策定されていること

「学修単位科目については、授業時間外学修を評価する必要がありますが、例えば〇〇は定期試験のみで評価するという内容になっています。」 →シラバスに補足説明が必要

学修単位科目について、以下を記載する。

- ・自己学習の内容は、変えてもよい。
- ・単位数に応じて、時間数は変える。（1単位につき、授業時間＋自己学習時間＝45時間）

＜自己学習＞授業で保証する学習時間と、予習・復習（中間試験、定期試験、小テストのための学習も含む）及びレポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。

・試験のみで評価している科目については、続けて以下を記載する。

自己学習の内容を試験問題に含めることにより、自己学習を評価している。

#### 6. 令和6年度 安全教育実施状況の報告【資料】

委員長より、昨年度の安全教育実施状況について資料に基づき報告があった。

#### 7. 令和6年度 インターンシップ実施状況の報告【資料】

委員長より、昨年度のインターンシップ実施状況について資料に基づき報告があった。

単位認定がされない日数不足や自由応募等のインターンシップ実施状況表への記載について、種々意見があった。インターンシップの定義の確認も含め、検討していくこととなった。

#### 8. 令和6年度 デザイン基礎実施状況の報告【資料】

委員長より、昨年度のデザイン基礎の実施状況（テーマ、受講者数等）について、資料に基づき報告があった。

#### 9. 台湾研修旅行の引率教員について

台湾研修旅行における専門学科の引率分担について、下記のとおり確認がされた。また今年度の研修旅行（10月14日（火）～17日（金））には、専門学科よりM科 松枝教員とS科 幸後教員が引率することが確認された。

引率教員：主事＋教員10名（教養8名＋専門2名）

専門教員について、R7年度はM科・S科から、R8年度はE科・2巡目から

総括教員（主事）について、副校長（予定）

#### 10. スタートアップ教育推進部会より【資料】

委員長より、今年度のスタートアップ教育推進の活動計画とビジネスコンテストの実施日程について、資料にもとづき報告があった。

ビジネスコンテスト 12/16(火)～12/20(土) 予定

#### 11. その他

出席者より体育祭の出欠の取扱いについて確認があり、委員長より改めて連絡する旨の回答があった。

第4回教務委員会について 7/16(水)15:00～

## 学生自身による学習・教育到達目標の達成度評価 実施要項

点検評価担当長

学生自身による学習・教育到達目標の達成度評価および卒業・修了生には満足度評価を実施しますので、皆様のご協力をよろしく申し上げます。令和5年度入学生よりアンケート項目を精選したため、本科第3学年以上の学生と本科第2学年以下(専攻科学生を含む)とで回答の項目が異なりますので御注意をお願い出来ましたら幸いです。また、本科第2学年以下および専攻科はアンケート項目が少ないためマークシートに回答不要の項目がありますのでご留意をお願いいたします。

- ① 学年末休業前ガイダンスで学級担任(専攻科を含む)から学生に以下の説明をお願いします。
  1. このアンケートの目的は、各科(専攻科)の学習・教育到達目標の入学時から現在までの達成度を、学生自身が評価することで、これまで何ができるようになったか、これから何ができるようになるか、これまでどのように成長できたかといった、自身の達成度の進捗状況や弱点を把握することです。
  2. 達成度は、5段階評価で行い、自身の評価で8割以上達成していれば「5」、7割程度なら「4」、6割以上なら「3」、6割未満なら「2」、未習得なら「1」として評価して下さい。
  3. 全ての項目が卒業(修了)時には「5」となるように、カリキュラムは設定されており、卒業(修了)時に「2」や「1」の項目は残らないようになっています。

各科(専攻科は出身学科)の達成度評価項目は、下記リンク先または「[025]全教職員→自己点検評価・改善委員会→R6→点検評価担当→達成度・満足度評価アンケート」に保存されています。適宜PDFファイルを学生へ共有して頂ければアンケートをスムーズに実施できると思います。マークシート用紙にて回答して下さい。出席番号と氏名も記入願います。

[https://kosenjp.sharepoint.com/sites/msteams\\_4b2fc5/Shared%20Documents/Forms/AllItems.aspx?csf=1&web=1&e=Pswkh9&CID=6f641e2b%2Dbc82%2D4d71%2Dbf27%2D7d07cee5819f&FolderCTID=0x012000CFAB41CF43581A408F68DC3C4F2CBBCE&id=%2Fsites%2Fmsteams%5F4b2fc5%2FShared%20Documents%2F%E8%87%AA%E5%B7%B1%E7%82%B9%E6%A4%9C%E8%A9%95%E4%BE%A1%E3%83%BB%E6%94%B9%E5%96%84%E5%A7%94%E5%93%A1%E4%BC%9A%2FR6%2F%E7%82%B9%E6%A4%9C%E8%A9%95%E4%BE%A1%E6%8B%85%E5%BD%93&viewid=59ccc806%2D75c1%2D4146%2D8550%2D8bddafb7a763](https://kosenjp.sharepoint.com/sites/msteams_4b2fc5/Shared%20Documents/Forms/AllItems.aspx?csf=1&web=1&e=Pswkh9&CID=6f641e2b%2Dbc82%2D4d71%2Dbf27%2D7d07cee5819f&FolderCTID=0x012000CFAB41CF43581A408F68DC3C4F2CBBCE&id=%2Fsites%2Fmsteams%5F4b2fc5%2FShared%20Documents%2F%E8%87%AA%E5%B7%B1%E7%82%B9%E6%A4%9C%E8%A9%95%E4%BE%A1%E3%83%BB%E6%94%B9%E5%96%84%E5%A7%94%E5%93%A1%E4%BC%9A%2FR6%2F%E7%82%B9%E6%A4%9C%E8%A9%95%E4%BE%A1%E6%8B%85%E5%BD%93&viewid=59ccc806%2D75c1%2D4146%2D8550%2D8bddafb7a763)

- ② 今回、回答してもらうのは、入学時から現在までの達成度です。
- ③ 新年度に実施しました学校の目的と使命の周知も行います。学生への周知をよろしく申し上げます。

## 令和6年度鈴鹿工業高等専門学校在学生の達成度アンケート集計結果一覧

- ④ 達成度評価結果を面談等で活かしてもらえよう、結果は新年度の学級担任にお渡しします。達成度が低いと回答している学生が、何か問題を抱えてはいないか等を知るために記名式(出席番号)となっています。
- ⑤ 結果を活用して頂くにあたり、結果の取りまとめ方、グラフ化等について、効果的に活用するための良い方法、また、アンケートの内容(項目・表現)等についてご意見がありましたらお聞かせ下さい。
- ⑥ 学級担任の先生におかれましてはお手数をおかけしますが、アンケート終了後出席番号順に揃えて総務課総務企画係 までご提出をお願いいたします。休学者・長期欠席者等で回答困難な学生は出席番号と氏名のみ代筆頂き、マークシートは未記入の状態でご提出をお願いいたします。

以下に実施要領を示します。

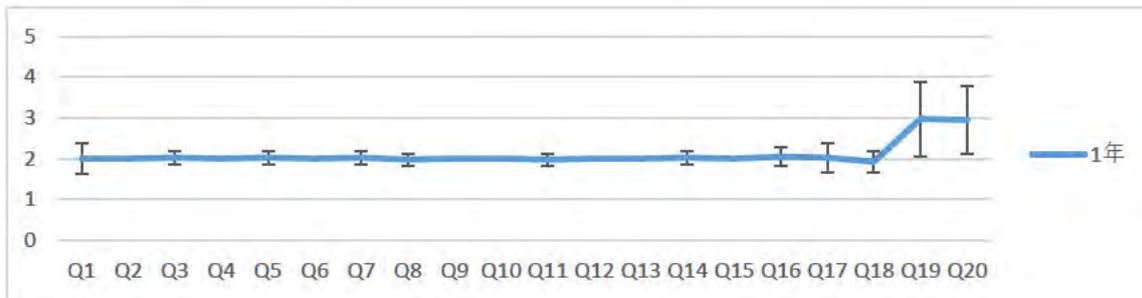
- ⑦ 第 1～5 学年担任は、学年末の「休業前ガイダンス」等で「学生便覧」を参照して、鈴鹿高専の基本理念である、使命、教育理念、養成すべき人材像を周知して下さい。そして各科の「学習・教育到達目標」について、「教育課程系統図」を参照しながらガイダンスを行ってください。「達成度評価シート」に例示されている授業科目は令和 2 年度以降入学生用となっていますので、適宜読み替えるようご指導ください。達成度は、5段階評価で行い、各項目において自身の評価で8割以上達成していると判断すれば「5」、7割程度なら「4」、6割以上なら「3」、6割未満なら「2」、未習得なら「1」として評価して下さい。授業科目が書かれている場合は、それらの平均点が 80 点以上なら「5」、70 点程度なら「4」、60 点なら「3」、未習得の科目の方が多ければ「2」、全て未習得であれば「1」で評価して下さい。
- ⑧ 専攻科 1～2 年次生に対しては、学年末の「休業前ガイダンス」等で「学生便覧」を参照して、鈴鹿高専の基本理念である、使命、教育理念、養成すべき人材像を周知してください。そして総合イノベーション工学の「学習・教育到達目標」について、「教育課程系統図」を参照しながらガイダンスを行ってください。「達成度評価シート」に例示されている授業科目は学科の令和 2 年度以降入学生用となっており、専攻科で学ぶ科目名が入っていませんが、適宜追加して読み替えるようにご指導ください。現在までの達成度を、5段階評価で行い、各項目において自身の評価で8割以上達成していると判断すれば「5」、7割程度なら「4」、6割以上なら「3」、6割未満なら「2」、未習得なら「1」として評価して下さい。授業科目が書かれている場合は、それらの平均点が 80 点以上なら「5」、70 点程度なら「4」、60 点なら「3」、未習得の科目の方が多ければ「2」、全て未習得であれば「1」で評価して下さい。Forms で回答する際は、学年と出席番号(1A11 等)を入力しますので、間違わないように入力するようご指導ください。また、Forms の回答は、1→5 の順となっていますので、選択肢を間違わないようにして下さい。
- ⑨ 第 5 学年および専攻科 2 年生は、達成度評価への回答が終わりましたら、満足度評価のマークシート用紙記入も御指導をお願いいたします。

## 令和6年度鈴鹿工業高等専門学校在学生の達成度アンケート集計結果一覧

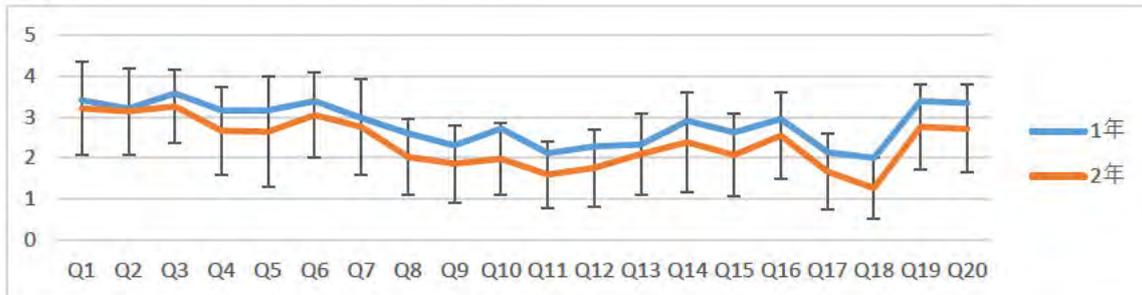
機械工学科

2024年度学習・教育到達目標達成度評価

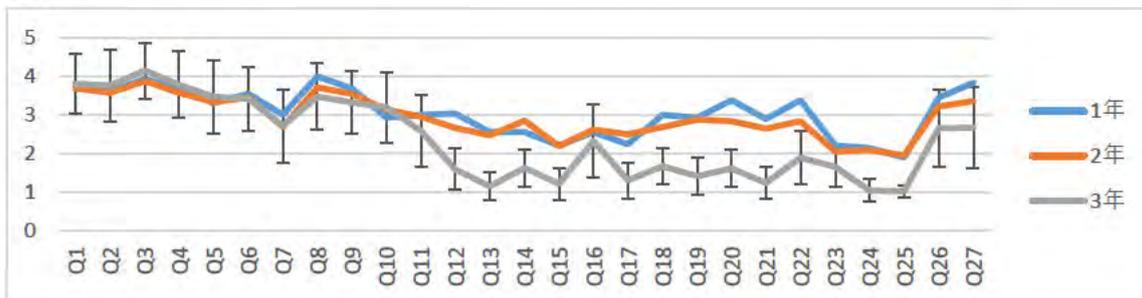
1年



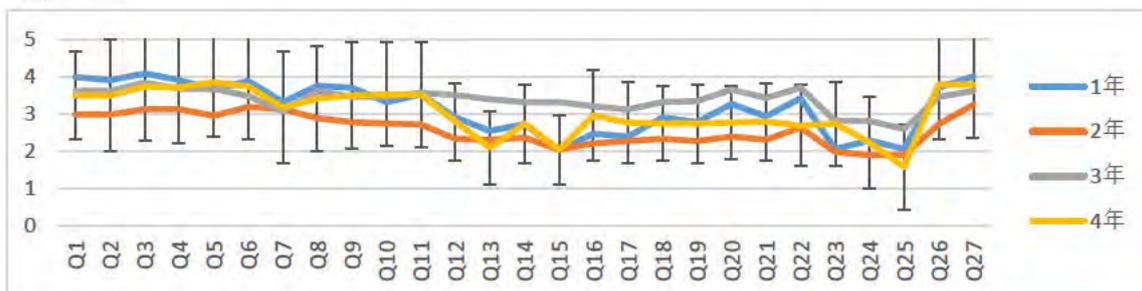
2年



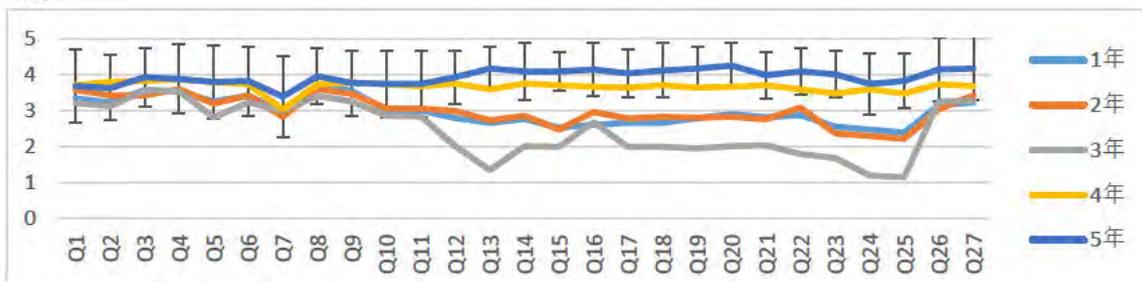
3年



4年



5年

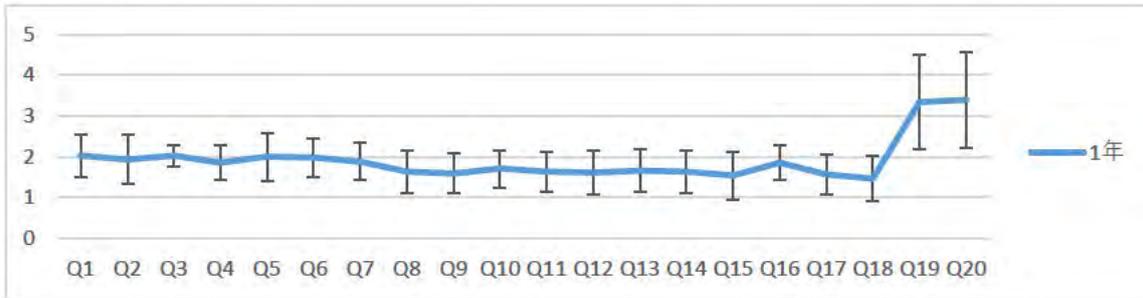


## 令和6年度鈴鹿工業高等専門学校在学生の達成度アンケート集計結果一覧

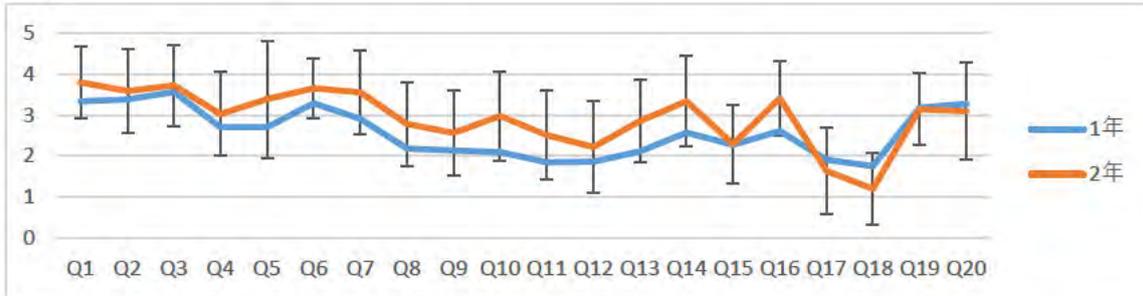
電気電子工学科

2024年度学習・教育到達目標達成度評価

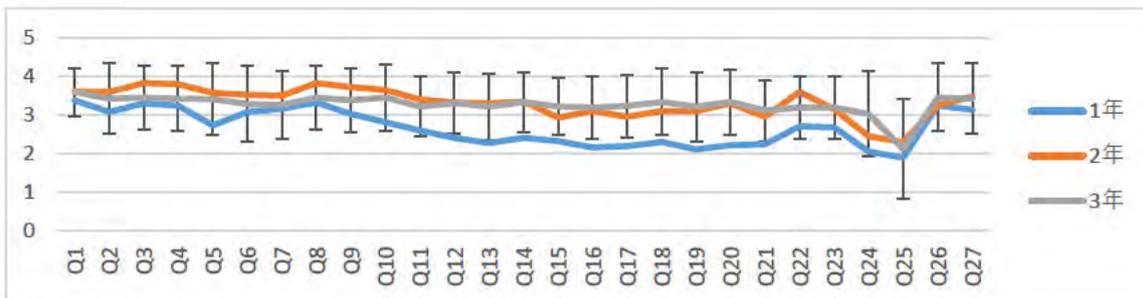
1年



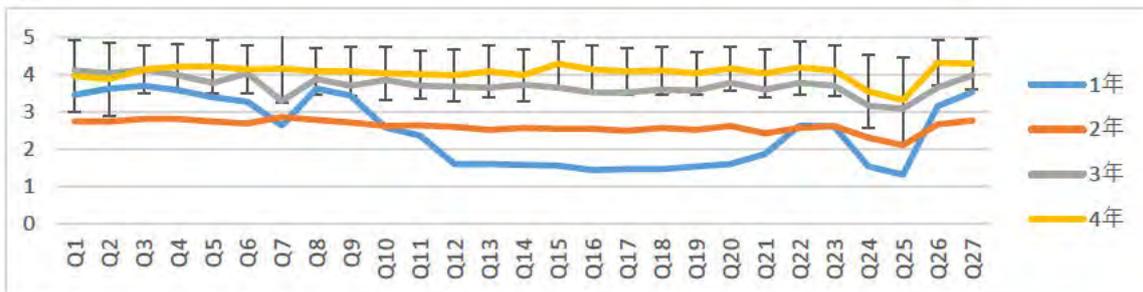
2年



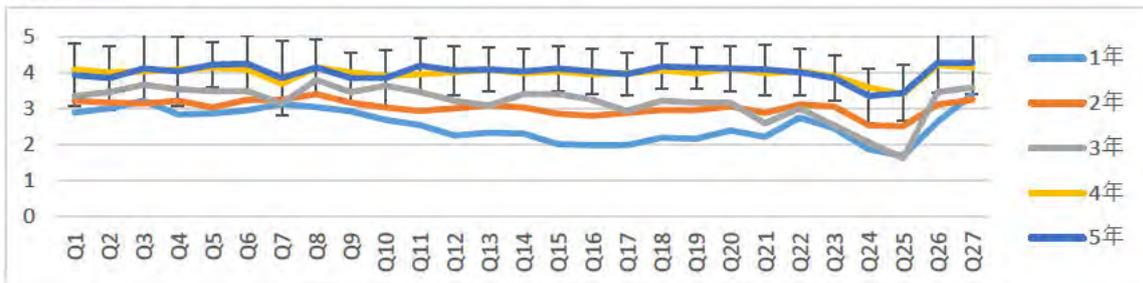
3年



4年



5年

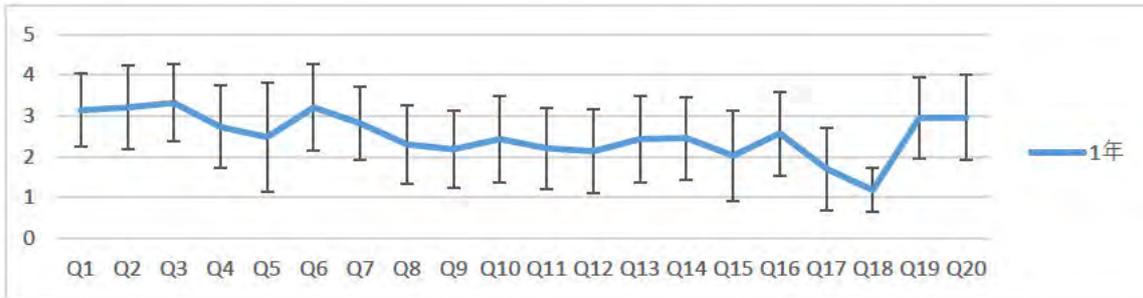


## 令和6年度鈴鹿工業高等専門学校在学生の達成度アンケート集計結果一覧

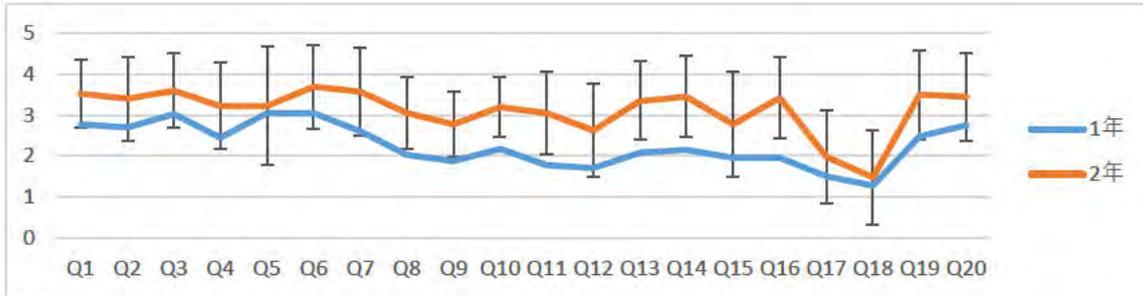
電子情報工学科

2024年度学習・教育到達目標達成度評価

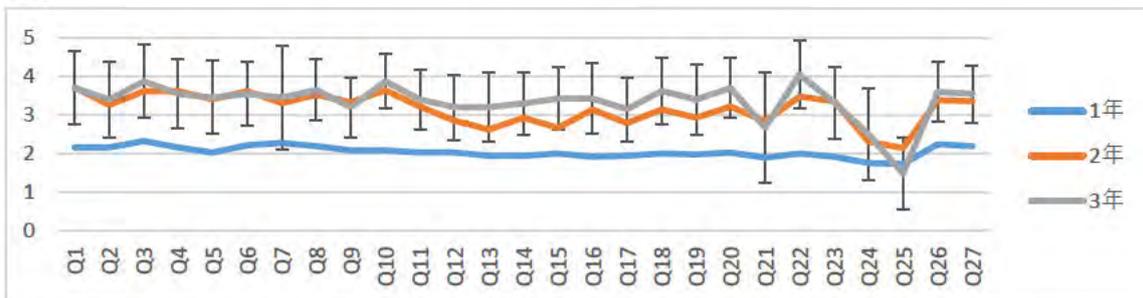
1年



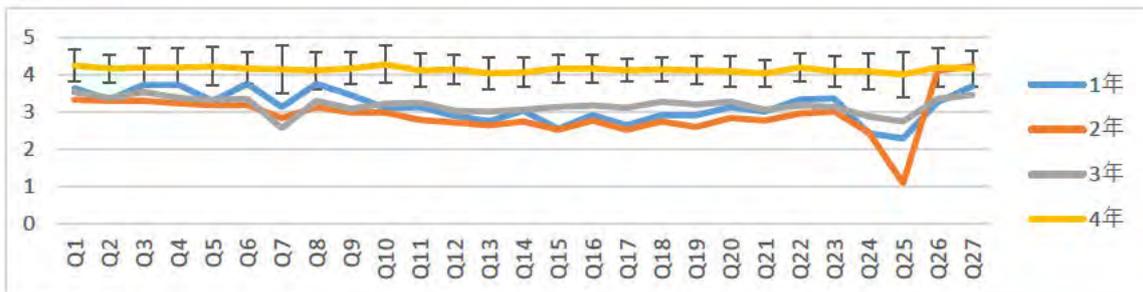
2年



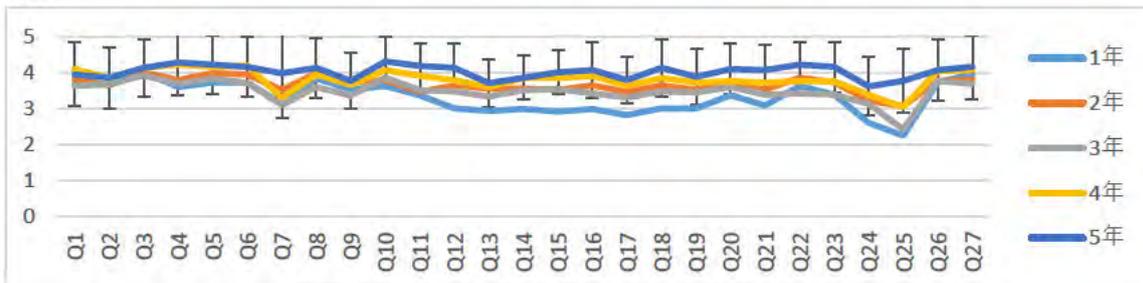
3年



4年



5年

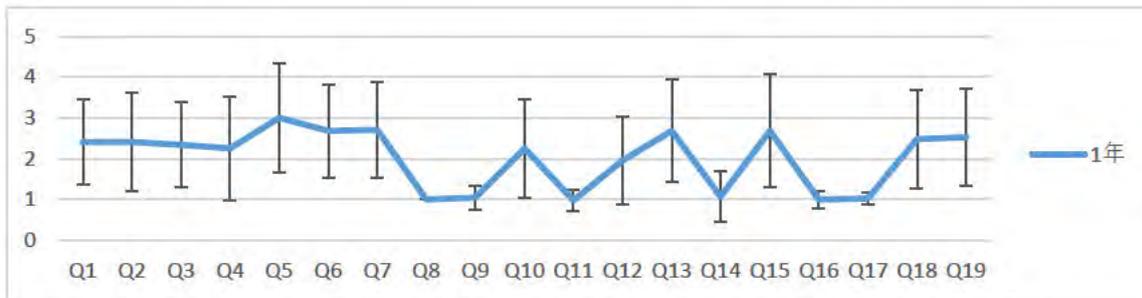


## 令和6年度鈴鹿工業高等専門学校在学生の達成度アンケート集計結果一覧

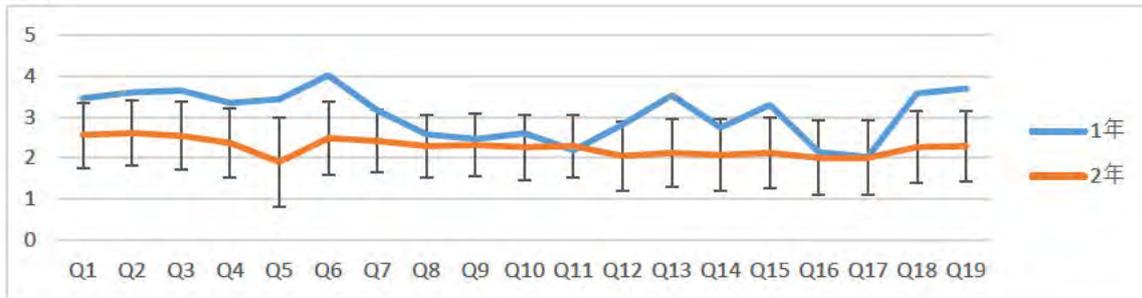
生物応用化学科

2024年度学習・教育到達目標達成度評価

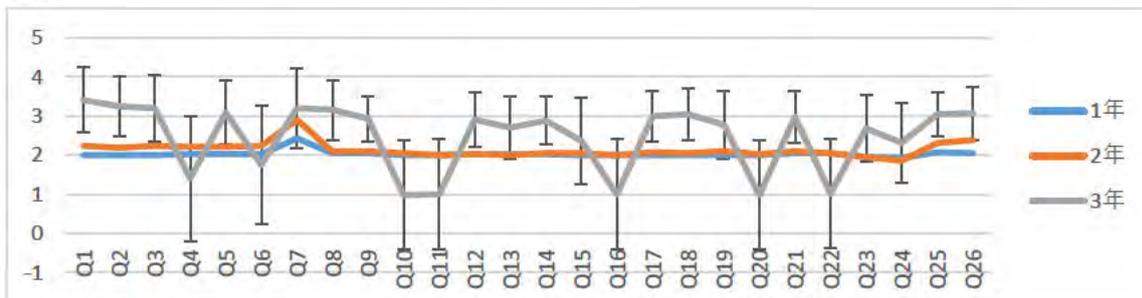
1年



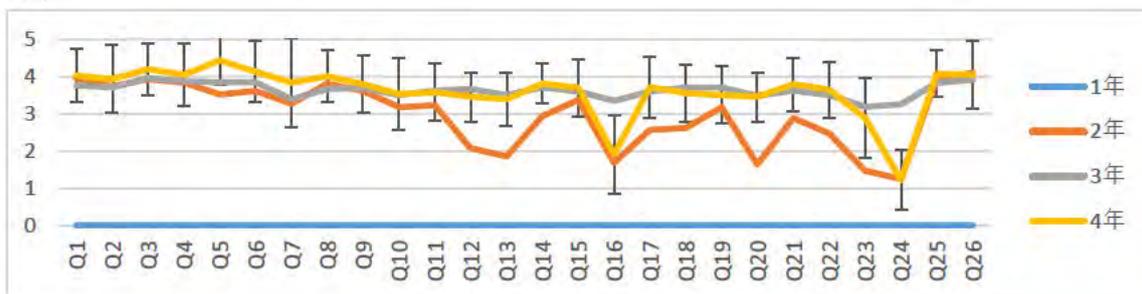
2年



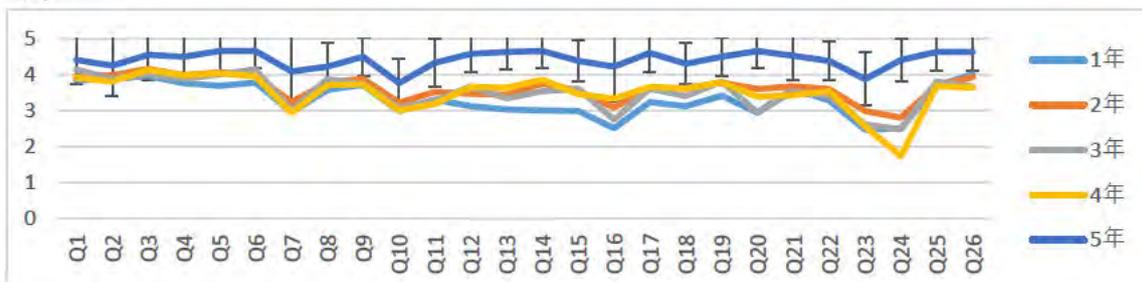
3年



4年



5年

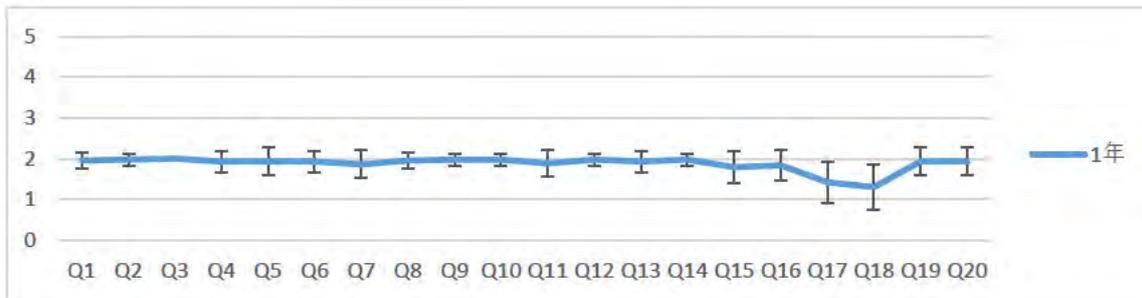


## 令和6年度鈴鹿工業高等専門学校在学生の達成度アンケート集計結果一覧

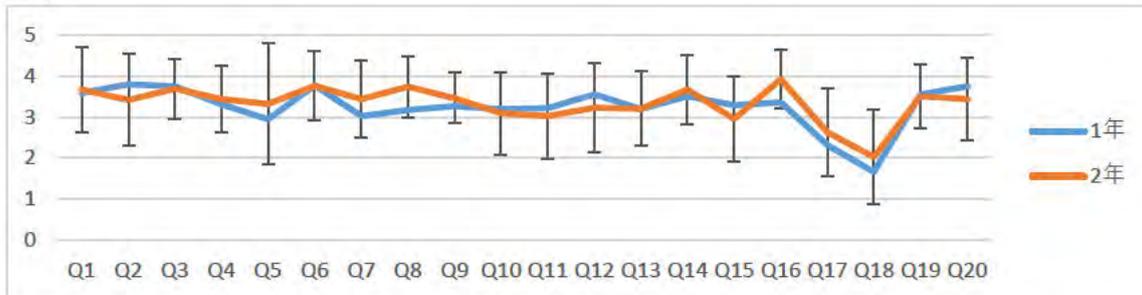
材料工学科

2024年度学習・教育到達目標達成度評価

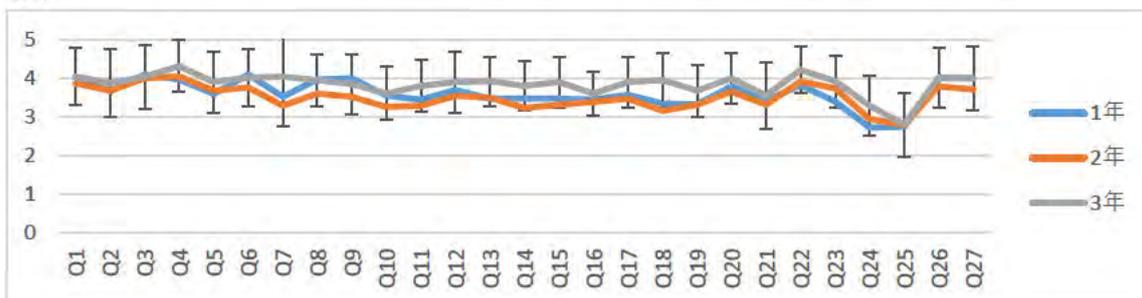
1年



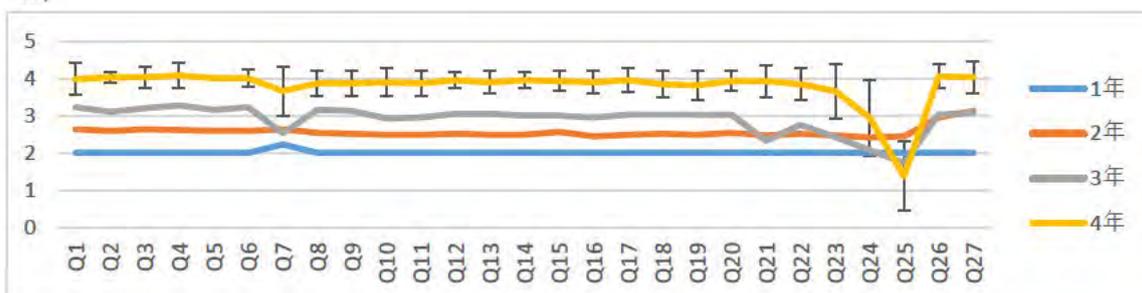
2年



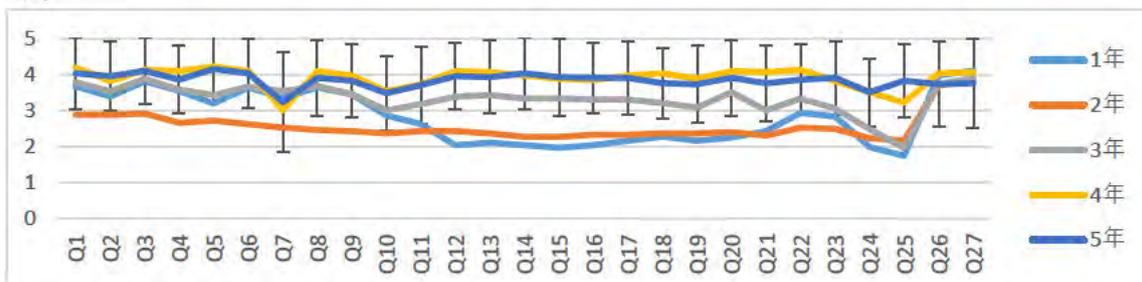
3年



4年



5年

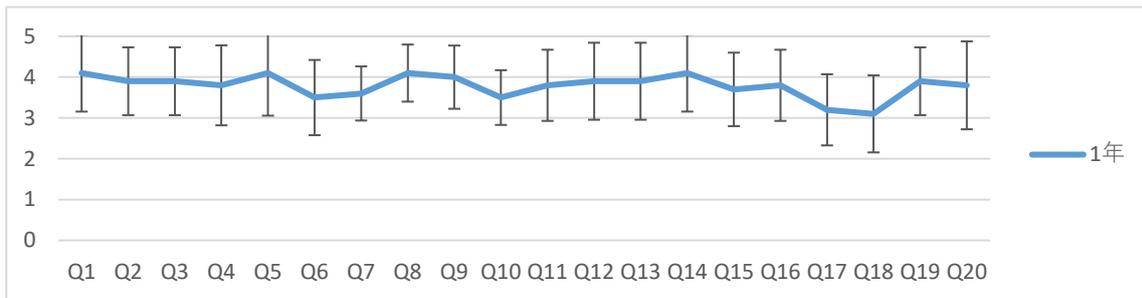


## 令和6年度鈴鹿工業高等専門学校在学生の達成度アンケート集計結果一覧

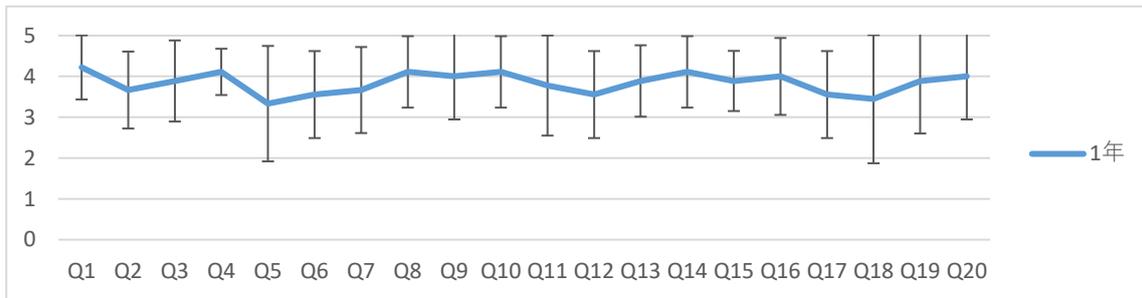
専攻科1年

2024年度学習・教育到達目標達成度評価

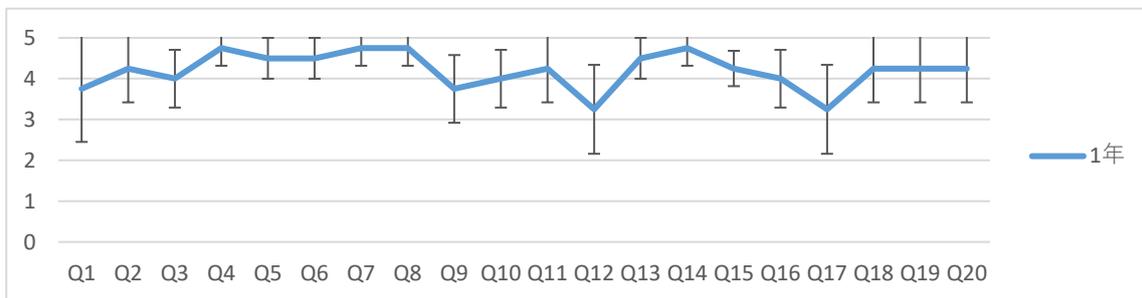
M科出身



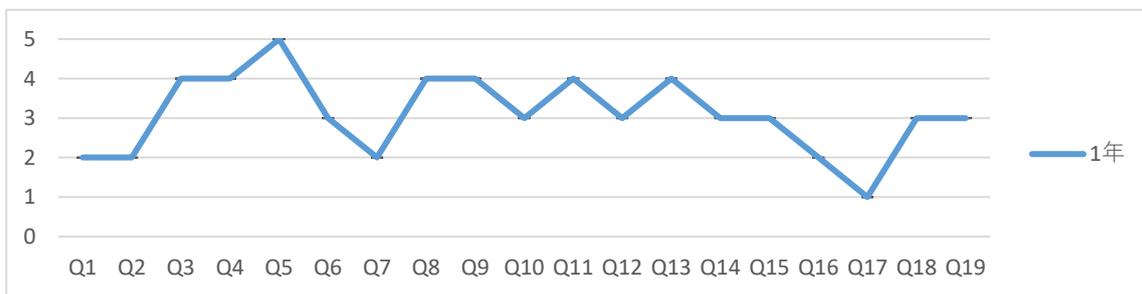
E科出身



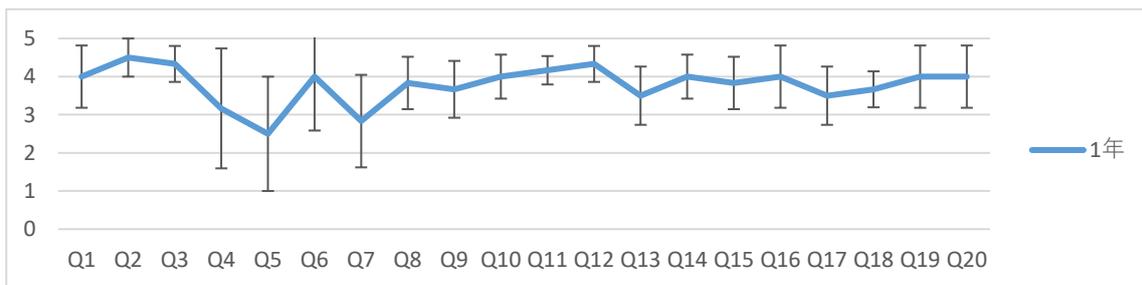
I科出身



C科出身



S科出身

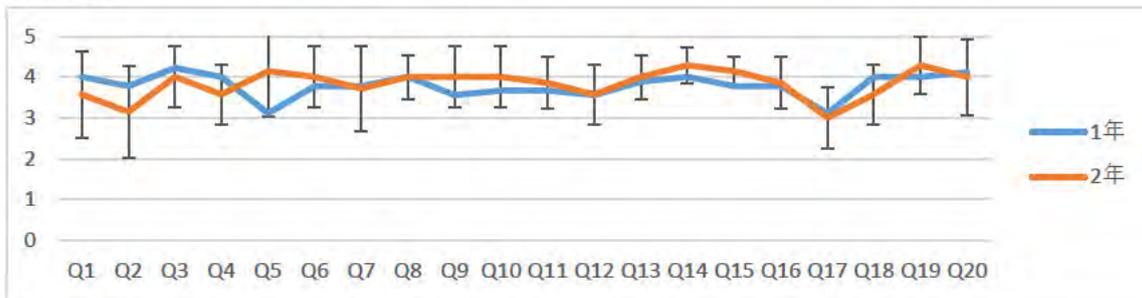


## 令和6年度鈴鹿工業高等専門学校在学生の達成度アンケート集計結果一覧

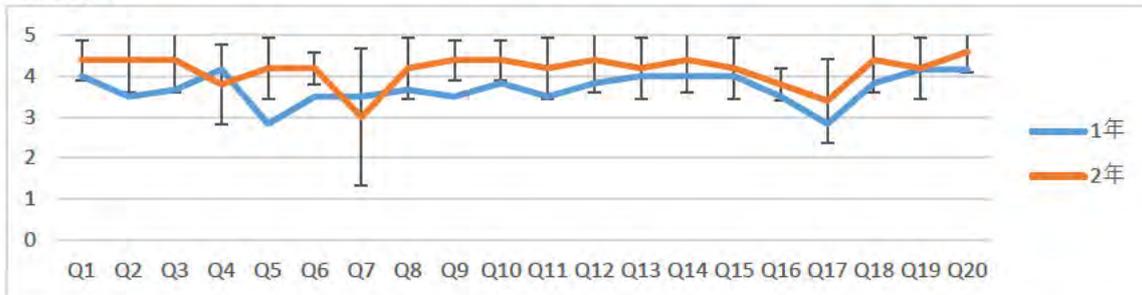
専攻科2年

2024年度学習・教育到達目標達成度評価

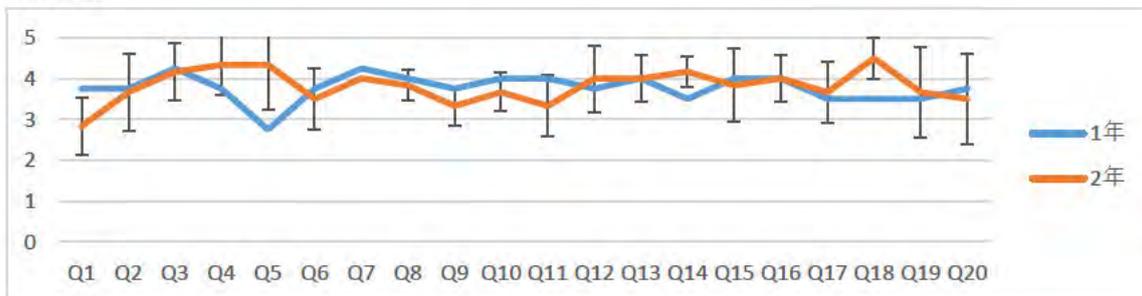
M科出身



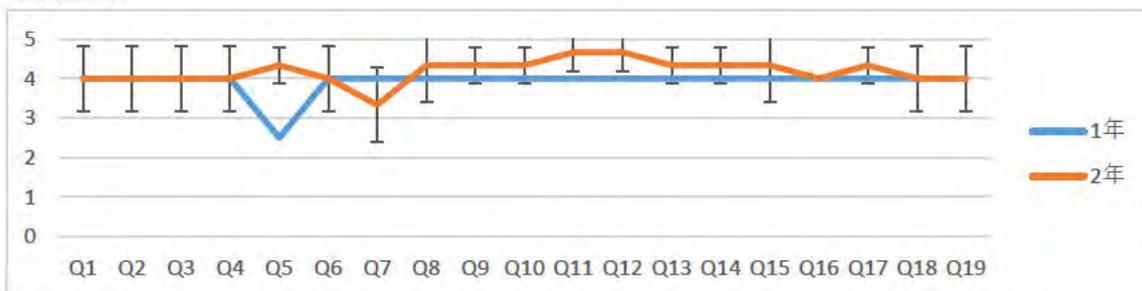
E科出身



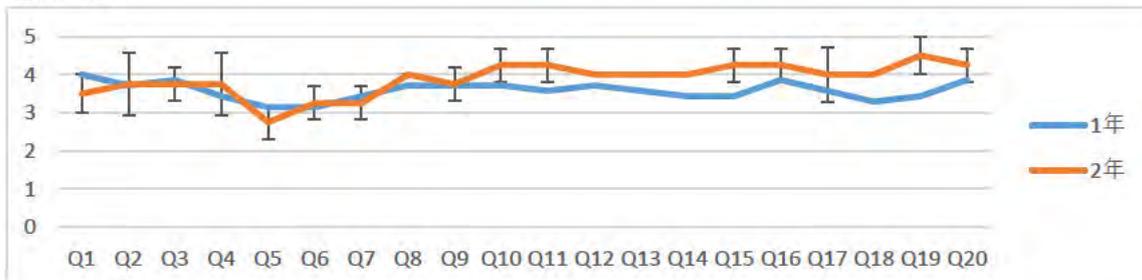
I科出身



C科出身



S科出身



## 令和6年度鈴鹿工業高等専門学校在学生の達成度アンケート集計結果一覧

## 学生自身による機械工学科 学習・教育到達目標の達成度評価シート

機械工学科 学習・教育到達目標に関する以下の項目について、入学時から現在までの達成度に該当する番号を回答して下さい。達成度は自身の評価で、5 - 8割以上、4 - 7割程度、3 - 6割程度、2 - 6割未満、1 - 未習得として評価して下さい。

## (A) 技術者としての姿勢

## &lt;視野&gt;

以下のようなことが

[5. よくある。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全くない。]

(1) 人文・社会科学や外国語の科目を受講・勉強しているときに、日本と他国の違いを意識して興味が湧いたり、感心したりすること

(2) 新聞やTVなどのメディアを通じて国内における出来事(事件・事故・紹介など)を見て、外国人の目にどのように写るかあるいは日本との違いを考えたりすること

(3) 社会における自分の立場(〇〇歳である・学生である・高専生である・工学技術の修習生である、など)を意識して、自分はどうかあるべきかを考えること

## &lt;技術者倫理&gt;

特活、倫理・社会、創造工学、卒業研究等に加え、新聞やTVなどのメディアを通じて国内外における企業モラルの欠如に起因する出来事を通して、技術者としてあるべき姿やこれまで学んできた技術が社会や環境にどのような影響を与えるかを、

[5. 思い描くことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く思い描くことができない。]

## &lt;意欲&gt;

実験や創造工学、卒業研究で知識を超える課題・問題に直面した際、[5. わかるまで調べた。4. 図書館などに出向き関係図書等で調べた。3. 図書館などに出向き関係図書等で調べることがあった。2. 関係が深そうな先生や先輩に尋ねた。1. 自分には難しすぎるので解決をあきらめた。]

## (B) 基礎・専門の知識とその応用力

## &lt;基礎&gt;

(1) 数学以外の科目の学習において、数学を必要とするとき、あるいは物理・化学以外の科目の学習において、物理や化学の知識を必要とするとき、

[5. 公式や定理・原理や法則などを使うことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. ほとんど使えない。]

(2) ハードウェアとソフトウェアの関係、プログラミング技術、情報セキュリティ概論を通じて安全なネットワークの利用法等の情報基礎について、

[5. よく知っており実験などで活用できる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く知らず実験などでも活用できない。]

## &lt;専門&gt;

(1) 生産・製造方法等に関連する知識は、機械設計製図、総合実習、材料力学、熱力学(熱工学)、水力学(流体工学)、機械力学、工学基礎実験、機械工作法、機械設計基礎、機械工作実習、機械運動学、熱・流体工学基礎、機械設計法、生産システム、電気工学概論、電気・電子回路、メカトロニクス演習、ロボット工学等を通じて、

[5. 十分理解している。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解していない。]

(2) 材料の種類、特性・性質等に関連する知識は、材料学、弾・塑性学等のほか、機械工学実験を通じて、

[5. 十分理解している。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解していない。]

(3) 計測技術に関連する知識は、計測工学、アクチュエータ工学、制御工学等のほか、機械工作実習、機械工学実習、総合実習、機械工学実験を通じて、

## 令和6年度鈴鹿工業高等専門学校在学生の達成度アンケート集計結果一覧

[5. 十分理解している。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解していない。]

- (4) 工学実験における計測に関連した諸問題に対して、必要となる基礎的な 4 力学(材料力学, 熱力学, 流体力学, 機械力学) の計測原理や方法を使えるほか、自らが得た実験結果等に対して、情報処理, 数値解析等の知識をもとに、論理的な解析や整理を、自ら行うことが

[5. よく出来る。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く出来ない。]

- (5) 製造過程に見られる環境負荷に関する問題に対して、機械工学に関する専門分野の知識や情報を、

[5. 自力で使うことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 自力では使えない。]

<展開>

- (1) 解決すべき問題に対する解決法を、機械工学に関する専門分野の知識や情報をもとに見出し、限られた時間内で計画的に実行するために、機械工学に関する専門分野の知識や情報を自ら

[5. 使うことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 使えない。]

- (2) 限られた時間内でレポート, 論文等を整理するために、機械工学に関する専門分野の知識や情報を、

[5. 自力で使うことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 自力では使えない。]

- (3) 社会(社会貢献, 環境負荷等)に対して、自分の課題(総合実習, 創造工学, 卒業研究)をどのように設定して、どのように解決していくかを自分で、

[5. 十分理解している。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解していない。]

(C) コミュニケーション能力

<発表>

レポートまたは研究論文は、読み手に、口頭発表は、聞き手に、

[5. 80%以上理解させられる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解させられない。]

<英語>

- (1) 専門科目の学習または卒業研究に関連する英文を読んで内容を

[5. 理解できる。→ 4. → 3. → 2. → 1. ほとんど理解できない。]

- (2) 卒業研究論文のアブストラクトによって、自分が行った研究の概要を、

[5. 正確に記述することができた。→ 4. → 3. → 2. → 1. 正確に記述できなかった。]

<学校の目的の周知>

教育理念, 養成すべき人材像, 教養・専門教育の目標等に基づく「学習・教育到達目標」を

[5. 十分理解していると思う。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解できていない。]

<学校の使命の周知>

本校の使命を [5. よく知っている。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く知らない。]

## 令和6年度鈴鹿工業高等専門学校在学生の達成度アンケート集計結果一覧

## 学生自身による電気電子工学科学習・教育目標の達成度評価シート

電気電子工学科 学習・教育目標に関する以下の項目について、入学時から現在までの達成度に該当する番号に○を付けて下さい。達成度は自身の評価で、5 - 8割以上、4 - 7割程度、3 - 6割程度、2 - 6割未満、1 - 未習得として評価して下さい。

## (A) 技術者としての姿勢

## ＜視野＞

以下のようなことが

[5. よくある。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全くない。]

(1) 人文・社会科学や外国語の科目を受講・勉強しているときに、日本と他国の違いを意識して興味が湧いたり、感心したりすること

(2) 新聞や TV などのメディアを通じて国内における出来事（事件・事故・紹介など）を見て、外国人の目にどのように写るかあるいは日本との違いを考えたりすること

(3) 社会における自分の立場（〇〇歳である・学生である・高専生である・工学技術の修習生である、など）を意識して、自分はどうかあるべきかを考えること

## ＜技術者倫理＞

特活、倫理・社会、創造工学、卒業研究等に加え、新聞や TV などのメディアを通じて国内外における企業モラルの欠如に起因する出来事を通して、技術者としてあるべき姿やこれまで学んできた技術が社会や環境にどのような影響を与えるかを、

[5. 思い描くことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く思い描くことができない。]

## ＜意欲＞

実験や創造工学、卒業研究で知識を超える課題・問題に直面した際、[5. わかるまで調べた。4. 図書館などに出向き関係図書等で調べた。3. 図書館などに出向き関係図書等で調べることがあった。2. 関係が深そうな先生や先輩に尋ねた。1. 自分には難しすぎるので解決をあきらめた。]

## (B) 基礎・専門の知識とその応用力

## ＜基礎＞

(1) 数学以外の科目の学習において、数学を必要とするとき、あるいは物理・化学以外の科目の学習において、物理や化学の知識を必要とするとき、

[5. 公式や定理・原理や法則などを使うことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. ほとんど使えない。]

(2) ハードウェアとソフトウェアの関係、プログラミング技術、情報セキュリティ概論を通じて安全なネットワークの利用法等の情報基礎について、

[5. よく知っており実験などで活用できる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く知らず実験などでも活用できない。]

## ＜専門＞

(1) 生産・製造方法等に関連する知識は、電気電子製図、電気磁気学、電気回路、電子回路、デジタル回路、半導体工学、電気機器、電力システム工学等を通じて、

[5. 十分理解している。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解していない。]

(2) 材料の種類、特性・性質等に関連する知識は、電子物性基礎、電気電子材料のほか、電気電子工学実験を通じて、

[5. 十分理解している。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解していない。]

(3) 計測技術に関連する知識は、電気電子計測、電気磁気学、電気回路、電子回路、デジタル回路、半導体工学、電気機器、情報通信工学等のほか、電気電子工学実験を通じて、

## 令和6年度鈴鹿工業高等専門学校在学生の達成度アンケート集計結果一覧

[5. 十分理解している。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解していない。]

- (4) 工学実験における計測に関連した諸問題に対して、必要となる基礎的な電子回路、シーケンサ、センサの原理や方法を使えるほか、自らが得た実験結果等に対して、電気電子計測、情報処理、計算機システム、情報通信工学等の知識をもとに、論理的な解析や整理を、自ら行うことが

[5. よく出来る。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く出来ない。]

- (5) 製造過程に見られる環境負荷に関する問題に対して、電気電子工学に関する専門分野の知識や情報を、
- [5. 自力で使うことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 自力では使えない。]

<展開>

- (1) 解決すべき問題に対する解決法を、電気電子工学に関する専門分野の知識や情報をもとに見出し、限られた時間内で計画的に実行するために、電気電子工学に関する専門分野の知識や情報を自ら

[5. 使うことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 使えない。]

- (2) 限られた時間内でレポート、論文等を整理するために、電気電子工学に関する専門分野の知識や情報を、

[5. 自力で使うことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 自力では使えない。]

- (3) 社会（社会貢献、環境負荷等）に対して、自分の課題（創造工学、卒業研究）をどのように設定して、どのように解決していくかを自分で、

[5. 十分理解している。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解していない。]

(C) コミュニケーション能力

<発表>

レポートまたは研究論文は、読み手に、口頭発表は、聞き手に、

[5. 80%以上理解させられる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解させられない。]

<英語>

- (1) 専門科目の学習または卒業研究に関連する英文を読んで内容を、

[5. 理解できる。→ 4. → 3. → 2. → 1. ほとんど理解できない。]

- (2) 卒業研究論文のアブストラクトによって、自分が行った研究の概要を、

[5. 正確に記述することができた。→ 4. → 3. → 2. → 1. 正確に記述できなかった。]

<学校の目的の周知>

教育理念、養成すべき人材像、教養・専門教育の目標等に基づく「学習・教育目標」を、

[5. 十分理解していると思う。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解できていない。]

<学校の使命の周知>

本校の使命を [5. よく知っている。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く知らない。]

## 令和6年度鈴鹿工業高等専門学校在学生の達成度アンケート集計結果一覧

## 学生自身による電子情報工学科 学習・教育到達目標の達成度評価シート

電子情報工学科 学習・教育到達目標に関する以下の項目について、入学時から現在までの達成度に該当する番号を回答して下さい。達成度は自身の評価で、5 - 8 割以上、4 - 7 割程度、3 - 6 割程度、2 - 6 割未満、1 - 未習得として評価して下さい。

## (A) 技術者としての姿勢

## &lt;視野&gt;

以下のようなことが

[5. よくある。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全くない。]

(1) 人文・社会科学や外国語の科目を受講・勉強しているときに、日本と他国の違いを意識して興味が湧いたり、感心したりすること

(2) 新聞や TV などのメディアを通じて国内における出来事（事件・事故・紹介など）を見て、外国人の目にどのように写るかあるいは日本との違いを考えたりすること

(3) 社会における自分の立場（〇〇歳である・学生である・高専生である・工学技術の修習生である、など）を意識して、自分はどうかあるべきかを考えること

## &lt;技術者倫理&gt;

特活、倫理・社会、創造工学、卒業研究等に加え、新聞や TV などのメディアを通じて国内外における企業モラルの欠如に起因する出来事を通して、技術者としてあるべき姿やこれまで学んできた技術が社会や環境にどのような影響を与えるかを、

[5. 思い描くことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く思い描くことができない。]

## &lt;意欲&gt;

実験や創造工学、卒業研究で知識を超える課題・問題に直面した際、[5. わかるまで調べた。4. 図書館などに出向き関係図書等で調べた。3. 図書館などに出向き関係図書等で調べることがあった。2. 関係が深そうな先生や先輩に尋ねた。1. 自分には難しすぎるので解決をあきらめた。]

## (B) 基礎・専門の知識とその応用力

## &lt;基礎&gt;

(1) 数学以外の科目の学習において、数学を必要とするとき、あるいは物理・化学以外の科目の学習において、物理や化学の知識を必要とするとき、

[5. 公式や定理・原理や法則などを使うことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. ほとんど使えない。]

(2) ハードウェアとソフトウェアの関係、プログラミング技術、情報セキュリティ概論を通じて安全なネットワークの利用法等の情報基礎について、

[5. よく知っており実験などで活用できる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く知らず実験などでも活用できない。]

## &lt;専門&gt;

(1) 生産・製造方法等に関連する知識は、デジタル回路、基礎制御工学、電子制御工学、ソフトウェア工学、計算機アーキテクチャ、情報通信ネットワーク、電子情報工学実験等を通じて、

[5. 十分理解している。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解していない。]

(2) 材料の種類、特性・性質等に関連する知識は、電子工学、電子材料工学、集積回路工学、電子情報工学実験等を通じて、

[5. 十分理解している。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解していない。]

(3) 計測技術に関連する知識は、電子機器学、電子回路、電子計測、電子情報工学実験等を通じて、

[5. 十分理解している。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解していない。]

## 令和6年度鈴鹿工業高等専門学校在学生の達成度アンケート集計結果一覧

- (4) 効率的な問題解決システムの構築または利用に関する知識は、オペレーティングシステム、データ構造とアルゴリズム、画像処理工学、人工知能、電子情報工学実験等を使えるほか、自らが得た実験結果等に対して、情報関連科目の知識をもとに、論理的な解析や整理を、自ら行うことが

[5. よくできる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全くできない。]

- (5) 種々の製造過程に見られる環境負荷に関する問題に対して、電子及び情報工学に関する専門分野の知識や情報を、

[5. 自力で使うことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 自力では使えない。]

## &lt;展開&gt;

- (1) 解決すべき問題に対する解決法を、電子及び情報工学に関する専門分野の知識や情報をもとに見出し、限られた時間内で計画的に実行するために、電子及び情報工学に関する専門分野の知識や情報を自ら、

[5. 使うことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 使えない。]

- (2) 限られた時間内でレポート、論文等を整理するために、電子及び情報工学に関する専門分野の知識や情報を、

[5. 自力で使うことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 自力では使えない。]

- (3) 社会（社会貢献、環境負荷等）に対して、自分の課題（総合実習、創造工学、卒業研究）をどのように設定して、どのように解決していくかを自分で、

[5. 十分理解している。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解していない。]

## (C) コミュニケーション能力

## &lt;発表&gt;

レポートまたは研究論文は、読み手に、口頭発表は、聞き手に、

[5. 80 %以上理解させられる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解させられない。]

## &lt;英語&gt;

- (1) 専門科目の学習または卒業研究に関連する英文を読んで内容を

[5. 理解できる。→ 4. → 3. → 2. → 1. ほとんど理解できない。]

- (2) 卒業研究論文のアブストラクトによって、自分が行った研究の概要を、

[ 5. 正確に記述することができた。→ 4. → 3. → 2. → 1. 正確に記述できなかった。]

## &lt;学校の目的の周知&gt;

教育理念、養成すべき人材像、教養・専門教育の目標等に基づく「学習・教育到達目標」を

[5. 十分理解していると思う。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解できていない。]

## &lt;学校の使命の周知&gt;

本校の使命を [5. よく知っている。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く知らない。]

## 令和6年度鈴鹿工業高等専門学校在学生の達成度アンケート集計結果一覧

## 学生自身による生物応用化学科学習・教育目標の達成度評価シート

生物応用化学科 学習・教育到達目標に関する以下の項目について、入学時から現在までの達成度に該当する番号を回答して下さい。達成度は自身の評価で、5 - 8割以上、4 - 7割程度、3 - 6割程度、2 - 6割未満、1 - 未習得として評価して下さい。

## (A) 技術者としての姿勢

## &lt;視野&gt;

以下のようなことが

[5. よくある。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全くない。]

(1) 人文・社会科学や外国語の科目を受講・勉強しているときに、日本と他国の違いを意識して興味が湧いたり、感心したりすること

(2) 新聞やTVなどのメディアを通じて国内における出来事（事件・事故・紹介など）を見て、外国人の目にどのように写るかあるいは日本との違いを考えたりすること

(3) 社会における自分の立場（〇〇歳である・学生である・高専生である・工学技術の修習生である、など）を意識して、自分はどうかあるべきかを考えること

## &lt;技術者倫理&gt;

特活、倫理・社会、創造工学、卒業研究等に加え、新聞やTVなどのメディアを通じて国内外における企業モラルの欠如に起因する出来事（例えば①自動車の車軸の強度不足を認識していたがリコールせず放置していた、②生産活動の結果、環境を破壊した、③ずさんな工程管理のため食中毒を引き起こした、等の事件）を通じて、技術者としてあるべき姿やこれまで学んできた技術が環境にどのような影響を与えるかを、

[5. 思い描くことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く思い描くことができない。]

## &lt;意欲&gt;

実験や創造工学、卒業研究で知識を超える課題・問題に直面した際、[5. わかるまで調べた。4. 図書館などに出向き関係図書等で調べた。3. 図書館などに出向き関係図書等で調べることがあった。2. 関係が深そうな先生や先輩に尋ねた。1. 自分には難しすぎるので解決をあきらめた。]

## (B) 基礎・専門の知識とその応用力

## &lt;基礎&gt;

(1) 数学以外の科目の学習において、数学を必要とするとき、あるいは物理・化学以外の科目の学習において、物理や化学の知識を必要とするとき、

[5. 公式や定理・原理や法則などを使うことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. ほとんど使えない。]

(2) ハードウェアとソフトウェアの関係、プログラミング技術、情報セキュリティ概論を通じて安全なネットワークの利用法等の情報基礎について、

[5. よく知っており実験などで活用できる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く知らず実験などでも活用できない。]

## &lt;専門&gt;

(1) 生産・製造方法等に関連する知識は、化学工学Ⅰ、化学工学Ⅱ、生物化学工学、反応工学、生物反応工学、無機工業化学、有機工業化学、微生物学等を通じて

[5. 十分理解している。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解していない。]

(2) 原料・材料および製品等の種類、性質等に関連する知識は、無機工業化学、有機工業化学、高分子化学、機能材料工学、微生物学、分子生物学、タンパク質化学等を通じて

[5. 十分理解している。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解していない。]

(3) 分析や計測に関連する知識は、分析化学、機器分析化学、環境分析化学、タンパク質化学、遺伝子工学、生物応用化学実験、応用化学コース実験および生物化学コース実験等を通じて理解しているほか、自らが得た実験結果等に対して、情報処理Ⅰ、情報処理Ⅱおよび情報処理応用等の知識をもとに、論理的な解析や整理を、自ら行うことが

[5. よく出来る。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く出来ない。]

## 令和6年度鈴鹿工業高等専門学校在学生の達成度アンケート集計結果一覧

- (4) 環境に関する知識は、環境工学序論、環境工学総論等を通じて  
[5. 十分理解している。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解していない。]

## &lt;展開&gt;

- (1) 解決すべき問題に対する解決法を、化学および生物化学に関する専門知識や実験技術等をもとに見出し、限られた時間内で計画的に実行するために、化学および生物化学に関する専門知識や実験技術を自ら  
[5. 使うことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 使えない。]
- (2) 限られた時間内でレポート、論文等を整理するために、化学および生物化学に関する専門知識や情報を  
[5. 自力で使うことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 自力では使えない。]
- (3) 社会（社会貢献、環境負荷等）に対して、自分の課題（創造工学、卒業研究）をどのように設定して、どのように解決していくかを自分で  
[5. 十分理解している。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解していない。]

## (C) コミュニケーション能力

## &lt;発表&gt;

レポートまたは研究論文は、読み手に、口頭発表は、聞き手に、  
[5. 80 %以上理解させられる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解させられない。]

## &lt;英語&gt;

- (1) 専門科目の学習または卒業研究に関連する英文を読んで内容を  
[5. 理解できる。→ 4. → 3. → 2. → 1. ほとんど理解できない。]
- (2) 卒業研究論文のアブストラクトによって、自分が行った研究の概要を  
[5. 正確に記述することができた。→ 4. → 3. → 2. → 1. 正確に記述できなかった。]

## &lt;学校の目的の周知&gt;

教育理念、養成すべき人材像、教養・専門教育の目標等に基づく「学習・教育到達目標」を  
[5. 十分理解していると思う。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解できていない。]

## &lt;学校の使命の周知&gt;

本校の使命を [5. よく知っている。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く知らない。]

## 学生自身による材料工学科学習・教育目標の達成度評価シート

材料工学科 学習・教育到達目標に関する以下の項目について、入学時から現在までの達成度に該当する番号を回答して下さい。達成度は自身の評価で、5 - 8割以上、4 - 7割程度、3 - 6割程度、2 - 6割未満、1 - 未習得として評価して下さい。

### (A) 技術者としての姿勢

#### <視野>

以下のようなことが

[5. よくある。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全くない。]

(1) 人文・社会科学や外国語の科目を受講・勉強しているときに、日本と他国の違いを意識して興味が湧いたり、感心したりすること

(2) 新聞やTVなどのメディアを通じて国内における出来事(事件・事故・紹介など)を見て、外国人の目にどのように写るかあるいは日本との違いを考えたりすること

(3) 社会における自分の立場(〇〇歳である・学生である・高専生である・工学技術の修習生である、など)を意識して、自分はどうかあるべきかを考えること

#### <技術者倫理>

特活、倫理・社会、創造工学、卒業研究等に加え、新聞やTVなどのメディアを通じて国内外における企業モラルの欠如に起因する出来事を通して、技術者としてあるべき姿やこれまで学んできた技術が社会や環境にどのような影響を与えるかを、

[5. 思い描くことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く思い描くことができない。]

#### <意欲>

実験や創造工学、卒業研究で知識を超える課題・問題に直面した際、[5. わかるまで調べた。4. 図書館などに出向き関係図書等で調べた。3. 図書館などに出向き関係図書等で調べることがあった。2. 関係が深そうな先生や先輩に尋ねた。1. 自分には難しすぎるので解決をあきらめた。]

### (B) 基礎・専門の知識とその応用力

#### <基礎>

(1) 数学以外の科目の学習において、数学を必要とするとき、あるいは物理・化学以外の科目の学習において、物理や化学の知識を必要とするとき、

[5. 公式や定理・原理や法則などを使うことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. ほとんど使えない。]

(2) ハードウェアとソフトウェアの関係、プログラミング技術、情報セキュリティ概論を通じて安全なネットワークの利用法等の情報基礎について、

[5. よく知っており実験などで活用できる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く知らず実験などでも活用できない。]

#### <専門>

(1) 生産・製造方法等に関連する知識は、工学基礎実験、機械工作法、ものづくり実習、材料工学実験、接合工学、塑性加工工学、鋳造工学、設計製図Ⅰ、設計製図Ⅱ、設計製図Ⅲ、設計製図Ⅳ、信頼性工学、生産設計工学等を通じて、

[5. 十分理解している。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解していない。]

(2) 原料・材料および製品等の種類、性質等に関連する知識は、材料工学序論、基礎材料学、材料組織学、材料強度学、無機材料、有機材料、鉄鋼材料、軽金属材料、触媒材料科学、機能材料、複合材料、材料力学、材料強度工学、物性工学等を通じて、

[5. 十分理解している。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解していない。]

## 令和6年度鈴鹿工業高等専門学校在学生の達成度アンケート集計結果一覧

- (3) 材料の化学に関する知識は、無機化学、有機化学、物理化学、基礎熱力学、応用熱力学、統計熱力学、量子力学、電気化学、物性工学等を通じて、  
[5. 十分理解している。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解していない。]
- (4) 分析や計測に関連する知識は、材料評価法、材料力学、結晶解析学、材料機器分析、材料工学実験、非破壊検査工学等を通じて理解しているほか、自らが得た実験結果等に対して、情報処理Ⅰ、情報処理Ⅱ、情報処理Ⅲ、情報処理応用等の知識をもとに、論理的な解析や整理を、  
[5. 十分理解している。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解していない。]
- (5) 環境に関する知識は、材料環境科学や材料工学に関する専門分野の知識や情報を通じて、  
[5. 十分理解している。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解していない。]

## &lt;展開&gt;

- (1) 解決すべき問題に対する解決法を、材料工学に関する専門分野の知識や情報をもとに見出し、限られた時間内で計画的に実行するために、材料工学に関する専門分野の知識や情報を自ら、  
[5. 使うことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 使えない。]
- (2) 限られた時間内でレポート、論文等を整理するために、材料工学に関する専門分野の知識や情報を、  
[5. 自力で使うことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 自力では使えない。]
- (3) 社会（社会貢献、環境負荷等）に対して、自分の課題（創造工学、卒業研究）をどのように設定して、どのように解決していくかを自分で、  
[5. 十分理解している。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解していない。]

## (C) コミュニケーション能力

## &lt;発表&gt;

レポートまたは研究論文は、読み手に、口頭発表は、聞き手に、  
[5. 80%以上理解させられる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解させられない。]

## &lt;英語&gt;

- (1) 専門科目の学習または卒業研究に関連する英文を読んで内容を  
[5. 理解できる。→ 4. → 3. → 2. → 1. ほとんど理解できない。]
- (2) 卒業研究論文のアブストラクトによって、自分が行った研究の概要を、  
[5. 正確に記述することができた。→ 4. → 3. → 2. → 1. 正確に記述できなかった。]

## &lt;学校の目的の周知&gt;

教育理念、養成すべき人材像、教養・専門教育の目標等に基づく「学習・教育到達目標」を  
[5. 十分理解していると思う。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解できていない。]

## &lt;学校の使命の周知&gt;

本校の使命を [5. よく知っている。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く知らない。]

## 令和6年度鈴鹿工業高等専門学校在学生の達成度アンケート集計結果一覧

## 学生自身による機械工学科 学習・教育到達目標の達成度評価シート

機械工学科 学習・教育到達目標に関する以下の項目について、入学時から現在までの達成度に該当する番号を回答して下さい。達成度は自身の評価で、5 - 8割以上、4 - 7割程度、3 - 6割程度、2 - 6割未満、1 - 未習得として評価して下さい。

## (A) 技術者としての姿勢

## &lt;視野&gt;

- (1) 人文・社会科学や外国語の科目を受講・勉強しているときに、日本と他国の違いを意識して興味が湧いたり、感心したりすることが、  
[5. よくある。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全くない。]
- (2) 新聞やTVなどのメディアを通じて国内における出来事（事件・事故・紹介など）を見て、外国人の目にどのように写るかを考えたりすることが、  
[5. よくある。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全くない。]
- (3) 新聞やTVなどのメディアを通じて国外における出来事（事件・事故・紹介など）を見て、日本との違いを考えたりすることが、  
[5. よくある。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全くない。]
- (4) 社会における自分の立場（〇〇歳である、学生である、高専生である、工学技術を学んでいるなど）を意識して、自分はどうかあるべきかを考えることが、  
[5. よくある。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全くない。]

## &lt;技術者倫理&gt;

- (1) 特活、倫理・社会、創造工学、卒業研究等に加え、新聞やTVなどのメディアを通じて国内外における企業モラルの欠如に起因する出来事を通して、技術者としてあるべき姿を、  
[5. 思い描くことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く思い描くことができない。]
- (2) これまで学んできた技術が社会や環境にどのような影響を与えるかを、  
[5. 思い描くことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く思い描くことができない。]

## &lt;意欲&gt;

実験や創造工学、卒業研究で知識を超える課題・問題に直面した際、[5. わかるまで調べた。4. 図書館などに出向き関係図書等で調べた。3. 図書館などに出向き関係図書等で調べることがあった。2. 関係が深そうな先生や先輩に尋ねた。1. 自分には難しすぎるので解決をあきらめた。]

## (B) 基礎・専門の知識とその応用力

## &lt;基礎&gt;

- (1) 数学以外の科目の学習において、数学を必要とするとき、  
[5. 公式や定理などを使うことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. ほとんど使えない。]
- (2) 物理・化学以外の科目の学習において、物理や化学の知識を必要とするとき、  
[5. 原理や法則などを使うことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. ほとんど使えない。]
- (3) ハードウェアとソフトウェアの関係、プログラミング技術、情報セキュリティ概論を通じて安全なネットワークの利用法等の情報基礎について、  
[5. よく知っている。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く知らない。]
- (4) 上記の情報基礎に関する知識を、  
[5. 実験や卒業研究で活用できる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く活用できない。]

## &lt;専門&gt;

- (1) 生産・製造方法等に関連する知識は、機械設計製図、総合実習、材料力学、熱力学（熱工学）、水力学（流体工学）、機械力学、工学基礎実験、機械工作法、機械設計基礎、機械工作実習、機械運動学、

## 令和6年度鈴鹿工業高等専門学校在学生の達成度アンケート集計結果一覧

熱・流体工学基礎，機械設計法，生産システム，電気工学概論，電気・電子回路，メカトロニクス演習，ロボット工学等を通じて，

[5. 十分理解している。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解していない。]

- (2) 材料の種類，特性・性質等に関連する知識は，材料学，弾・塑性学等のほか，機械工学実験を通じて，  
[5. 十分理解している。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解していない。]

- (3) 計測技術に関連する知識は，計測工学，アクチュエータ工学，制御工学等のほか，機械工作実習，機械工学実習，総合実習，機械工学実験を通じて，  
[5. 十分理解している。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解していない。]

- (4) 工学実験における計測に関連した諸問題に対して，必要となる基礎的な 4 力学（材料力学，熱力学，流体力学，機械力学）の計測原理や方法を，  
[5. よく使える。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く使えない。]

- (5) 自らが得た実験結果等に対して，情報処理，数値解析等の知識をもとに，論理的な解析や整理を，  
[5. 自力で行うことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 自力では行えない。]

- (6) 製造過程に見られる環境負荷に関する問題に対して，機械工学に関する専門分野の知識や情報を，  
[5. 自力で使うことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 自力では使えない。]

## &lt;展開&gt;

- (1) 解決すべき問題に対する解決法を，機械工学に関する専門分野の知識や情報をもとに，  
[5. 見出せることがある。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く思いつかない。]
- (2) 解決すべき問題の解決法を限られた時間内で計画的に実行するために，機械工学に関する専門分野の知識や情報を，  
[5. 自力で使うことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 自力では使えない。]
- (3) 限られた時間内でレポート，論文等を整理するために，機械工学に関する専門分野の知識や情報を，  
[5. 自力で使うことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 自力では使えない。]
- (4) 社会（社会貢献，環境負荷等）に対して，自分の課題（総合実習，創造工学，卒業研究）をどのように設定して，どのように解決していくかを自分で，  
[5. 十分理解している。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解していない。]

## (C) コミュニケーション能力

## &lt;発表&gt;

- (1) レポートまたは研究論文は，読み手に，  
[5. 80 %以上理解させられる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解させられない。]
- (2) 口頭発表は，聞き手に，  
[5. 80 %以上理解させられる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解させられない。]

## &lt;英語&gt;

- (1) 専門科目の学習または卒業研究に関連する英文を読んで内容を  
[5. 理解できる。→ 4. → 3. → 2. → 1. ほとんど理解できない。]
- (2) 卒業研究論文のアブストラクトによって，自分が行った研究の概要を，  
[ 5. 正確に記述することができた。→ 4. → 3. → 2. → 1. 正確に記述できなかった。]

## &lt;学校の目的の周知&gt;

教育理念，養成すべき人材像，教養・専門教育の目標等に基づく「学習・教育到達目標」を  
[5. 十分理解していると思う。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解できていない。]

## &lt;学校の使命の周知&gt;

本校の使命を [5. よく知っている。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く知らない。]

## 令和6年度鈴鹿工業高等専門学校在学生の達成度アンケート集計結果一覧

## 学生自身による電気電子工学科学習・教育目標の達成度評価シート

電気電子工学科 学習・教育目標に関する以下の項目について、入学時から現在までの達成度に該当する番号に○を付けて下さい。達成度は自身の評価で、5 - 8割以上、4 - 7割程度、3 - 6割程度、2 - 6割未満、1 - 未習得として評価して下さい。

## (A) 技術者としての姿勢

## &lt;視野&gt;

- (1) 人文・社会科学や外国語の科目を受講・勉強しているときに、日本と他国の違いを意識して興味が湧いたり、感心したりすることが、  
[5. よくある。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全くない。]
- (2) 新聞やTVなどのメディアを通じて国内における出来事(事件・事故・紹介など)を見て、外国人の目にどのように写るかを考えたりすることが、  
[5. よくある。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全くない。]
- (3) 新聞やTVなどのメディアを通じて国外における出来事(事件・事故・紹介など)を見て、日本との違いを考えたりすることが、  
[5. よくある。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全くない。]
- (4) 社会における自分の立場(〇〇歳である・学生である・高専生である・工学技術の修習生である、など)を意識して、自分はどうかあるべきかを考えることが、  
[5. よくある。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全くない。]

## &lt;技術者倫理&gt;

- (1) 特活、倫理・社会、創造工学、卒業研究等に加え、新聞やTVなどのメディアを通じて国内外における企業モラルの欠如に起因する出来事を通して、技術者としてあるべき姿を、  
[5. 思い描くことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く思い描くことができない。]
- (2) これまで学んできた技術が社会や環境にどのような影響を与えるかを、  
[5. 思い描くことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く思い描くことができない。]

## &lt;意欲&gt;

実験や創造工学、卒業研究で知識を超える課題・問題に直面した際、[5. わかるまで調べた。4. 図書館などに出向き関係図書等で調べた。3. 図書館などに出向き関係図書等で調べることがあった。2. 関係が深そうな先生や先輩に尋ねた。1. 自分には難しすぎるので解決をあきらめた。]

## (B) 基礎・専門の知識とその応用力

## &lt;基礎&gt;

- (1) 数学以外の科目の学習において、数学を必要とするとき、  
[5. 公式や定理などを使うことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. ほとんど使えない。]
- (2) 物理・化学以外の科目の学習において、物理や化学の知識を必要とするとき、  
[5. 原理や法則などを使うことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. ほとんど使えない。]
- (3) ハードウェアとソフトウェアの関係、プログラミング技術、情報セキュリティ概論を通じて安全なネットワークの利用法等の情報基礎について、  
[5. よく知っている。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く知らない。]
- (4) 上記の情報基礎に関する知識を、  
[5. 実験や卒業研究で活用できる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く活用できない。]

## &lt;専門&gt;

- (1) 生産・製造方法等に関連する知識は、電気電子製図、電気磁気学、電気回路、電子回路、デジタル回路、半導体工学、電気機器、電力システム工学等を通じて、

## 令和6年度鈴鹿工業高等専門学校在学生の達成度アンケート集計結果一覧

[5. 十分理解している。 → 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解していない。]

- (2) 材料の種類、特性・性質等に関連する知識は、電子物性基礎、電気電子材料のほか、電気電子工学実験を通じて、

[5. 十分理解している。 → 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解していない。]

- (3) 計測技術に関連する知識は、電気電子計測、電気磁気学、電気回路、電子回路、デジタル回路、半導体工学、電気機器、情報通信工学等のほか、電気電子工学実験を通じて、

[5. 十分理解している。 → 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解していない。]

- (4) 工学実験における計測に関連した諸問題に対して、必要となる基礎的な電子回路、シーケンサ、センサの原理や方法を、

[5. よく使える。 → 4. → 3. → 2. → 1. 全く使えない。]

- (5) 自らが得た実験結果等に対して、電気電子計測、情報処理、計算機システム、情報通信工学等の知識をもとに、論理的な解析や整理を、

[5. 自力で行うことができる。 → 4. → 3. → 2. → 1. 自力では行えない。]

- (6) 製造過程に見られる環境負荷に関する問題に対して、電気電子工学に関する専門分野の知識や情報を、

[5. 自力で使うことができる。 → 4. → 3. → 2. → 1. 自力では使えない。]

<展開>

- (1) 解決すべき問題に対する解決法を、電気電子工学に関する専門分野の知識や情報をもとに、

[5. 見出せることがある。 → 4. → 3. → 2. → 1. 全く思いつかない。]

- (2) 解決すべき問題の解決法を限られた時間内で計画的に実行するために、電気電子工学に関する専門分野の知識や情報を、

[5. 自力で使うことができる。 → 4. → 3. → 2. → 1. 自力では使えない。]

- (3) 限られた時間内でレポート、論文等を整理するために、電気電子工学に関する専門分野の知識や情報を、

[5. 自力で使うことができる。 → 4. → 3. → 2. → 1. 自力では使えない。]

- (4) 社会（社会貢献、環境負荷等）に対して、自分の課題（創造工学、卒業研究）をどのように設定して、どのように解決していくかを自分で、

[5. 十分理解している。 → 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解していない。]

(C) コミュニケーション能力

<発表>

- (1) レポートまたは研究論文は、読み手に、

[5. 80%以上理解させられる。 → 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解させられない。]

- (2) 口頭発表は、聞き手に、

[5. 80%以上理解させられる。 → 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解させられない。]

<英語>

- (1) 専門科目の学習または卒業研究に関連する英文を読んで内容を、

[5. 理解できる。 → 4. → 3. → 2. → 1. ほとんど理解できない。]

- (2) 卒業研究論文のアブストラクトによって、自分が行った研究の概要を、

[5. 正確に記述することができた。 → 4. → 3. → 2. → 1. 正確に記述できなかった。]

<学校の目的の周知>

教育理念、養成すべき人材像、教養・専門教育の目標等に基づく「学習・教育目標」を、

[5. 十分理解していると思う。 → 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解できていない。]

<学校の使命の周知>

本校の使命を [5. よく知っている。 → 4. → 3. → 2. → 1. 全く知らない。]

## 令和6年度鈴鹿工業高等専門学校在学生の達成度アンケート集計結果一覧

## 学生自身による電子情報工学科 学習・教育到達目標の達成度評価シート

電子情報工学科 学習・教育到達目標に関する以下の項目について、入学時から現在までの達成度に該当する番号を回答して下さい。達成度は自身の評価で、5 - 8 割以上、4 - 7 割程度、3 - 6 割程度、2 - 6 割未満、1 - 未習得として評価して下さい。

## (A) 技術者としての姿勢

## &lt;視野&gt;

- (1) 人文・社会科学や外国語の科目を受講・勉強しているときに、日本と他国の違いを意識して興味が湧いたり、感心したりすることが、  
[5. よくある。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全くない。]
- (2) 新聞やTVなどのメディアを通じて国内における出来事（事件・事故・紹介など）を見て、外国人の目にどのように写るかを考えたりすることが、  
[5. よくある。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全くない。]
- (3) 新聞やTVなどのメディアを通じて国外における出来事（事件・事故・紹介など）を見て、日本との違いを考えたりすることが、  
[5. よくある。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全くない。]
- (4) 社会における自分の立場（〇〇歳である、学生である、高専生である、工学技術を学んでいるなど）を意識して、自分はどうかあるべきかを考えることが、  
[5. よくある。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全くない。]

## &lt;技術者倫理&gt;

- (1) 特活、倫理・社会、創造工学、卒業研究等に加え、新聞やTVなどのメディアを通じて国内外における企業モラルの欠如に起因する出来事を通して、技術者としてあるべき姿を、  
[5. 思い描くことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く思い描くことができない。]
- (2) これまで学んできた技術が社会や環境にどのような影響を与えるかを、  
[5. 思い描くことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く思い描くことができない。]

## &lt;意欲&gt;

実験や創造工学、卒業研究で知識を超える課題・問題に直面した際、[5. わかるまで調べた。4. 図書館などに出向き関係図書等で調べた。3. 図書館などに出向き関係図書等で調べることがあった。2. 関係が深そうな先生や先輩に尋ねた。1. 自分には難しすぎるので解決をあきらめた。]

## (B) 基礎・専門の知識とその応用力

## &lt;基礎&gt;

- (1) 数学以外の科目の学習において、数学を必要とするとき、  
[5. 公式や定理などを使うことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. ほとんど使えない。]
- (2) 物理・化学以外の科目の学習において、物理や化学の知識を必要とするとき、  
[5. 原理や法則などを使うことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. ほとんど使えない。]
- (3) ハードウェアとソフトウェアの関係、プログラミング技術、情報セキュリティ概論を通じて安全なネットワークの利用法等の情報基礎について、  
[5. よく知っている。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く知らない。]
- (4) 上記の情報基礎に関する知識を、  
[5. 実験や卒業研究で活用できる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く活用できない。]

## &lt;専門&gt;

- (1) 生産・製造方法等に関連する知識は、デジタル回路、基礎制御工学、電子制御工学、ソフトウェア工学、計算機アーキテクチャ、情報通信ネットワーク、電子情報工学実験等を通じて、

## 令和6年度鈴鹿工業高等専門学校在学生の達成度アンケート集計結果一覧

[5. 十分理解している。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解していない。]

- (2) 材料の種類, 特性・性質等に関連する知識は, 電子工学, 電子材料工学, 集積回路工学, 電子情報工学実験等を通じて,

[5. 十分理解している。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解していない。]

- (3) 計測技術に関連する知識は, 電子機器学, 電子回路, 電子計測, 電子情報工学実験等を通じて,

[5. 十分理解している。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解していない。]

- (4) (4) 効率的な問題解決システムの構築または利用に関する知識は, オペレーティングシステム, データ構造とアルゴリズム, 画像処理工学, 人工知能, 電子情報工学実験等を,

[5. よく使える。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く使えない。]

- (5) 自らが得た実験結果等に対して, 情報関連科目の知識をもとに, 論理的な解析や整理を,

[5. 自力で行うことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 自力では行えない。]

- (6) 種々の製造過程に見られる環境負荷に関する問題に対して, 電子及び情報工学に関する専門分野の知識や情報を,

[5. 自力で使うことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 自力では使えない。]

## &lt;展開&gt;

- (1) 解決すべき問題に対する解決法を, 電子及び情報工学に関する専門分野の知識や情報をもとに,

[5. 見出せることがある。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く思いつかない。]

- (2) 解決すべき問題の解決法を限られた時間内で計画的に実行するために, 電子及び情報工学に関する専門分野の知識や情報を,

[5. 自力で使うことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 自力では使えない。]

- (3) 限られた時間内でレポート, 論文等を整理するために, 電子及び情報工学に関する専門分野の知識や情報を,

[5. 自力で使うことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 自力では使えない。]

- (4) 社会(社会貢献, 環境負荷等)に対して, 自分の課題(総合実習, 創造工学, 卒業研究)をどのように設定して, どのように解決していくかを自分で,

[5. 十分理解している。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解していない。]

- (C) コミュニケーション能力

## &lt;発表&gt;

- (1) レポートまたは研究論文は, 読み手に,

[5. 80%以上理解させられる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解させられない。]

- (2) 口頭発表は, 聞き手に,

[5. 80%以上理解させられる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解させられない。]

## &lt;英語&gt;

- (1) 専門科目の学習または卒業研究に関連する英文を読んで内容を

[5. 理解できる。→ 4. → 3. → 2. → 1. ほとんど理解できない。]

- (2) 卒業研究論文のアブストラクトによって, 自分が行った研究の概要を,

[5. 正確に記述することができた。→ 4. → 3. → 2. → 1. 正確に記述できなかった。]

## &lt;学校の目的の周知&gt;

教育理念, 養成すべき人材像, 教養・専門教育の目標等に基づく「学習・教育到達目標」を

[5. 十分理解していると思う。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解できていない。]

## &lt;学校の使命の周知&gt;

本校の使命を [5. よく知っている。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く知らない。]

## 令和6年度鈴鹿工業高等専門学校在学生の達成度アンケート集計結果一覧

## 学生自身による生物応用化学科学習・教育目標の達成度評価シート

生物応用化学科 学習・教育到達目標に関する以下の項目について、入学時から現在までの達成度に該当する番号を回答して下さい。達成度は自身の評価で、5 - 8割以上、4 - 7割程度、3 - 6割程度、2 - 6割未満、1 - 未習得として評価して下さい。

## (A) 技術者としての姿勢

## &lt;視野&gt;

- (1) 人文・社会科学や外国語の科目を受講・勉強しているときに、日本と他国の違いを意識して興味が湧いたり、感心したりすることが、  
[5. よくある。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全くない。]
- (2) 新聞やTVなどのメディアを通じて国内における出来事（事件・事故・紹介など）を見て、外国人の目にどのように写るかを考えたりすることが  
[5. よくある。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全くない。]
- (3) 新聞やTVなどのメディアを通じて国外における出来事（事件・事故・紹介など）を見て、日本との違いを考えたりすることが  
[5. よくある。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全くない。]
- (4) 社会における自分の立場（〇〇歳である・学生である・高専生である・工学技術の修習生である、など）を意識して、自分はどうかあるべきかを考えることが  
[5. よくある。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全くない。]

## &lt;技術者倫理&gt;

- (1) 特活、倫理・社会、創造工学、卒業研究等に加え、新聞やTVなどのメディアを通じて国内外における企業モラルの欠如に起因する出来事（例えば①自動車の車軸の強度不足を認識していたがリコールせず放置していた、②生産活動の結果、環境を破壊した、③ずさんな工程管理のため食中毒を引き起こした、等の事件）を通じて、技術者としてあるべき姿を  
[5. 思い描くことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く思い描くことができない。]
- (2) これまで学んできた技術が環境にどのような影響を与えるかを  
[5. 思い描くことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く思い描くことができない。]

## &lt;意欲&gt;

実験や創造工学、卒業研究で知識を超える課題・問題に直面した際、[5. わかるまで調べた。4. 図書館などに出向き関係図書等で調べた。3. 図書館などに出向き関係図書等で調べることがあった。2. 関係が深そうな先生や先輩に尋ねた。1. 自分には難しすぎるので解決をあきらめた。]

## (B) 基礎・専門の知識とその応用力

## &lt;基礎&gt;

- (1) 数学以外の科目の学習において、数学を必要とするとき、  
[5. 公式や定理などを使うことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. ほとんど使えない。]
- (2) 物理・化学以外の科目の学習において、物理や化学の知識を必要とするとき、  
[5. 原理や法則などを使うことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. ほとんど使えない。]
- (3) ハードウェアとソフトウェアの関係、プログラミング技術、安全なネットワークの利用法等の情報基礎について  
[5. よく知っている。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く知らない。]
- (4) 上記の情報基礎に関する知識を、  
[5. 実験や卒業研究で活用できる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く活用できない。]

## &lt;専門&gt;

- (1) 生産・製造方法等に関連する知識は、化学工学Ⅰ，化学工学Ⅱ，生物化学工学，反応工学，生物反応工学，無機工業化学，有機工業化学，微生物学等を通じて  
[5. 十分理解している。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解していない。]
- (2) 原料・材料および製品等の種類，性質等に関連する知識は，無機工業化学，有機工業化学，高分子化学，機能材料工学，微生物学，分子生物学，タンパク質化学等を通じて  
[5. 十分理解している。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解していない。]

## 令和6年度鈴鹿工業高等専門学校在学生の達成度アンケート集計結果一覧

- (3) 分析や計測に関連する知識は、分析化学、機器分析化学、環境分析化学、タンパク質化学、遺伝子工学、生物応用化学実験、応用化学コース実験および生物化学コース実験等を通じて  
[5. 十分理解している。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解していない。]
- (4) 自らが得た実験結果等に対して、情報処理Ⅰ、情報処理Ⅱおよび情報処理応用等の知識をもとに、論理的な解析や整理を  
[5. 自力で行うことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 自力では行えない。]
- (5) 環境に関する知識は、環境工学序論、環境工学総論等を通じて  
[5. 十分理解している。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解していない。]

## &lt;展開&gt;

- (1) 解決すべき問題に対する解決法を、化学および生物化学に関する専門知識や実験技術等をもとに  
[5. 見出せることがある。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く思いつかない。]
- (2) 解決すべき問題の解決法を限られた時間内で計画的に実行するために、化学および生物化学に関する専門知識や実験技術を  
[5. 自力で使うことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 自力では使えない。]
- (3) 限られた時間内でレポート、論文等を整理するために、化学および生物化学に関する専門知識や情報を  
[5. 自力で使うことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 自力では使えない。]
- (4) 社会（社会貢献、環境負荷等）に対して、自分の課題（創造工学、卒業研究）をどのように設定して、どのように解決していくかを自分で  
[5. 十分理解している。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解していない。]

## (C) コミュニケーション能力

## &lt;発表&gt;

- (1) レポートまたは研究論文は、読み手に  
[5. 80%以上理解させられる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解させられない。]
- (2) 口頭発表は、聞き手に  
[5. 80%以上理解させられる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解させられない。]

## &lt;英語&gt;

- (1) 専門科目の学習または卒業研究に関連する英文を読んで内容を  
[5. 理解できる。→ 4. → 3. → 2. → 1. ほとんど理解できない。]
- (2) 卒業研究論文のアブストラクトによって、自分が行った研究の概要を  
[5. 正確に記述することができた。→ 4. → 3. → 2. → 1. 正確に記述できなかった。]

## &lt;学校の目的の周知&gt;

教育理念、養成すべき人材像、教養・専門教育の目標等に基づく「学習・教育到達目標」を  
[5. 十分理解していると思う。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解できていない。]

## &lt;学校の使命の周知&gt;

本校の使命を [5. よく知っている。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く知らない。]

## 学生自身による材料工学科学習・教育目標の達成度評価シート

材料工学科 学習・教育到達目標に関する以下の項目について、入学時から現在までの達成度に該当する番号を回答して下さい。達成度は自身の評価で、5 - 8割以上、4 - 7割程度、3 - 6割程度、2 - 6割未満、1 - 未習得として評価して下さい。

### (A) 技術者としての姿勢

#### <視野>

- (1) 人文・社会科学や外国語の科目を受講・勉強しているときに、日本と他国の違いを意識して興味が湧いたり、感心したりすることが、  
[5. よくある。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全くない。]
- (2) 新聞やTVなどのメディアを通じて国内における出来事（事件・事故・その他）の報道を見て、外国人の目にどのように写るかを考えたりすることが、  
[5. よくある。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全くない。]
- (3) 新聞やTVなどのメディアを通じて国外における出来事（事件・事故・紹介など）を見て、日本との違いを考えたりすることが、  
[5. よくある。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全くない。]
- (4) 社会における自分の立場（〇〇歳である、学生である、高専生である、工学技術を学んでいるなど）を意識して、自分はどうあるべきかを考えることが、  
[5. よくある。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全くない。]

#### <技術者倫理>

- (1) 特活、倫理・社会、創造工学、卒業研究等に加え、新聞やTVなどのメディアを通じて国内外における企業モラルの欠如に起因する出来事を通して、技術者としてあるべき姿を、  
[5. 思い描くことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く思い描くことができない。]
- (2) これまで学んできた技術が社会や環境にどのような影響を与えるかを、  
[5. 思い描くことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く思い描くことができない。]

#### <意欲>

実験や創造工学、卒業研究で知識を超える課題・問題に直面した際、[5. わかるまで調べた。4. 図書館などに出向き関係図書等で調べた。3. 図書館などに出向き関係図書等で調べることがあった。2. 関係が深そうな先生や先輩に尋ねた。1. 自分には難しすぎるので解決をあきらめた。]

### (B) 基礎・専門の知識とその応用力

#### <基礎>

- (1) 数学以外の科目の学習において、数学を必要とするとき、  
[5. 公式や定理などを使うことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. ほとんど使えない。]
- (2) 物理・化学以外の科目の学習において、物理や化学の知識を必要とするとき、  
[5. 原理や法則などを使うことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. ほとんど使えない。]
- (3) ハードウェアとソフトウェアの関係、プログラミング技術を通じて安全なネットワークの利用法等の情報基礎について、  
[5. よく知っている。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く知らない。]
- (4) 上記の情報基礎に関する知識を、  
[5. 実験や卒業研究で活用できる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く活用できない。]

#### <専門>

- (1) 生産・製造方法等に関連する知識は、工学基礎実験、機械工作法、ものづくり実習、材料工学実験、接合工学、塑性加工工学、鋳造工学、設計製図Ⅰ、設計製図Ⅱ、設計製図Ⅲ、設計製図Ⅳ、信頼性工学、生産設計工学等を通じて、

## 令和6年度鈴鹿工業高等専門学校在学生の達成度アンケート集計結果一覧

[5. 十分理解している。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解していない。]

- (2) 原料・材料および製品等の種類、性質等に関連する知識は、材料工学序論、基礎材料学、材料組織学、材料強度学、無機材料、有機材料、鉄鋼材料、軽金属材料、触媒材料科学、機能材料、複合材料、材料力学、材料強度工学、物性工学等を通じて、

[5. 十分理解している。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解していない。]

- (3) 材料の化学に関する知識は、無機化学、有機化学、物理化学、基礎熱力学、応用熱力学、統計熱力学、量子力学、電気化学、物性工学等を通じて、

[5. 十分理解している。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解していない。]

- (4) 分析や計測に関連する知識は、材料評価法、材料力学、結晶解析学、材料機器分析、材料工学実験、非破壊検査工学等を通じて、

[5. 十分理解している。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解していない。]

- (5) 自らが得た実験結果等に対して、情報処理Ⅰ、情報処理Ⅱ、情報処理Ⅲ、情報処理応用等の知識をもとに、論理的な解析や整理を、

[5. 十分理解している。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解していない。]

- (6) 環境に関する知識は、材料環境科学や材料工学に関する専門分野の知識や情報を通じて、

[5. 十分理解している。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解していない。]

<展開>

- (1) 解決すべき問題に対する解決法を、材料工学に関する専門分野の知識や情報をもとに、

[5. 見出せることがある。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く思いつかない。]

- (2) 解決すべき問題の解決法を限られた時間内で計画的に実行するために、材料工学に関する専門分野の知識や情報を、

[5. 自力で使うことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 自力では使えない。]

- (3) 限られた時間内でレポート、論文等を整理するために、材料工学に関する専門分野の知識や情報を、

[5. 自力で使うことができる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 自力では使えない。]

- (4) 社会（社会貢献、環境負荷等）に対して、自分の課題（創造工学、卒業研究）をどのように設定して、どのように解決していくかを自分で、

[5. 十分理解している。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解していない。]

(C) コミュニケーション能力

<発表>

- (1) レポートまたは研究論文は、読み手に、

[5. 80%以上理解させられる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解させられない。]

- (2) 口頭発表は、聞き手に、

[5. 80%以上理解させられる。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解させられない。]

<英語>

- (1) 専門科目の学習または卒業研究に関連する英文を読んで内容を

[5. 理解できる。→ 4. → 3. → 2. → 1. ほとんど理解できない。]

- (2) 卒業研究論文のアブストラクトによって、自分が行った研究の概要を、

[5. 正確に記述することができた。→ 4. → 3. → 2. → 1. 正確に記述できなかった。]

<学校の目的の周知>

教育理念、養成すべき人材像、教養・専門教育の目標等に基づく「学習・教育到達目標」を

[5. 十分理解していると思う。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く理解できていない。]

<学校の使命の周知>

本校の使命を [5. よく知っている。→ 4. → 3. → 2. → 1. 全く知らない。]

## 学生自身による学習・教育到達目標の達成度評価 実施要項

点検評価担当長

学生自身による学習・教育到達目標の達成度評価および卒業・修了生には満足度評価を実施しますので、皆様のご協力をよろしく申し上げます。令和5年度入学生よりアンケート項目を精選したため、本科第3学年以上の学生と本科第2学年以下(専攻科学生を含む)とで回答の項目が異なりますので御注意をお願い出来ましたら幸いです。また、本科第2学年以下および専攻科はアンケート項目が少ないためマークシートに回答不要の項目がありますのでご留意をお願いいたします。

- ① 学年末休業前ガイダンスで学級担任(専攻科を含む)から学生に以下の説明をお願いします。
  1. このアンケートの目的は、各科(専攻科)の学習・教育到達目標の入学時から現在までの達成度を、学生自身が評価することで、これまで何ができるようになったか、これから何ができるようになるか、これまでどのように成長できたかといった、自身の達成度の進捗状況や弱点を把握することです。
  2. 達成度は、5段階評価で行い、自身の評価で8割以上達成していれば「5」、7割程度なら「4」、6割以上なら「3」、6割未満なら「2」、未習得なら「1」として評価して下さい。
  3. 全ての項目が卒業(修了)時には「5」となるように、カリキュラムは設定されており、卒業(修了)時に「2」や「1」の項目は残らないようになっています。

各科(専攻科は出身学科)の達成度評価項目は、下記リンク先または「[025]全教職員→自己点検評価・改善委員会→R6→点検評価担当→達成度・満足度評価アンケート」に保存されています。適宜 PDF ファイルを学生へ共有して頂ければアンケートをスムーズに実施できると思います。マークシート用紙にて回答して下さい。出席番号と氏名も記入願います。

[https://kosenjp.sharepoint.com/sites/msteams\\_4b2fc5/Shared%20Documents/Forms/AllItems.aspx?csf=1&web=1&e=Pswkh9&CID=6f641e2b%2Dbc82%2D4d71%2Dbf27%2D7d07cee5819f&FolderCTID=0x012000CFAB41CF43581A408F68DC3C4F2CBBCE&id=%2Fsites%2Fmsteams%5F4b2fc5%2FShared%20Documents%2F%E8%87%AA%E5%B7%B1%E7%82%B9%E6%A4%9C%E8%A9%95%E4%BE%A1%E3%83%BB%E6%94%B9%E5%96%84%E5%A7%94%E5%93%A1%E4%BC%9A%2FR6%2F%E7%82%B9%E6%A4%9C%E8%A9%95%E4%BE%A1%E6%8B%85%E5%BD%93&viewid=59ccc806%2D75c1%2D4146%2D8550%2D8bddafb7a763](https://kosenjp.sharepoint.com/sites/msteams_4b2fc5/Shared%20Documents/Forms/AllItems.aspx?csf=1&web=1&e=Pswkh9&CID=6f641e2b%2Dbc82%2D4d71%2Dbf27%2D7d07cee5819f&FolderCTID=0x012000CFAB41CF43581A408F68DC3C4F2CBBCE&id=%2Fsites%2Fmsteams%5F4b2fc5%2FShared%20Documents%2F%E8%87%AA%E5%B7%B1%E7%82%B9%E6%A4%9C%E8%A9%95%E4%BE%A1%E3%83%BB%E6%94%B9%E5%96%84%E5%A7%94%E5%93%A1%E4%BC%9A%2FR6%2F%E7%82%B9%E6%A4%9C%E8%A9%95%E4%BE%A1%E6%8B%85%E5%BD%93&viewid=59ccc806%2D75c1%2D4146%2D8550%2D8bddafb7a763)

- ② 今回、回答してもらうのは、入学時から現在までの達成度です。
- ③ 新年度に実施しました学校の目的と使命の周知も行います。学生への周知をよろしく申し上げます。

## 令和6年度鈴鹿工業高等専門学校修了・卒業予定者の学校に対する満足度アンケート集計結果一覧

- ④ 達成度評価結果を面談等で活かしてもらえよう、結果は新年度の学級担任にお渡しします。達成度が低いと回答している学生が、何か問題を抱えてはいないか等を知るために記名式(出席番号)となっています。
- ⑤ 結果を活用して頂くにあたり、結果の取りまとめ方、グラフ化等について、効果的に活用するための良い方法、また、アンケートの内容(項目・表現)等についてご意見がありましたらお聞かせ下さい。
- ⑥ 学級担任の先生におかれましてはお手数をおかけしますが、アンケート終了後出席番号順に揃えて総務課総務企画係 までご提出をお願いいたします。休学者・長期欠席者等で回答困難な学生は出席番号と氏名のみ代筆頂き、マークシートは未記入の状態でご提出をお願いいたします。

以下に実施要領を示します。

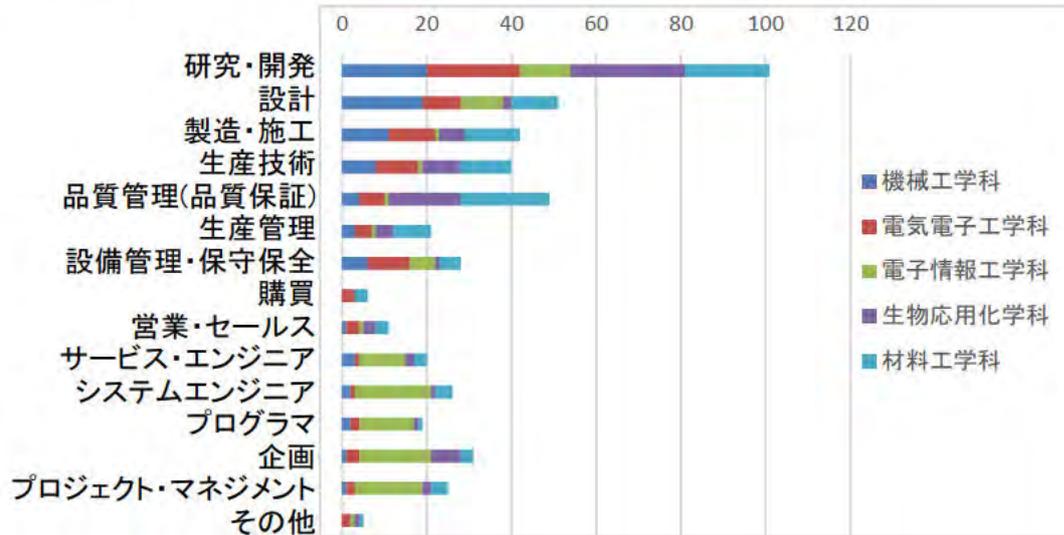
- ⑦ 第 1～5 学年担任は、学年末の「休業前ガイダンス」等で「学生便覧」を参照して、鈴鹿高専の基本理念である、使命、教育理念、養成すべき人材像を周知して下さい。そして各科の「学習・教育到達目標」について、「教育課程系統図」を参照しながらガイダンスを行ってください。「達成度評価シート」に例示されている授業科目は令和 2 年度以降入学生用となっていますので、適宜読み替えるようご指導ください。達成度は、5段階評価で行い、各項目において自身の評価で8割以上達成していると判断すれば「5」、7割程度なら「4」、6割以上なら「3」、6割未満なら「2」、未習得なら「1」として評価して下さい。授業科目が書かれている場合は、それらの平均点が 80 点以上なら「5」、70 点程度なら「4」、60 点なら「3」、未習得の科目の方が多ければ「2」、全て未習得であれば「1」で評価して下さい。
- ⑧ 専攻科 1～2 年次生に対しては、学年末の「休業前ガイダンス」等で「学生便覧」を参照して、鈴鹿高専の基本理念である、使命、教育理念、養成すべき人材像を周知してください。そして総合イノベーション工学の「学習・教育到達目標」について、「教育課程系統図」を参照しながらガイダンスを行ってください。「達成度評価シート」に例示されている授業科目は学科の令和 2 年度以降入学生用となっており、専攻科で学ぶ科目名が入っていませんが、適宜追加して読み替えるようにご指導ください。現在までの達成度を、5段階評価で行い、各項目において自身の評価で8割以上達成していると判断すれば「5」、7割程度なら「4」、6割以上なら「3」、6割未満なら「2」、未習得なら「1」として評価して下さい。授業科目が書かれている場合は、それらの平均点が 80 点以上なら「5」、70 点程度なら「4」、60 点なら「3」、未習得の科目の方が多ければ「2」、全て未習得であれば「1」で評価して下さい。Forms で回答する際は、学年と出席番号(1A11等)を入力しますので、間違わないように入力するようご指導ください。また、Forms の回答は、1→5の順となっていますので、選択肢を間違わないようにして下さい。
- ⑨ 第 5 学年および専攻科 2 年生は、達成度評価への回答が終わりましたら、満足度評価のマークシート用紙記入も御指導をお願いいたします。

## 令和6年度鈴鹿工業高等専門学校修了・卒業予定者の学校に対する満足度アンケート集計結果一覧

令和6年度鈴鹿工業高等専門学校  
卒業予定者の学校に対する満足度アンケート集計結果一覧

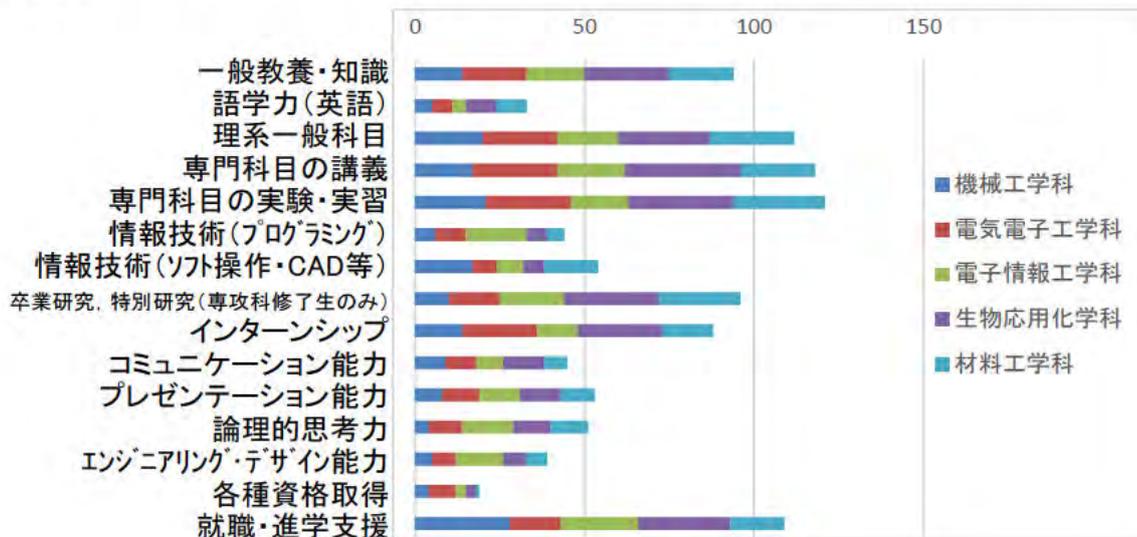
回答者数 M:37 E:38 I:33 C:37 S:40 計185名

質問1 あなたは将来、どのような部署(職種)で活躍したいと考えていますか？



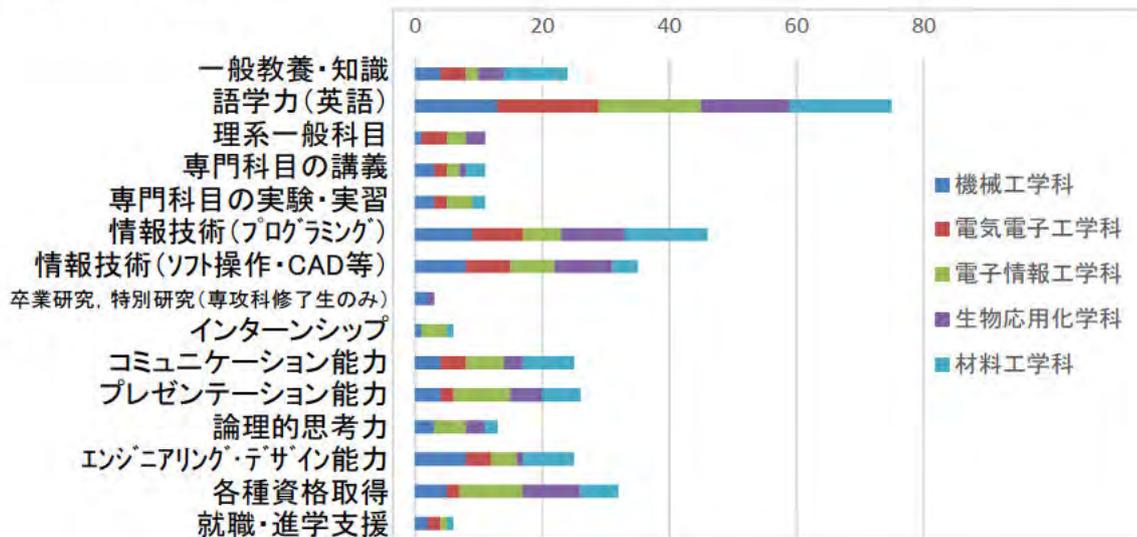
その他: 飲食店、農家、経営、農業、コンサルタント

質問2 高専での教育内容, 身に付けたこと, 学生支援に対して, 満足しているもの全てを選んで下さい。

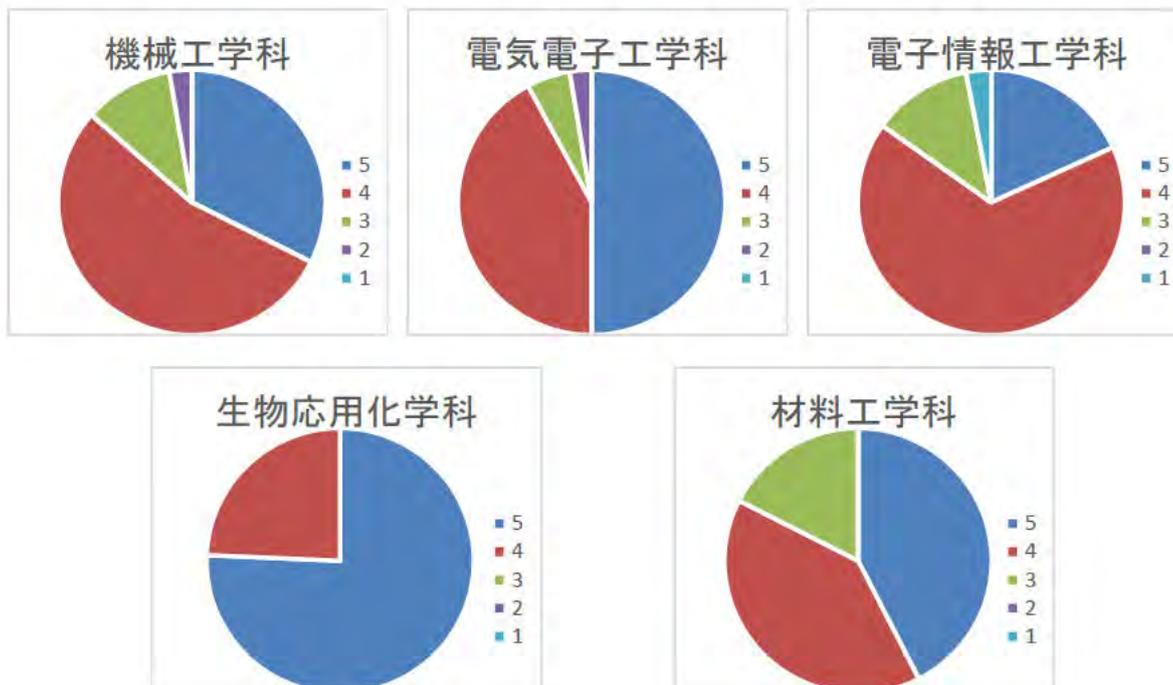


## 令和6年度鈴鹿工業高等専門学校修了・卒業予定者の学校に対する満足度アンケート集計結果一覧

質問3 同じく高専での教育内容,身に付けたこと,学生支援に対して,あまり満足していないものを全てを選んで下さい。

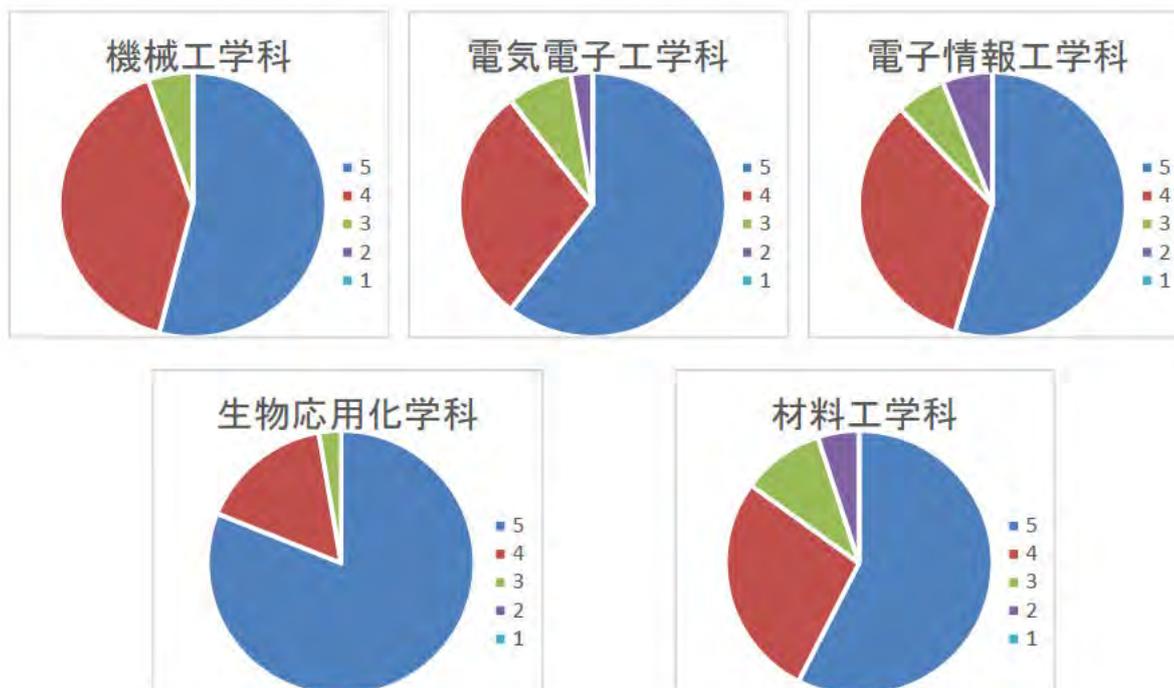


質問4 全体的に評価して,高専の教育内容,身に付けたこと,学生支援に対して,どの程度満足していますか?



## 令和6年度鈴鹿工業高等専門学校修了・卒業予定者の学校に対する満足度アンケート集計結果一覧

質問5 あなたは、高専に進学したことについて満足していますか？



質問5 あなたは、高専に進学したことについて満足していますか？その理由についても教えてください。

- ・進学・就職
- ・十分な教育を受けられ、満足いく支援を受けられたから
- ・就職したい企業に就職できた。
- ・就職活動がスムーズにできたから。
- ・大学に進学できた。専門的なことを学べた。
- ・就職支援や進級へのフォローが手厚い
- ・就職に強い
- ・高専にしかないようなプロジェクトに参加できた。専門科目を早い段階から学べた。
- 得意科目を活かして受験できた(編入)
- ・自分の興味がある分野に必要な知識を集中して学ぶことができたから。
- ・就職の面で、名のある企業に進めるといのは高専にしかない強みだと感じた。
- ・専門的な内容の教育を座学と実習の両面から学ぶことができたから。
- ・就職に強いから
- ・インターンや卒業研究において、高専にて学んだ事が活かされる場面が多々あったため。
- ・寮
- ・就職先が多く、就活がスムーズに終わったから。
- ・普通の進学校に行っていたら詰んでいた
- ・CADソフトの操作法、pythonでの初歩的なプログラム構成を学べたので
- ・選択肢が多い。実際に機械を触ることができる。実践的な教育が受けられる。
- 一生の友達ができる
- ・就職までのサポートが手厚かったから。
- ・就職・進学がやすく、何個も選択肢があるから。
- ・目指していた企業に就職することが出来た。
- ・大きな企業に入りやすいこと。また、専門性を持って早く働き始められるから。
- ・工業高校ではできないカリキュラムを学べたから。
- ・就職しやすかった。同年代より稼げるし、高専卒でも大卒の人と給料がかわらないのが嬉しい
- ・自分に合っていたから
- ・専門分野で自分の学びたいことが学べ進路が定まったから
- ・楽しい

## 令和6年度鈴鹿工業高等専門学校修了・卒業予定者の学校に対する満足度アンケート集計結果 一覧

## 質問5の続き

- ・5年間かけて専門知識を身に付けることができたから
- ・就職先がよかったから
- ・就職先が良く、楽に行けるから
- ・大学受験せず遊べた
- ・専門能力が取得できる
- ・5年生で教員から指導を直接受けることができる。
- ・進学しやすい
- ・編入のシステムに満足
- ・方針やシラバスには特に不満ないが・・・
- ・高校生の年代から専門的なことを学べた
- ・友人・先生等の環境、自分の成長から考えて満足したから
- ・自分の希望の将来に近づけたから
- ・自分が選択した学科にも自分には合っていた。友人にも教員にも恵まれていた
- ・実技経験をかなりする事が出来たと思うため。
- ・普通の受験をしたかった。
- ・スムーズに進路が決まったから
- ・理系科目が中心だったから
- ・高専でしかできないような経験ができたがもう少し、クラスマッチなど一般高校のイベント
- ・ここでしか学べないものがあったから
- ・満足のいく進路選択ができたから。
- ・時間を自分の使いたいように使えた。
- ・就職支援が充実しているため。
- ・進路が良い
- ・不満が見つからないから
- ・普通校に比べて、実習などが多く、実践的な力が身についたと感ずるため
- ・プログラミングの楽しさを知れたため
- ・入学時にやりたかったことができたため。
- ・卒業後の進路が保証されているのは良いが、その安心感から自己成長できない環境が作られている
- ・なんとなくで進路を選んだが、自身に合った内容ではなかったため
- ・行事が少なく、普通高校にあこがれたことがあったから。せっかくある機会をのがしてしまうことが多くあった。
- ・自分のやりたい事、やってみたい事に挑戦できたから
- ・学校行事も盛んで、とても充実した5年間だったから。遊びと学びのメリハリがつけれたから。
- ・専門的な知識や技術を身につけることができた。
- ・就職先につながったから
- ・良い友達や先生に出会えたから
- ・実践的に学ぶことができる環境があったことが自分の力になっていると思う。
- ・早いうちに専門知識を学んで研究もできたので、他と少しちがった経験ができたと思うから
- ・1年のころから変わらない専門的な勉強についていけなくなることもあったが、自分にとって大きな強みとなった。
- ・就職の支援が手厚かった
- ・低学年のうちから化学について学べて嬉しかったから。そのおかげでしっかり基礎が身についたと思う。
- ・自分の好きな分野の専門知識についてくわしく学ぶことができたから。
- ・一般の高校では体験できなかったことをたくさん経験できたため。
- ・普通高校にはない設備による専門的な技術・知識を得ることができ、また、5年間同じクラスであるため、協調性やコミュニケーション能力の向上につながり、素晴らしい思い出となったため。
- ・実験計画能力がついたため
- ・選択肢が多いと優柔不断で決められない私にとっては理系にしぼって専門的に学べて就職も良いところに行けてよかったから。
- ・自分の得意科目を伸ばすことができたと思うから。
- ・就職面でのサポートをたくさん受けることができた。
- ・進学および就職先が非常に良い点。専門的な知識を詳しく学べる点
- ・楽しかったから。
- ・理系に進みたいと思って若い年代から専門的な知識を身に付けられて良かった。
- ・専門科目が多いという特性が自分に合っていた。

## 令和6年度鈴鹿工業高等専門学校修了・卒業予定者の学校に対する満足度アンケート集計結果一覧

## 質問5の続き

- ・進学先に満足している。学習習慣が身についた
- ・5年を通して知識をしっかりと身に付け、仲間と楽しく学生生活を送れた
- ・実際に手を動かして学ぶ機会が多く、はやくから研究にふれることができたから
- ・進路の選択肢が多いから。
- ・専門知識が身についた。たくさんの人と関わり視野が広がった。
- ・勉強したいことが学べたし、自由度が高くやりたいことを支援してもらえるのは良かったが、あまりにも学力を重視しすぎたと感じた。
- ・就職できてよかったです。でも他の学校だったときどうなっていたか想像してみてもなるのか気になったので「4」にしました。
- ・技術者として必要な知識を身に付けられたと思うから。
- ・専門的な実験や実習ができたから。
- ・楽しく過ごすことができた。
- ・自分が高専にとっても合っていたから
- ・実習なども多くて進学支援に満足したから
- ・多くの専門知識を学べた
- ・高専5年間でたくさんの知識、経験をすることが出来たと思っているから。
- ・大学に進学せずとも専門的な知識が得られたから。
- ・仲の良い友人ができたから
- ・ある程度の自由により、将来について考える時間が設けられたから。
- ・とても楽しい5年間だったから
- ・授業期間はクオリティの高い授業を受講でき、長期休暇など休養期間も非常に充実しているから
- ・自分がやりたい専門知識を深く学べた。自分に足りなかったリーダーシップ力やチャレンジ精神を身につけることができた。
- ・進路について十分な結果を容易に出せるから
- ・理系科目を深く学べたから
- ・他ではできない実技などの経験が積める。
- ・短大卒として、ある程度大きい会社に内定をいただけたから。
- ・自分によって向き不向きはあれど普通校で学べないようなことを学べたから。
- ・高校では絶対に獲得できない能力を獲得できた。大学二年生の年齢で実りある研究にたずさわれた。
- ・科学系の知識を深めるとともに、気の合う友達ができただから。
- ・とても仲の良い友人ができ、充実した学生生活をすごせたから
- ・専門知識を深めることができたから。教養に関してはあまり満足していないから
- ・一般的な大学生よりも早い時期から研究ができるから
- ・専門知識をつけることができたから
- ・大学に編入できたから。
- ・進学楽
- ・教員の質や授業のカリキュラムが満足できるほどではない。
- ・他の学校に比べて就職が楽だったが、卒業までの道のりが大変
- ・専門科目を多く学べた。就職へ力が入っていた。
- ・特に何も思わない
- ・現在特に高専に入学したことに悔いはないから
- ・工学の知識がまだ足りていないと思った為
- ・就職面のサポートが良い
- ・進路の選択肢が広いから
- ・専門的なことを早めに学べた
- ・良い就職先に就職することができたから
- ・就職、進学の幅が広い
- ・頼りになる生徒や先生がいたおかげで高専生活を楽しむことができたから。
- ・充実していた
- ・専門的な知識を身につけることができた。
- ・5年間しっかり学ぶことができ、進路も目標通りに決まった。
- ・いい就職先と出会えたから
- ・卒業後のことを考えたとき手厚いサポートを受けることができたから。
- ・元々工業系の仕事に就きたかったので、早めから専門を学べて良かったからです。
- ・思い描いていた授業内容と違った
- ・就職楽だから

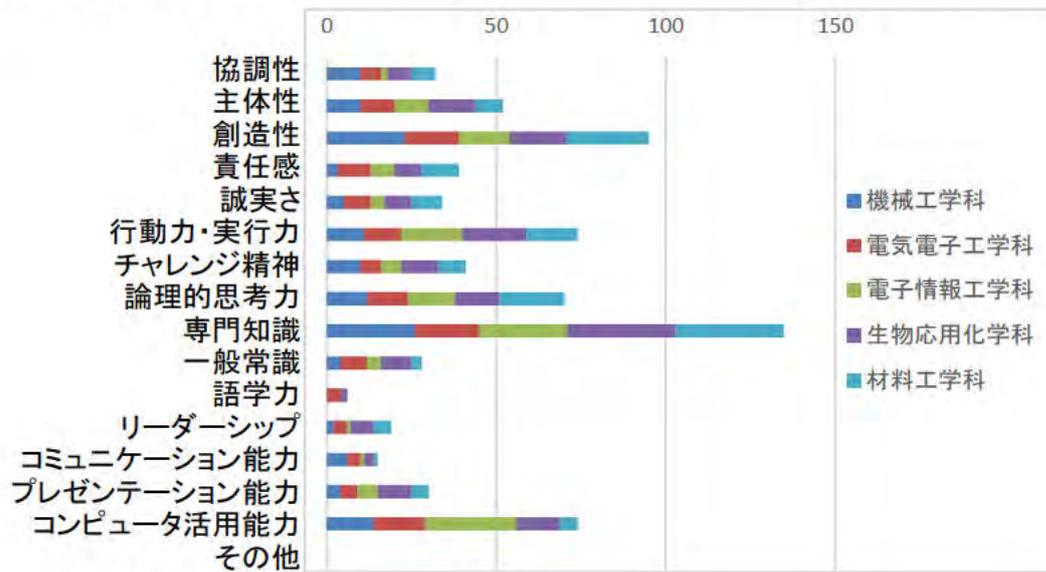
## 令和6年度鈴鹿工業高等専門学校修了・卒業予定者の学校に対する満足度アンケート集計結果一覧

## 質問5の続き

- ・就職がかなり有利だった
- ・5年間は長かった
- ・充実した学生生活を送れた
- ・ほかの高校も行きたいと思うことがあった
- ・就職先がたくさんあり、就活のサポートをしっかりしてもらえるからです。
- ・実験や実習が多く、レポート提出も頻繁にあったので非常に力がついた。研究発表などでも、パワーポイントでの資料作成の経験を多く積むことが出来た。創造工学では、時間をかけて研究できて楽しかった。自分がやりたいことをとことん突き詰められる所が高専の良いところだと思う。
- ・他の高校や大学の学生に対して羨ましいと思ったことがないから。
- ・自由な校風でS科に関しては忙しすぎることはないためやる気次第で色々できるから。また、編入においては少ない受験科目で国公立大学を複数受けれるのはやはり魅力的。
- ・就活がしやすい
- ・専門的なことを学べたから
- ・就職支援が充実していたため。
- ・学びたいことを学べた。楽しかった。

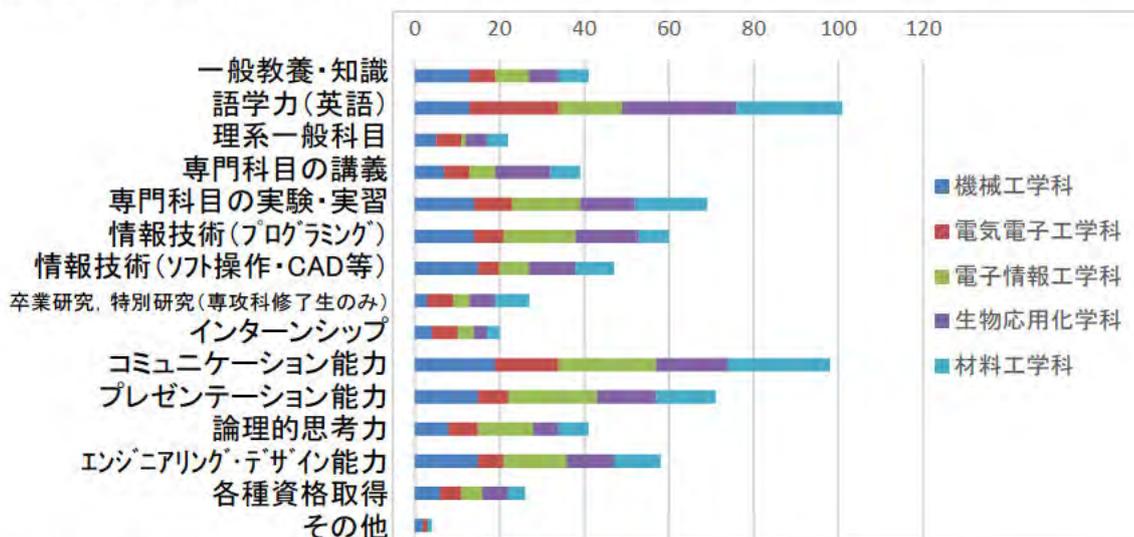
## 令和6年度鈴鹿工業高等専門学校修了・卒業予定者の学校に対する満足度アンケート集計結果一覧

質問6 客観的にみて、高専卒業者は、どのような資質・能力をもった人材だと思いますか？該当するものすべてを選んで下さい。



その他:学んだ能力を活かして新しいものを作り出したいと考え、行動する人が学生のうちから多かったから

質問7 今後、高専卒業者がより社会に貢献するためには、以下のどれを重視すべきだと思いますか？該当するものすべてを選んで下さい。

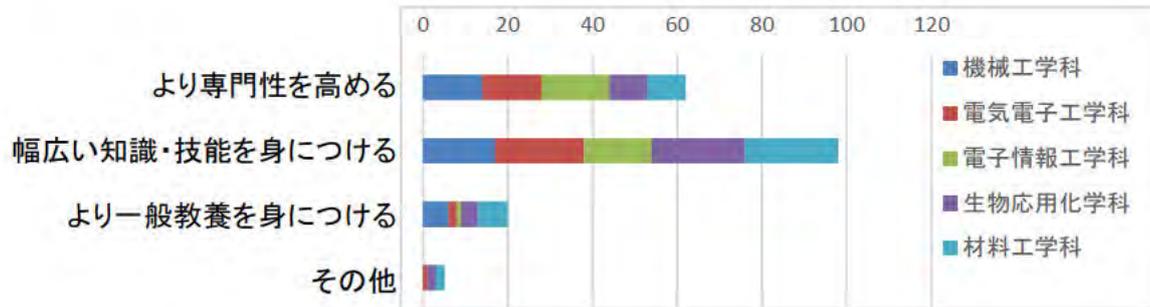


その他:一般常識

・高専生は英語力の低い人が多いみたいなので、もっとたくさんの人と関わり、言葉をかわして力をのばしたい

## 令和6年度鈴鹿工業高等専門学校修了・卒業予定者の学校に対する満足度アンケート集計結果一覧

質問8 今後の本校の教育方針としては、以下のいずれの方向に進むべきだと思いますか？どれか一つ選んで下さい。



その他:このまま

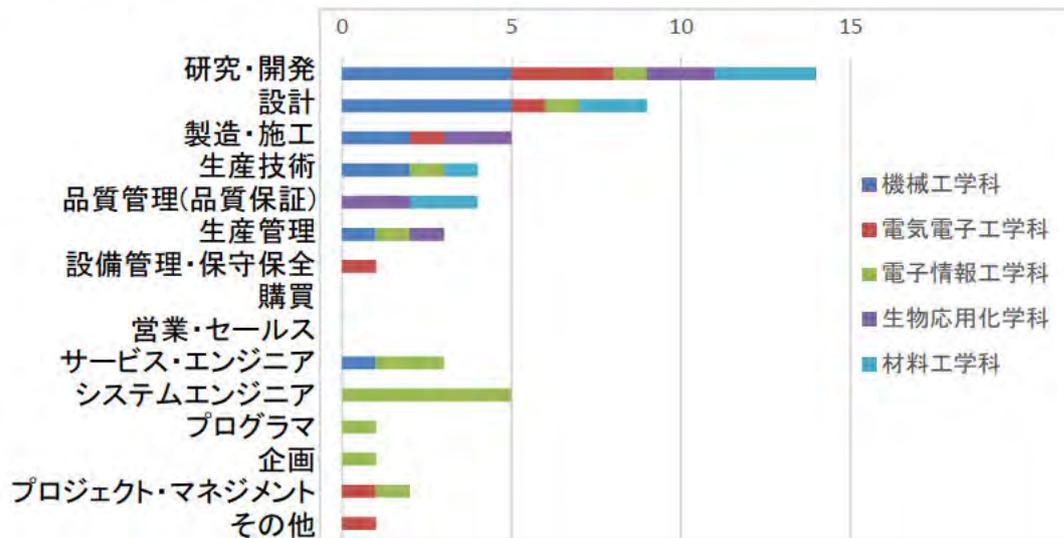
- ・語学力やプログラミング力を全員がつける
- ・1つだけにしぼらずに幅広く知識があったほうが世に出たときに役に立つと思う
- ・知識の定着、応用
- ・プレゼンテーション能力の向上
- ・人に伝える能力を高める

## 令和6年度鈴鹿工業高等専門学校修了・卒業予定者の学校に対する満足度アンケート集計結果一覧

令和6年度鈴鹿工業高等専門学校  
修了予定者の学校に対する満足度アンケート集計結果一覧

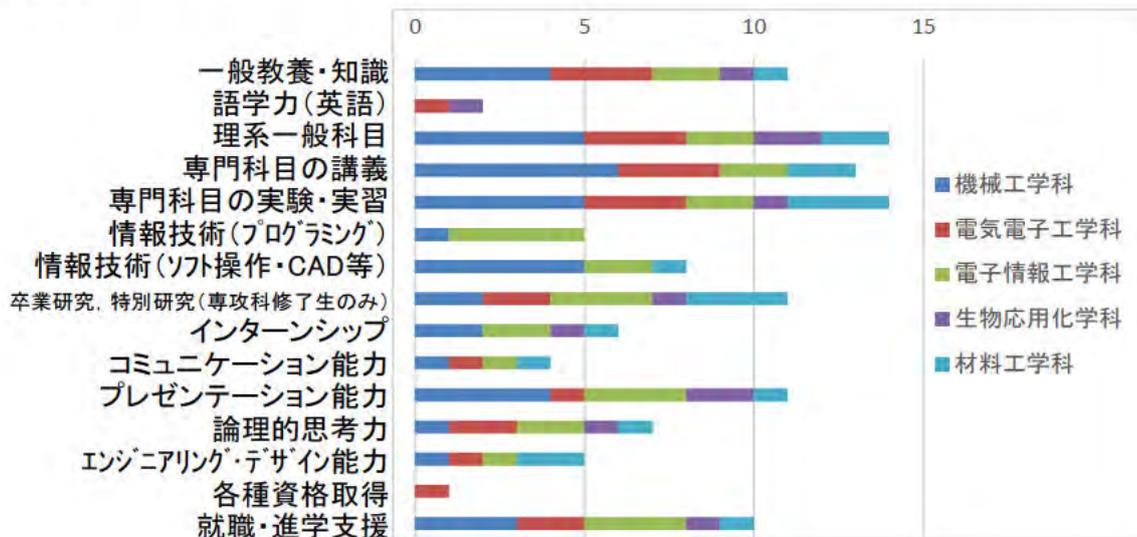
回答者数 M:7 E:5 I:6 C:3 S:4 計25名

質問1 あなたは将来、どのような部署(職種)で活躍したいと考えていますか？



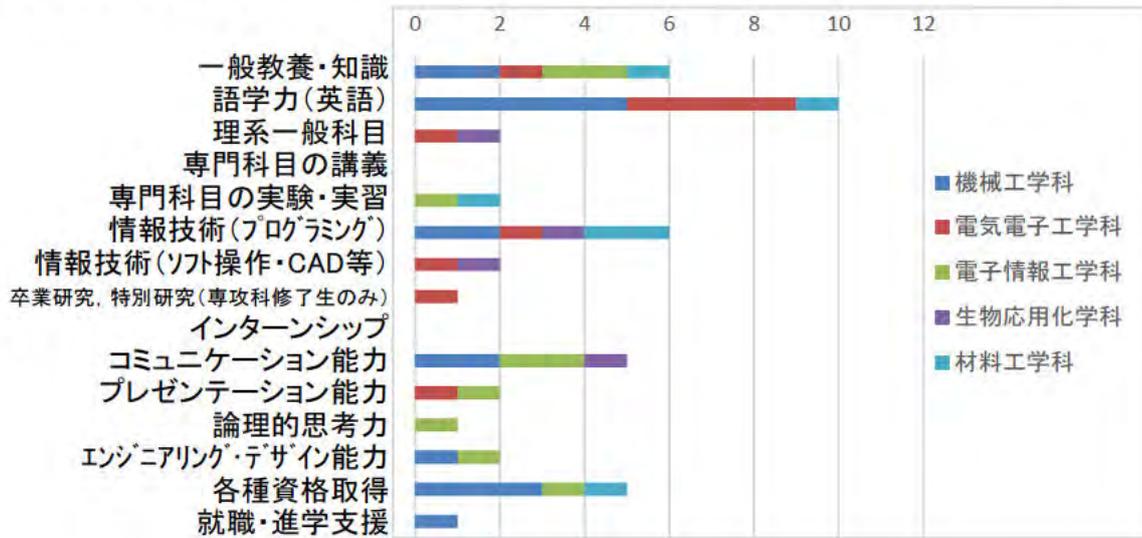
その他:経理、人事

質問2 高専での教育内容,身に付けたこと,学生支援に対して,満足しているもの全てを選んで下さい。

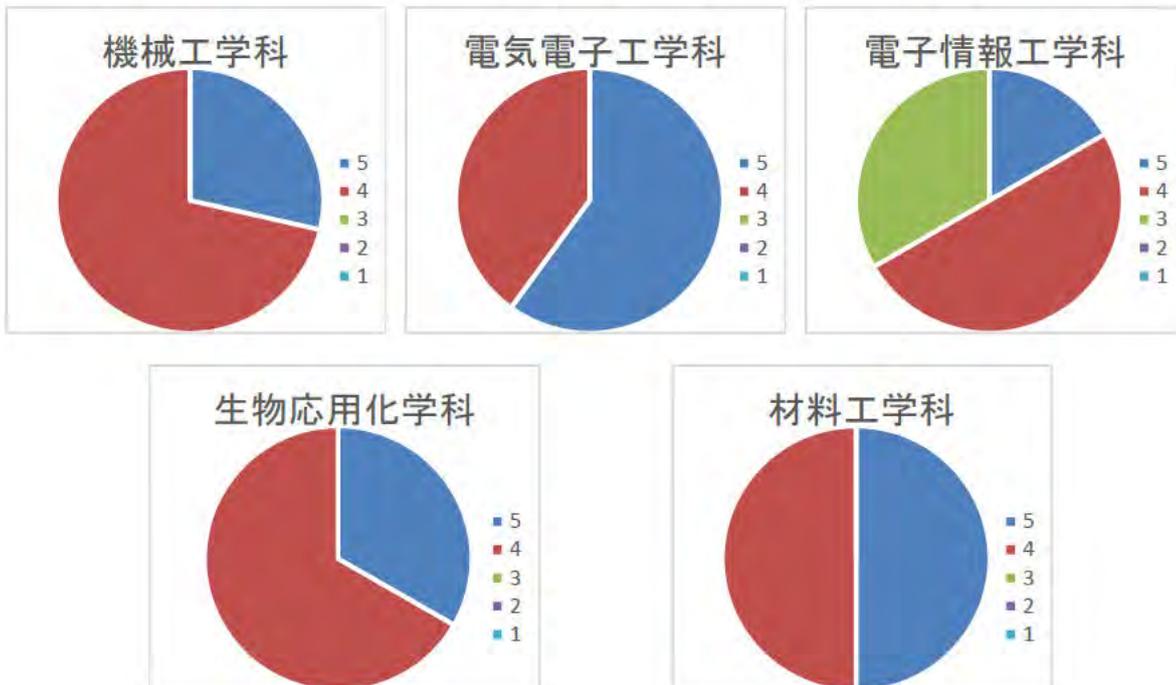


## 令和6年度鈴鹿工業高等専門学校修了・卒業予定者の学校に対する満足度アンケート集計結果一覧

質問3 同じく高専での教育内容,身に付けたこと,学生支援に対して,あまり満足していないもの全てを選んで下さい。

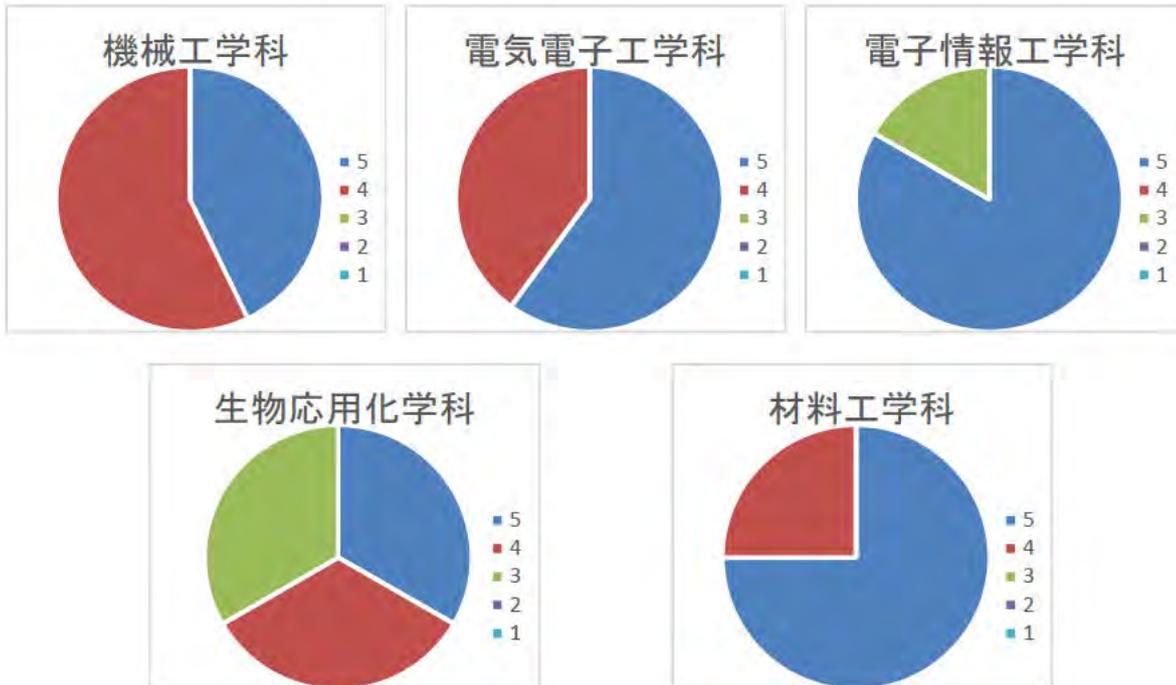


質問4 全体的に評価して,高専の教育内容,身に付けたこと,学生支援に対して,どの程度満足していますか?



## 令和6年度鈴鹿工業高等専門学校修了・卒業予定者の学校に対する満足度アンケート集計結果一覧

質問5 あなたは、高専に進学したことについて満足していますか？

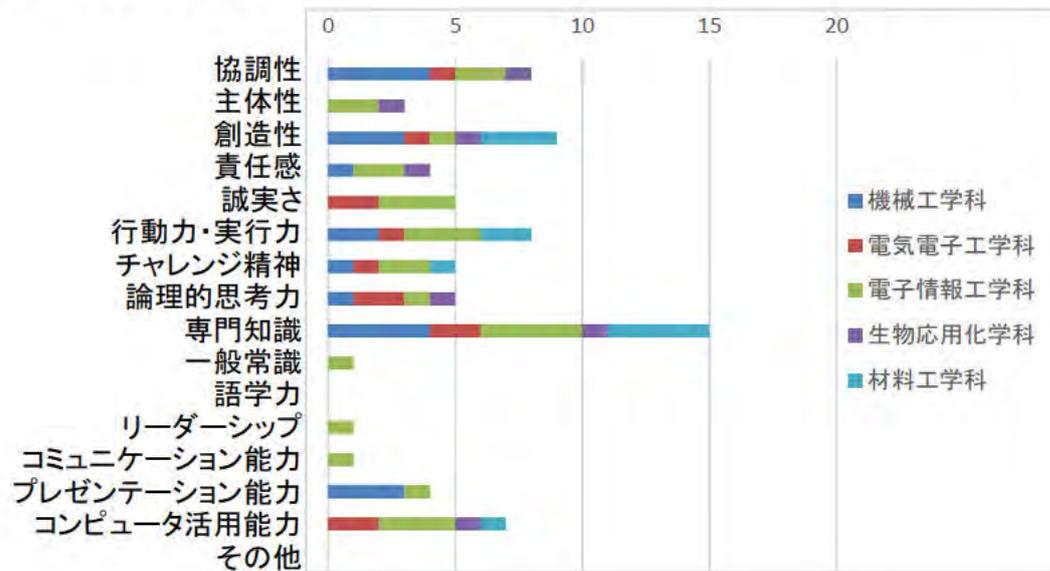


質問5 あなたは、高専に進学したことについて満足していますか？その理由についても教えてください。

- ・進学、就職どちらもしやすい環境であったから
- ・学会発表の経験が沢山できた
- ・専門について早い段階に学べたおかげで自身のキャリアプランについて早期に考えることができた
- ・就職にも強く、専門的な知識、技術を身につけることができた。楽しい時間でした。
- ・なんだかんだ楽しかった。テスト期間の勉強量とか卒業研究とか大変なこともあったけど、割と自由でいろんな知識をつけられたから良かった
- ・進学、就職が良い
- ・専門知識が身につく
- ・高い技術力を身につけられたことを実感しているから。
- ・友人ができ、部活、研究において友人の助けを多々受けられたから。
- ・色々なことにチャレンジできた
- ・進学しやすい。良い人が多い。

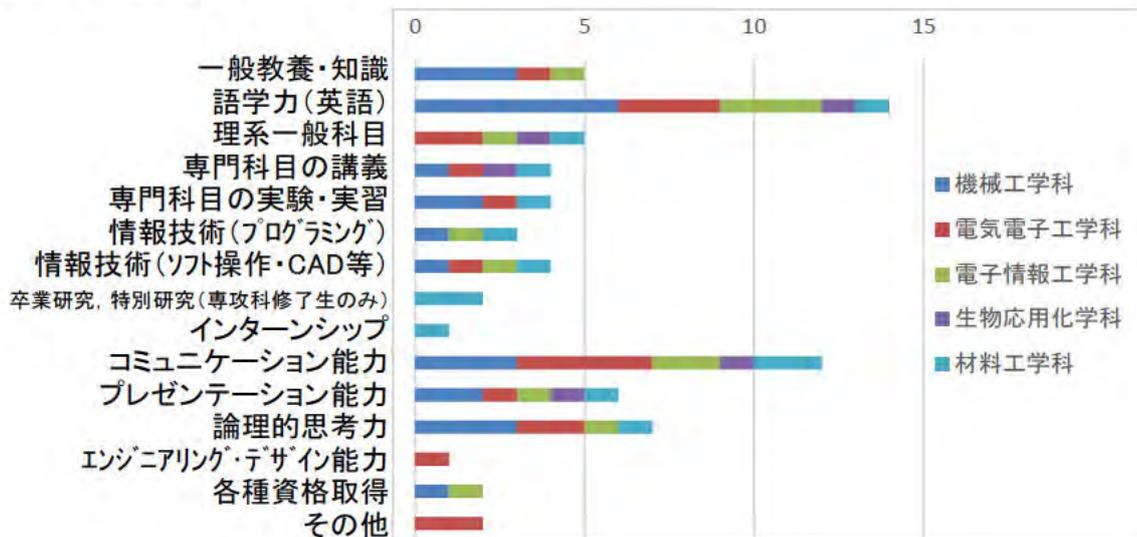
## 令和6年度鈴鹿工業高等専門学校修了・卒業予定者の学校に対する満足度アンケート集計結果一覧

質問6 客観的にみて、高専卒業者は、どのような資質・能力をもった人材だと思いますか？該当するものすべてを選んで下さい。



その他: 洞察を得る能力、チャレンジするマインド

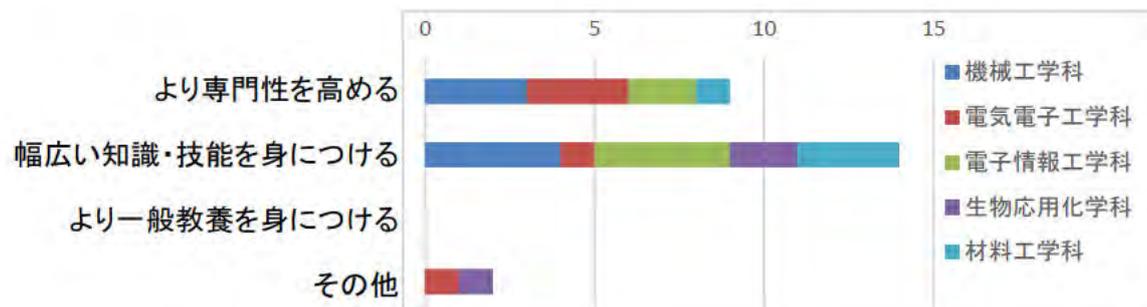
質問7 今後、高専卒業者がより社会に貢献するためには、以下のどれを重視すべきだと思いますか？該当するものすべてを選んで下さい。



その他: 文武両道

## 令和6年度鈴鹿工業高等専門学校修了・卒業予定者の学校に対する満足度アンケート集計結果一覧

質問8 今後の本校の教育方針としては、以下のいずれの方向に進むべきだと思いますか？どれか一つ選んで下さい。



その他:授業の内容を見直す(意義のある授業にする)

平成30年度卒業生及び修了生の教育の成果  
及び満足度等に関するアンケート調査結果

令和5年11月

鈴鹿工業高等専門学校

平成30年度卒業生及び修了生の教育の成果及び満足度等に関するアンケート調査結果

## アンケート概要

### 1. 調査対象

平成30年度本校卒業生並びに専攻科修了生

### 2. 実施期間

2023年8月～2023年10月上旬

### 3. 実施方法

アンケート依頼文書を郵送し、本校設置のアンケートページ(2種)にて実施

### 4. アンケートフォーム

本校オリジナルページ、Microsoft Formsを使用

### 補足 エンジニアリング・デザイン能力について

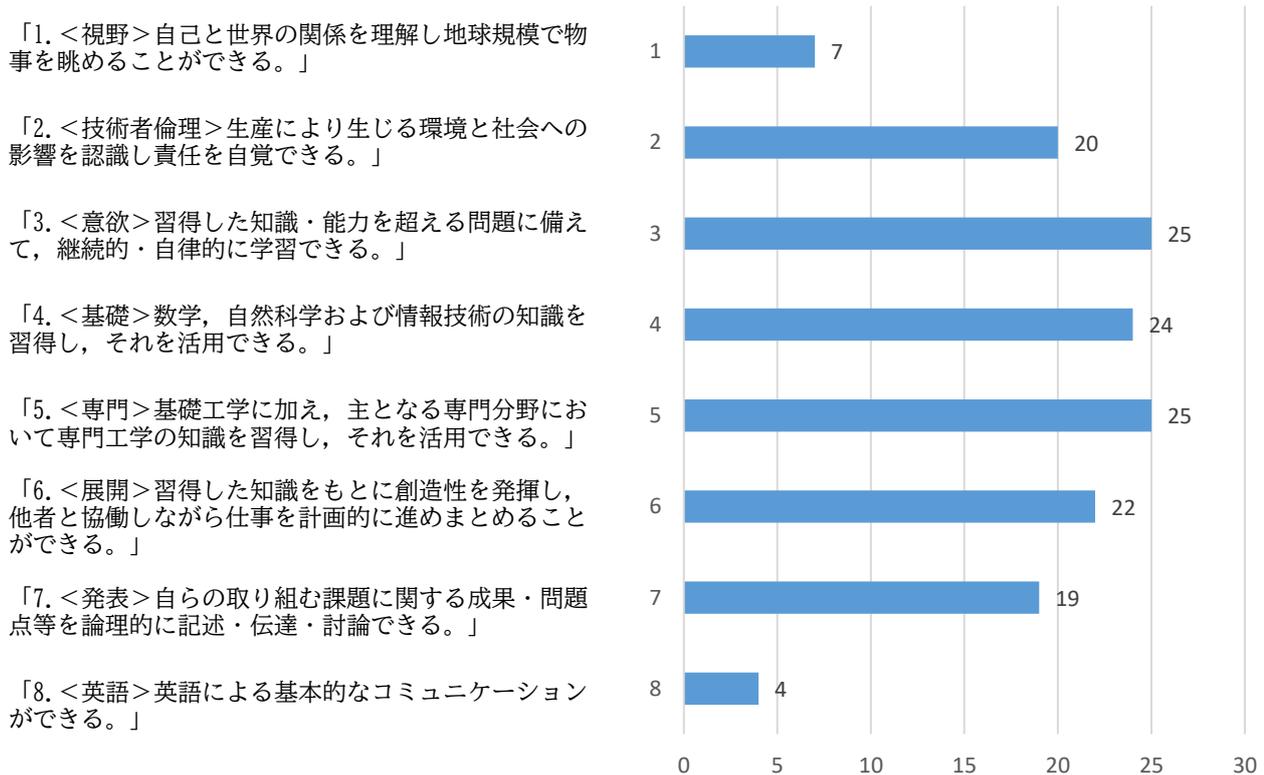
必ずしも解が一つでない問題に対して習得した幅広い知識・能力を総合的に発揮して実現可能な解を見つけ出す能力

## 平成30年度卒業生及び修了生の教育の成果及び満足度等に関するアンケート調査結果

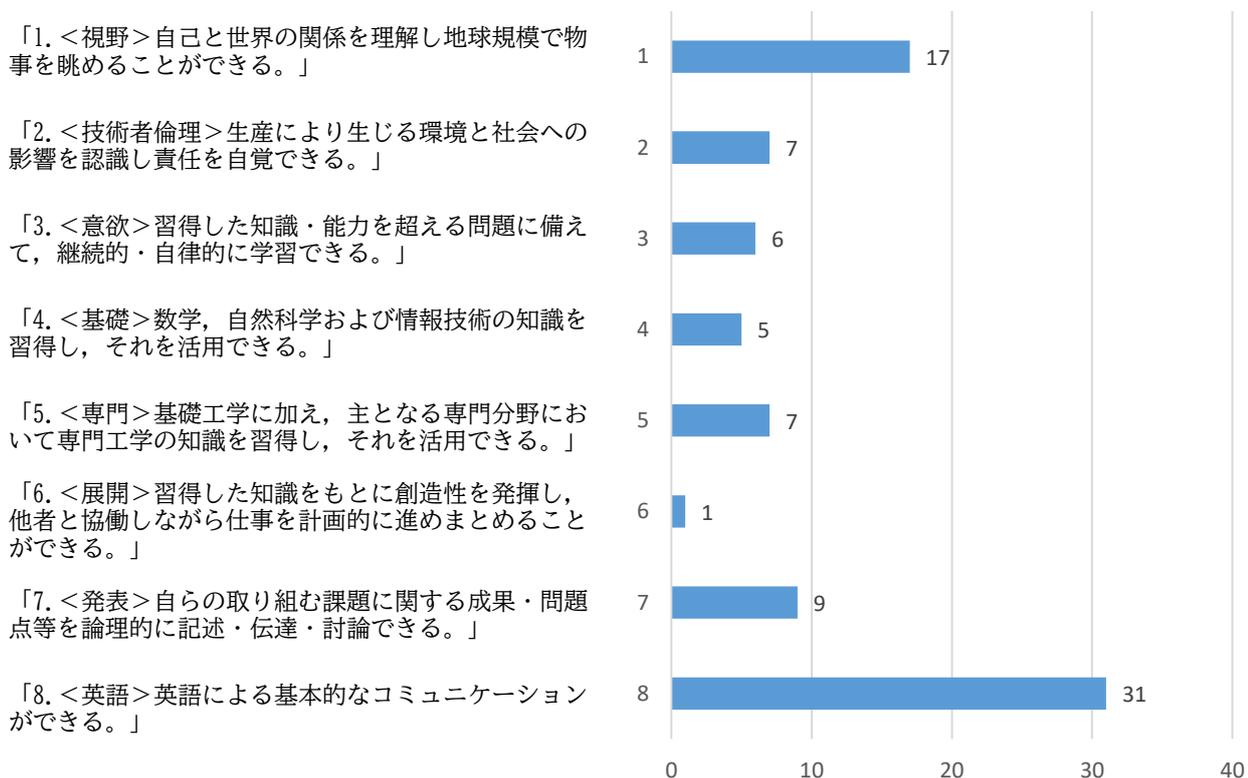
## 回答結果

本科(全学科) 36名 回答

1. 「学習・教育到達目標」「ディプロマ・ポリシー」には以下のような項目があります。「十分に付いた」という項目にチェックを入れてください。(複数選択可)



2. 同じく以下「学習・教育到達目標」「ディプロマ・ポリシー」の項目について「あまり身に付かなかった」という項目にチェックを入れてください。(複数選択可)



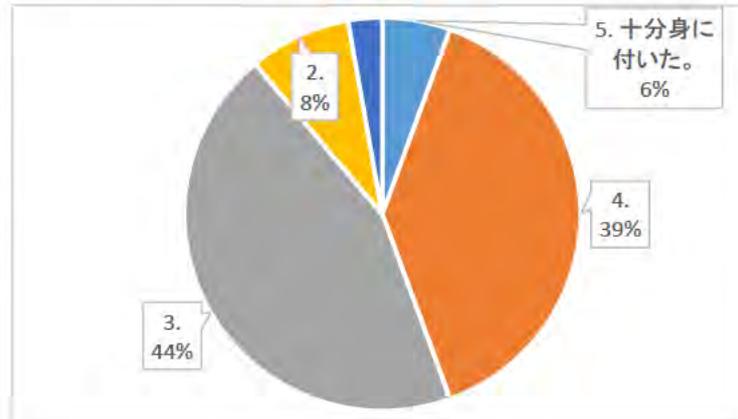
## 平成30年度卒業生及び修了生の教育の成果及び満足度等に関するアンケート調査結果

## 回答結果

本科(全学科) 36 名 回答

3. 卒業、修了時にエンジニアリング・デザイン能力が身に付けられたといえるでしょうか？

5. 十分身に付いた。  
4.  
3.  
2.  
1. 全く身に付かなかった。



4. ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、専門教育を学修するための「カリキュラム・ポリシー」を定めています。これにつきましても、ご意見がございましたらご記入下さい。

・具体的な方針には同意しています。しかし、あまり複雑な表現を用いても、学生や教員に嘲笑されるだけだと思います。我々の世代ではアクティブラーニングがそれに当たりました。大事なのは言葉による変革ではなく、個人一人ひとりがその重要性に気づけるような機会を与えることだと思います。たとえば、教育に関する論文や書籍を教員に配布するなどしてみてはいかがでしょうか？

・生成AIを実務で使いこなせるようになるためのカリキュラムの導入を促進してほしい



## 回答結果

本科(全学科) 36 名 回答

5. 卒業, 修了時にもっと身に付けられればよかったと感じられる姿勢・知識・技術・能力等がございましたらご記入下さい。

- ・ 英語等の外国語能力
- ・ 文章作成能力 英語等で論文の書き方を指導いただけるとありがたい
- ・ 資格をもっと取ればよかったと思います。
- ・ 行動力
- ・ 英語によるコミュニケーション能力。 専門分野における最先端技術の情報収集能力。
- ・ 情報技術。 具体的なアプリやゲームを作る方法を教わりたかったです。
- ・ ビジネス英語 英検
- ・ pcスキル、英語
- ・ 製図
- ・ 数学的思考力、プログラミング 情報収集能力 (英文を含む論文読解) 論理的思考力、特許作成
- ・ 英語
- ・ 持続的に学習する姿勢 情報工学全般に対する知識 情報セキュリティの技術 英語の能力

## 回答結果

本科(全学科) 36 名 回答

6. 本校の教育の成果として発揮できていると考えられる具体的な事例等がございましたらご記入下さい。

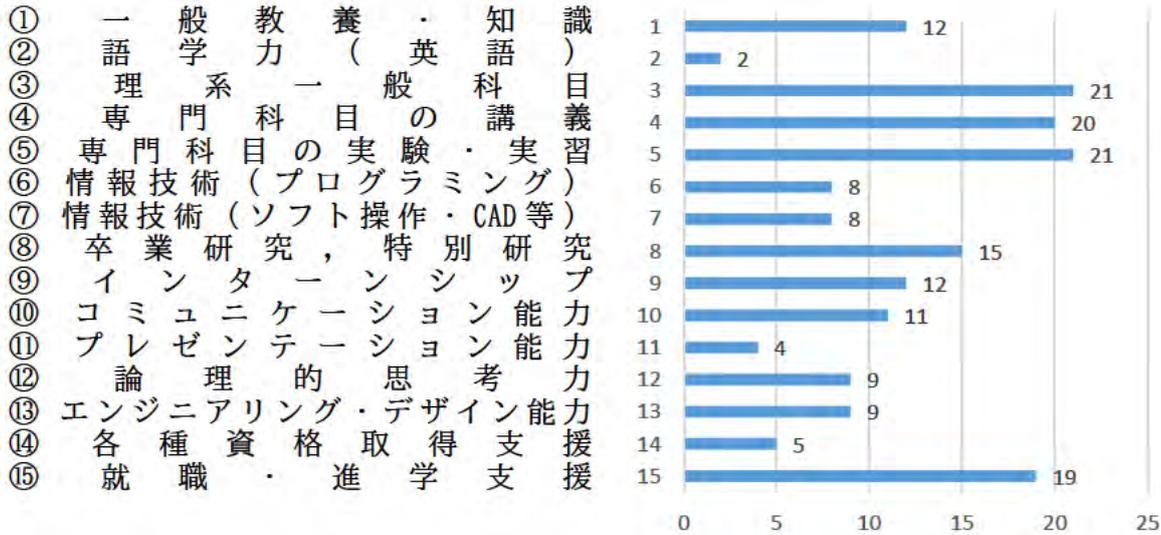
- ・発想能力や考える能力
- ・大学、大学院等へ比較的簡単に入れること
- ・設備の配電盤を扱う際に得た知識を使えることがある。ⓧとはプログラミング
- ・プログラミング言語（プロセッシング）の学習が今の仕事（アプリ制作）に繋がっています。
- ・他者と連携して業務を進める能力
- ・専門分野の知識の取得
- ・学会で賞を受賞したこと。
- ・ロボコン、プロコンなどのプロジェクト活動

## 平成30年度卒業生及び修了生の教育の成果及び満足度等に関するアンケート調査結果

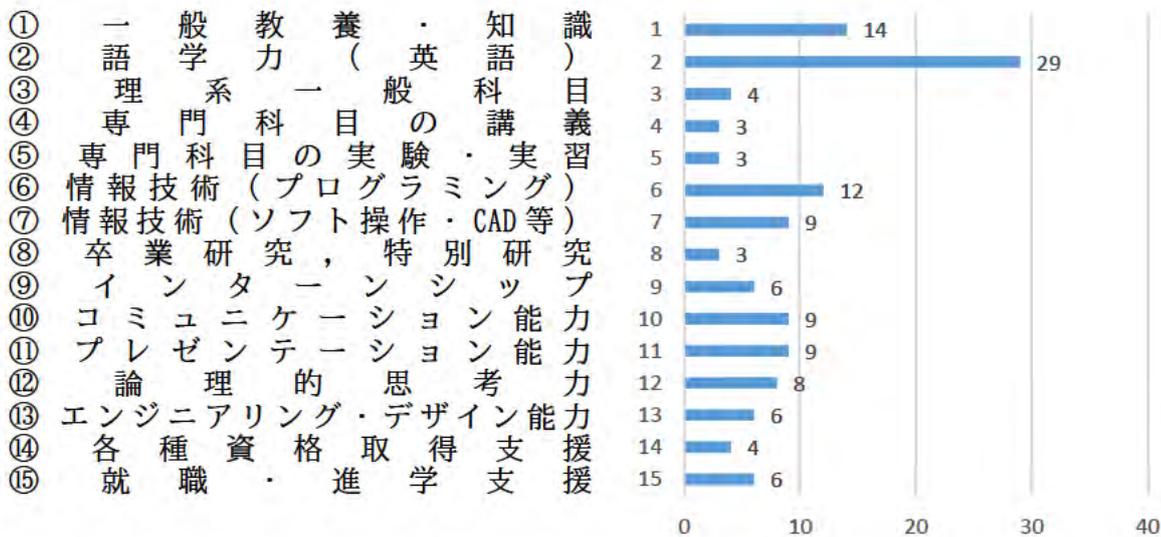
## 回答結果

本科(全学科) 36 名 回答

7. 本校での教育内容,身に付けたこと,学生支援に対して,「大変満足している」という項目にチェックを入れてください。(複数選択可)

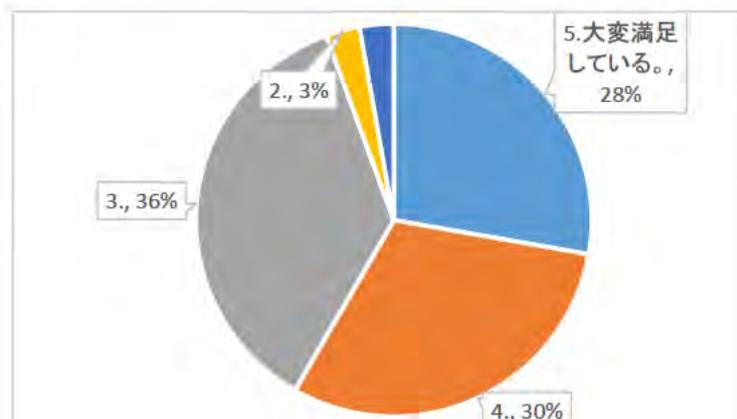


8. 同じく以下本校での教育内容,身に付けたこと,学生支援に対して,「あまり満足していない」という項目にチェックを入れてください。(複数選択可)



9. 全体的に評価して,本校の教育内容,身に付けたこと,学生支援に対して,どの程度満足していますか?

5. 大変満足している。  
4.  
3.  
2.  
1. まったく満足していない。

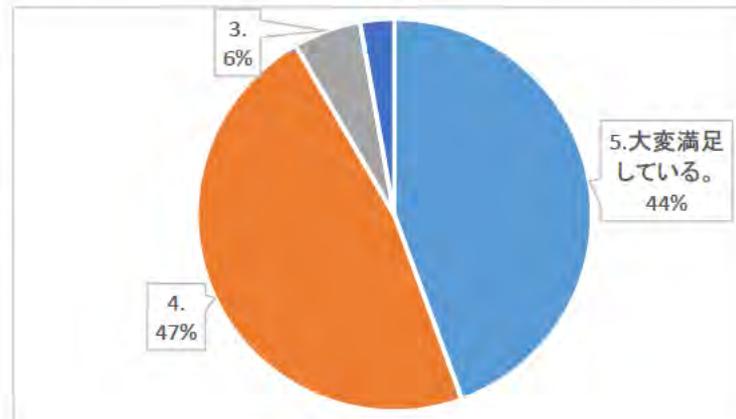


## 回答結果

本科(全学科) 36 名 回答

10. あなたは、高専、専攻科に進学したことについて満足していますか？ その理由  
についても教えてください。

5. 大変満足している。  
4.  
3.  
2.  
1. まったく満足していない。



## 理由

- ・就職や進学に対しての支援が多いため
- ・大学院へ比較的簡単に入れたから
- ・専門の知識をつけられて、大手企業に就職できたので満足しています。
- ・進学や就職が有利に働いたこと。高専を卒業したことが就職においてアドバンテージとなったこと。
- ・専門的な知識を早い段階から学習できた
- ・進学や学習内容（英語以外）については概ね満足しています。人間関係問題については改善すべき点があると思います。
- ・編入試験で楽に大学に進学できた。
- ・最短ルートで大企業へ就職でき、主体性を持って業務を遂行できている点は、高専時代に培ってきたものが土台になっていると感じる。一方で、高専は良くも悪くも5年間同じメンバーで、刺激が無い。大学大学院は、高専と比較して、より幅広い人種と意見交換でき、刺激的で物事を考えるきっかけが多いと考える。
- ・良い就職先につけたこと、仲間と出会えたこと
- ・専門的な分野を学ぶことに対しては満足しているがクラス替え等がないことに普通科高校どのギャップを感じたことが多々あった。
- ・高専で得られた知識や技能が現在の仕事に活着いていると思うので満足している
- ・高専という一種のブランドを持って社会に出ることができたため。園校と異なり、勉強ばかりに注力するのではなく、部活やアルバイト等で社会に出てから必要になることを十分に学ぶことができたため。専攻科では、大学と異なり、教員との距離が近く、発表資料やプレゼンテーション能力などをきめ細かく教えていただけのため。
- ・早いうちから専門知識や技術を身につけられた。ボコンなどの課外活動を通じて実践的な経験ができた。一般入試では難しい国立大学への編入学ができた。土課程での就活においても高専時代の取り組みが評価された

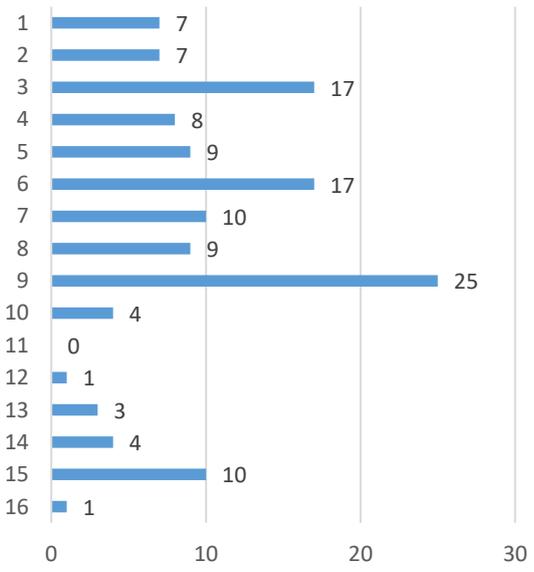
平成30年度卒業生及び修了生の教育の成果及び満足度等に関するアンケート調査結果

回答結果

本科(全学科) 36 名 回答

11. 客観的にみて、高専卒業者は、どのような資質・能力をもった人材だと思いますか？該当するものすべてを選んで下さい。

- ① 協主創責誠
- ② 調体造任実
- ③ 性性性感さ力
- ④ 行チ論
- ⑤ 動カレ
- ⑥ 行チ論
- ⑦ 動カレ
- ⑧ 行チ論
- ⑨ 動カレ
- ⑩ 行チ論
- ⑪ 行チ論
- ⑫ 行チ論
- ⑬ 行チ論
- ⑭ 行チ論
- ⑮ 行チ論
- ⑯ 行チ論
- ⑰ 行チ論
- ⑱ 行チ論
- ⑲ 行チ論
- ⑳ 行チ論
- ㉑ 行チ論
- ㉒ 行チ論
- ㉓ 行チ論
- ㉔ 行チ論
- ㉕ 行チ論
- ㉖ 行チ論
- ㉗ 行チ論
- ㉘ 行チ論
- ㉙ 行チ論
- ㉚ 行チ論
- ㉛ 行チ論
- ㉜ 行チ論
- ㉝ 行チ論
- ㉞ 行チ論
- ㉟ 行チ論
- ㊱ 行チ論
- ㊲ 行チ論
- ㊳ 行チ論
- ㊴ 行チ論
- ㊵ 行チ論
- ㊶ 行チ論
- ㊷ 行チ論
- ㊸ 行チ論
- ㊹ 行チ論
- ㊺ 行チ論
- ㊻ 行チ論
- ㊼ 行チ論
- ㊽ 行チ論
- ㊾ 行チ論
- ㊿ 行チ論



・お値打ちな人材

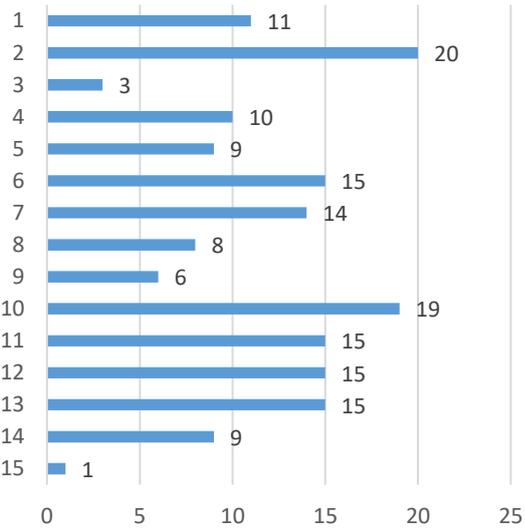
## 回答結果

本科(全学科) 36名 回答

12. 今後、高専卒業者がより社会に貢献するためには、以下のどれを重視すべきだと思いますか？該当するものすべてを選んで下さい。

- ① 一般教養・知識
- ② 語学力（英語）
- ③ 理系一般科目
- ④ 専門科目の講義
- ⑤ 専門科目の実験・実習
- ⑥ 情報技術（プログラミング）
- ⑦ 情報技術（ソフト操作・CAD等）
- ⑧ 卒業研究，特別研究
- ⑨ インターンシップ
- ⑩ コミュニケーション能力
- ⑪ プレゼンテーション能力
- ⑫ 論理的思考力
- ⑬ エンジニアリング・デザイン能力
- ⑭ 各種資格取得
- ⑮ その他

・3年生で米国の大学に進学するもしくは、医学部医学科に進学する



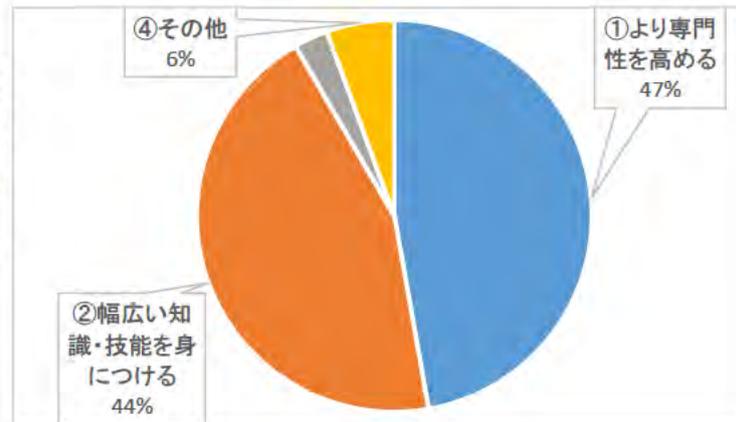
## 平成30年度卒業生及び修了生の教育の成果及び満足度等に関するアンケート調査結果

## 回答結果

本科(全学科) 36名 回答

13. 今後の本校の教育方針としては、以下のいずれの方向に進むべきだと思いますか？どれか一つ選んで下さい。

- ① より専門性を高める
- ② 幅広い知識・技能を身につける
- ③ より一般教養を身につける
- ④ その他
  - ・英語とプログラミング
  - ・偏差値を上げる, JABEEをやめる



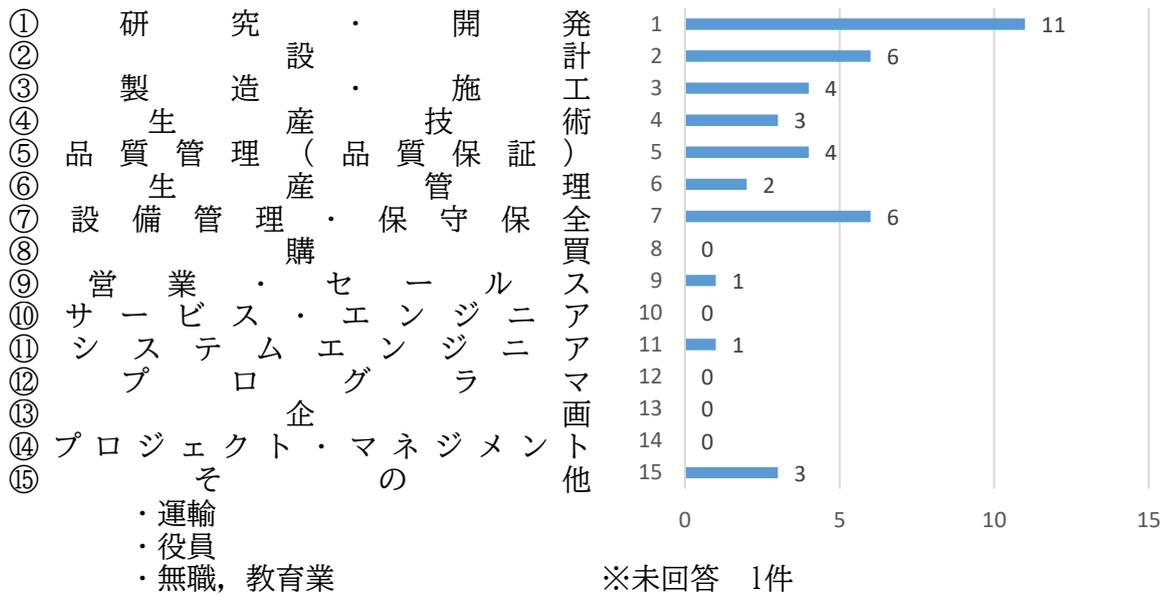
## 平成30年度卒業生及び修了生の教育の成果及び満足度等に関するアンケート調査結果

## 回答結果

本科(全学科)

36 名 回答

14. 現在、どのような部署（職種）に勤務されていますか？



- ・運輸
- ・役員
- ・無職, 教育業

## 回答結果

本科(全学科) 36 名 回答

15. その他 何かお気づきの点, ご意見等がございましたら, 次項の欄に自由にご記入いただければ幸いです。

- ・大学に比べ丁寧に(演習等)専門の授業をしていただけるため、身につけているように思われる。



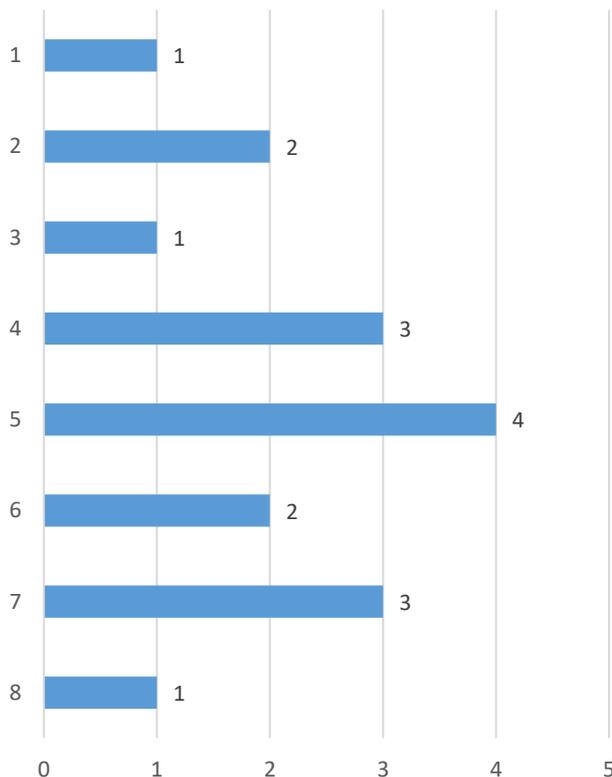
## 平成30年度卒業生及び修了生の教育の成果及び満足度等に関するアンケート調査結果

## 回答結果

専攻科 4名回答

1. 「学習・教育到達目標」「ディプロマ・ポリシー」には以下のような項目があります。「十分に付いた」という項目にチェックを入れてください。(複数選択可)

「1.<視野>自己と世界の関係を理解し地球規模で物事を眺めることができる。」



「2.<技術者倫理>生産により生じる環境と社会への影響を認識し責任を自覚できる。」

「3.<意欲>習得した知識・能力を超える問題に備えて、継続的・自律的に学習できる。」

「4.<基礎>数学、自然科学および情報技術の知識を習得し、それを活用できる。」

「5.<専門>基礎工学に加え、主となる専門分野において専門工学の知識を習得し、それを活用できる。」

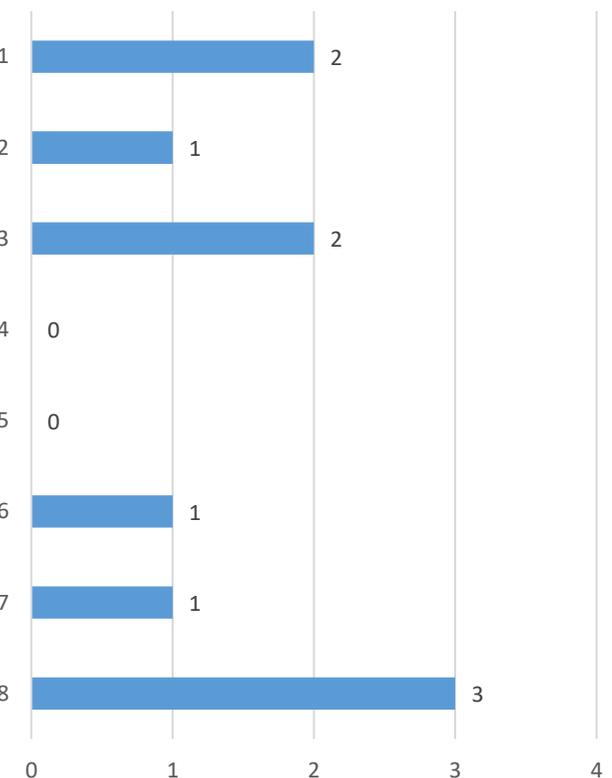
「6.<展開>習得した知識をもとに創造性を発揮し、他者と協働しながら仕事を計画的に進めまとめることができる。」

「7.<発表>自らの取り組む課題に関する成果・問題点を論理的に記述・伝達・討論できる。」

「8.<英語>英語による基本的なコミュニケーションができる。」

2. 同じく以下「学習・教育到達目標」「ディプロマ・ポリシー」の項目について「あまり身に付かなかった」という項目にチェックを入れてください。(複数選択可)

「1.<視野>自己と世界の関係を理解し地球規模で物事を眺めることができる。」



「2.<技術者倫理>生産により生じる環境と社会への影響を認識し責任を自覚できる。」

「3.<意欲>習得した知識・能力を超える問題に備えて、継続的・自律的に学習できる。」

「4.<基礎>数学、自然科学および情報技術の知識を習得し、それを活用できる。」

「5.<専門>基礎工学に加え、主となる専門分野において専門工学の知識を習得し、それを活用できる。」

「6.<展開>習得した知識をもとに創造性を発揮し、他者と協働しながら仕事を計画的に進めまとめることができる。」

「7.<発表>自らの取り組む課題に関する成果・問題点を論理的に記述・伝達・討論できる。」

「8.<英語>英語による基本的なコミュニケーションができる。」

## 平成30年度卒業生及び修了生の教育の成果及び満足度等に関するアンケート調査結果

## 回答結果

専攻科 4名回答

3. 卒業、修了時にエンジニアリング・デザイン能力が身に付けられたといえるでしょうか？

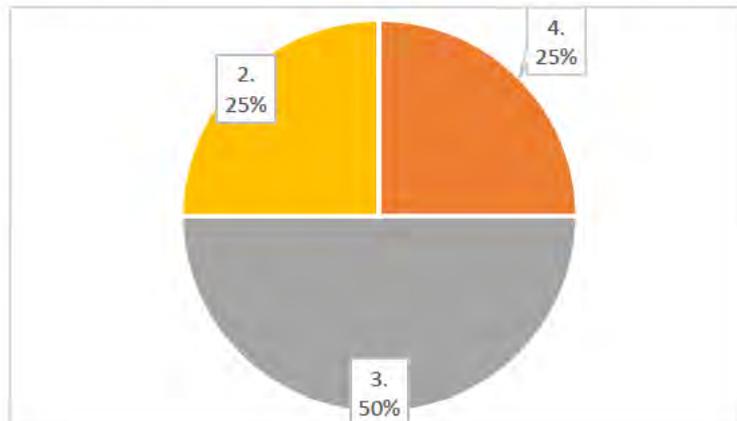
5. 十分身に付いた。

4.

3.

2.

1. 全く身に付かなかった。



4. ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、専門教育を学修するための「カリキュラム・ポリシー」を定めています。これにつきましても、ご意見がございましたらご記入下さい。

## 平成30年度卒業生及び修了生の教育の成果及び満足度等に関するアンケート調査結果

## 回答結果

専攻科 4 名 回答

5. 卒業、修了時にもっと身に付けられればよかったと感じられる姿勢・知識・技術・能力等がございましたらご記入下さい。

- ・英語によるコミュニケーション能力

## 回答結果

専攻科 4 名 回答

6. 本校の教育の成果として発揮できていると考えられる具体的な事例等がございましたらご記入下さい。

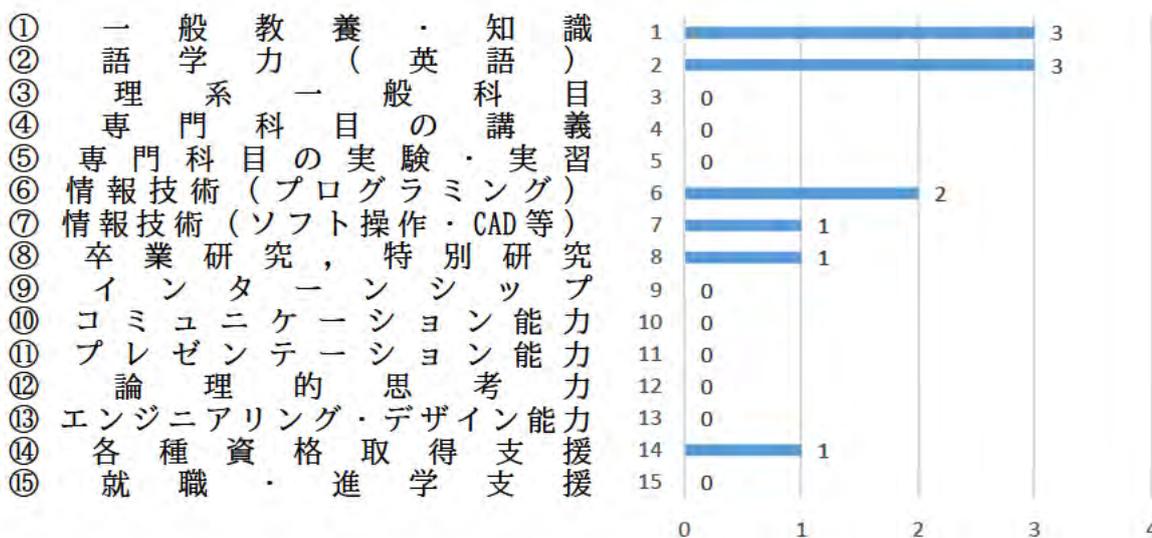
## 回答結果

専攻科 4名回答

7. 本校での教育内容,身に付けたこと,学生支援に対して,「大変満足している」という項目にチェックを入れてください。(複数選択可)

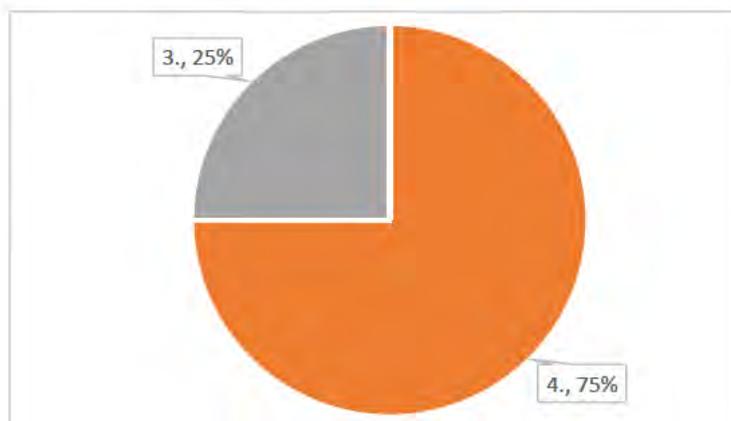


8. 同じく以下本校での教育内容,身に付けたこと,学生支援に対して,「あまり満足していない」という項目にチェックを入れてください。(複数選択可)



9. 全体的に評価して,本校の教育内容,身に付けたこと,学生支援に対して,どの程度満足していますか?

- 5. 大変満足している。
- 4.
- 3.
- 2.
- 1. まったく満足していない。



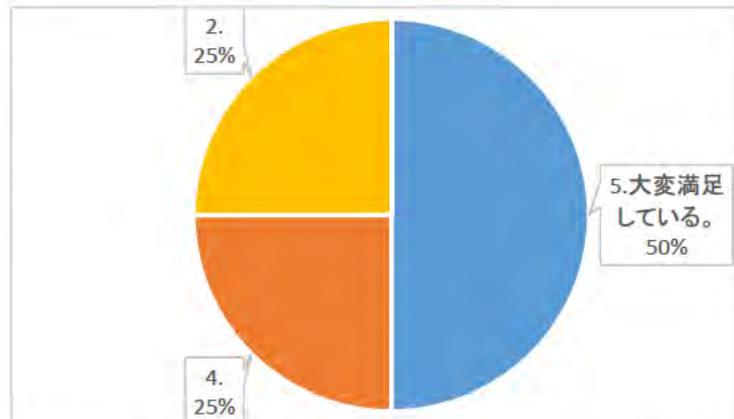
## 平成30年度卒業生及び修了生の教育の成果及び満足度等に関するアンケート調査結果

## 回答結果

専攻科 4 名 回答

10. あなたは、高専、専攻科に進学したことについて満足していますか？ その理由についても教えてください。

5. 大変満足している。  
4.  
3.  
2.  
1. まったく満足していない。



## 理由

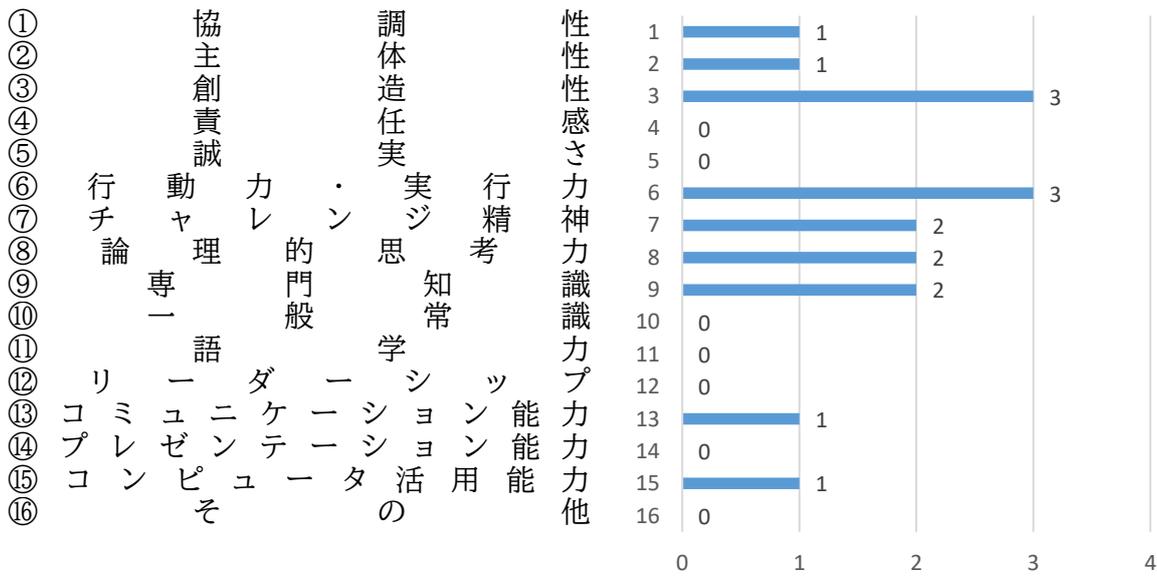
- ・講義や実習、研究活動を通して専門的な知識・技術を習得するだけでなく、部活や寮生活などでチームで取り組む力・コミュニケーション能力も磨くことができた実感しており、総じて人間として大きく成長することができた期間だったと感ずるため。
- ・大学院までにやりたい研究を見つけられたことに関しては満足している。

平成30年度卒業生及び修了生の教育の成果及び満足度等に関するアンケート調査結果

回答結果

専攻科 4名回答

11. 客観的にみて、高専卒業者は、どのような資質・能力をもった人材だと思いますか？該当するものすべてを選んで下さい。

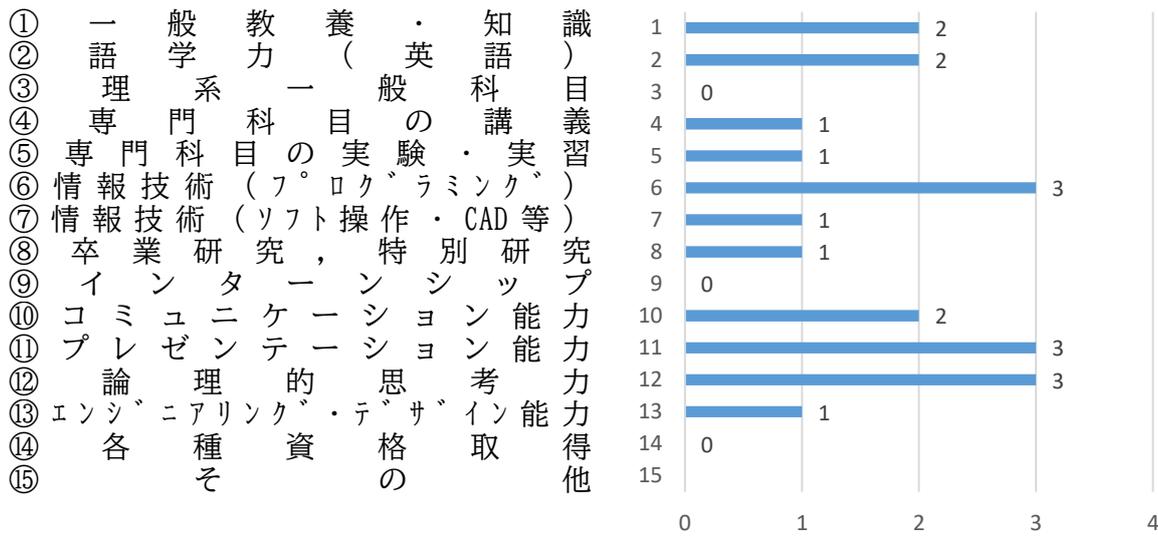


## 平成30年度卒業生及び修了生の教育の成果及び満足度等に関するアンケート調査結果

## 回答結果

専攻科 4名回答

12. 今後、高専卒業生がより社会に貢献するためには、以下のどれを重視すべきだと思いますか？該当するものすべてを選んで下さい。



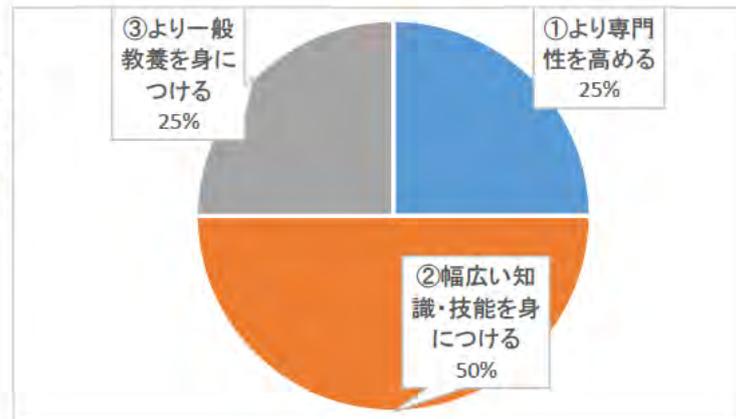
## 平成30年度卒業生及び修了生の教育の成果及び満足度等に関するアンケート調査結果

## 回答結果

専攻科 4名回答

13. 今後の本校の教育方針としては、以下のいずれの方向に進むべきだと思いますか？どれか一つ選んで下さい。

- ① より専門性を高める
- ② 幅広い知識・技能を身につける
- ③ より一般教養を身につける
- ④ その他



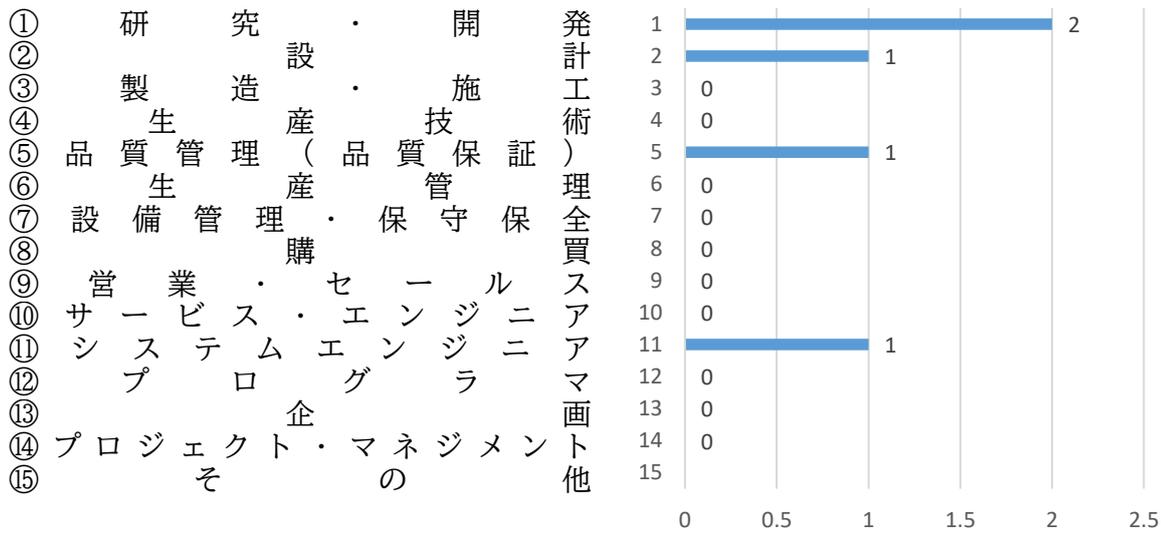
## 平成30年度卒業生及び修了生の教育の成果及び満足度等に関するアンケート調査結果

## 回答結果

専攻科

4 名 回答

14. 現在、どのような部署（職種）に勤務されていますか？



## 回答結果

専攻科 4 名 回答

15. その他 何かお気づきの点, ご意見等がございましたら, 次項の欄に自由にご記入いただければ幸いです。

## 令和5年度第1回自己点検評価・改善委員会 兼 第2回PDCA推進会議 議事概要

日 時：令和6年3月6日(水) 11:00-11:50

場 所：会議室B

出席者：■■■■ 校長、■■■■ 副校長、■■■■ 教務主事、■■■■ 学生主事、■■■■ 寮務主事、■■■■ 専攻科長、  
■■■■ 副専攻科長、■■■■ 学科長(M)、■■■■ 学科長(E)、■■■■ 学科長(I)、■■■■ 学科長(C)、  
■■■■ 学科長(S)、■■■■ 学科長(G)、■■■■ 事務部長、■■■■ 点検評価担当長、■■■■ 図書館長、  
■■■■ 総務課長、■■■■ 学生課長、総務企画係

## 議 題

## 1. PDCA 推進会議報告

## (1) 令和6年度 点検評価・改善活動(PDCA サイクル)(案)について

■■■■ 副校長 (PDCA 推進担当長) から、資料1-1に基づき、次年度の点検評価・改善活動 (PDCA サイクル) に関する説明があった。

## (2) 令和6年度自己点検評価\_外部評価\_アンケート等の実施計画

■■■■ 副校長 (PDCA 推進担当長) から、資料1-2に基づき、次年度の自己点検評価・外部評価・アンケート等の実施計画に関する説明があった。また、来年度は認証評価受審の前年度に当たるため、自己評価書の施行版の作成が必要であるとの説明があった。

## 2. 点検評価担当報告

## (1) 令和5年度「学生との意見交換会」における意見等に対する対応実績のまとめについて

■■■■ 点検評価担当長から資料2-1に基づき説明があり、学生の要望に対する対応について、各主事、学生課及び総務課からの回答を、Moodle にて学生に公開したとの報告があった。

## (2) 平成30年度卒業生及び修了生の教育の成果及び満足度等に関するアンケート調査結果について

■■■■ 点検評価担当長から資料2-2に基づき、昨年8月に実施したアンケートについて説明があった。アンケートについては項目を減らす等の改善を行った。

## (3) 令和5年度自己点検評価報告書について

■■■■ 点検評価担当長から資料2-3に基づき自己点検評価報告書に関する説明があった。

## (4) 点検・評価のWEB 情報公開について

■■■■ 点検評価担当長から、令和4年度自己点検評価報告書(令和4年度 年度計画 活動経過・結果報告書) 及び運営諮問会議報告書(令和4年度計画) についてホームページで公開済みであるとの報告があった。

## (5) 点検評価・改善活動について

■■■■ 点検評価担当長から資料1-2に基づき、本年度の活動について予定通りに実施されたとの報告があった。

## (6) 令和5年度「学習・教育到達目標」の達成度評価アンケート調査について

■■■■ 点検評価担当長から資料2-4に基づき、アンケートの集計結果に関する説明があった。学年が上がるにつれ数値が上がっていることが確認できた。

(7) 令和5年度 専攻科修了予定者、学科卒業予定者への「学習・教育到達目標」の達成度及び満足度等に関するアンケート調査について

■点検評価担当長から資料2-5に基づきアンケートの集計結果に関する説明があり、回答者数が低い学科については担任等の協力を得て引き続き実施したいとの依頼があった。

(8) その他

・■校長より、集計したアンケートデータについての分析が不十分であるので、分析結果を教務委員会等で教育活動に反映できるようにしたいとの意見があった。

・■校長より、学生との意見交換会について、意見に対する対応の成果を学生に強調できるようにしたいとの意見があった。

・■点検評価担当長から、認証評価に向けて試験答案の保管についての依頼があった。

3. その他

特になし

## 令和5年度第1回点検評価担当者会議議事要旨

日 時：令和6年3月18日（月）10:00～11:00

場 所：共同研究推進センター ミーティングルーム

出席予定■■■■（担当長）、■■■■（副担当長）、■■■■（R06M）、■■■■（R05M）、■■■■（E）、■■■■（I）、■■■■（C）、  
■■■■（R05S）、■■■■（G）、■■■■

欠席者：■■■■（G）、■■■■（総務課）、■■■■（学生課）

## 事項

## 1. 令和5年度の活動について

■■■■担当長より、令和5年度の活動結果及び令和6年度の活動について、事項書に基づき以下のとおり説明があった。

## (1) 鈴鹿高専の目的の周知に関するアンケート調査(4/4～4/27 に実施)

- 令和5年度については、回答数：133件(回答率96%)、結果は昨年と同様で概ね良好(4,5が80%以上)。

## (2) 学生との意見交換会

- 令和5年度については、6月～11月に各科・専攻科で実施した。
- 対応結果への公開を2月13日にMoodleにて行った。

## (3) 答案保管状況のチェック

- 令和5年度について、¥¥azami¥data¥r05への答案保管状況（専攻科，非常勤を含む）の確認を行った。点検評価委員には毎月末，全教職員へは前期末及び後期末に■■■■担当長より答案保管の呼びかけを行った。

## (4) 自己点検評価報告書の作成

- 令和5年度自己点検評価報告書について、10月18日～1月19日に各担当により報告書原案（資料を含む）を作成，点検評価担当により確認を行い，2月に印刷を行った。
- 令和5年度は，2月3月開催予定の行事イベント等を考慮し，運営諮問会議に間に合う範囲で，スケジュールを後ろ倒しした。

## (5) 平成30年度学科卒業生，専攻科修了生へのアンケート調査

- 7月下旬に依頼文を郵送，Webで回答（回収率15%程度）。
- 項目を減らす等の改善を行った。
- アンケート結果とお礼文をホームページに掲載した。
- .

## (6) 学習・教育到達目標の達成度評価アンケート

- 昨年度学級担任から早めに教えてほしいとの要望があったことから，11月時点で各学級担任

に予告を行い、年明けに実施した。

- ・本年度から項目を減らし、アンケートの項目を統合し実施した。(2学年以上は現行のまま実施)

(7) 卒業(専攻科修了) 予定者満足度評価・達成度評価のアンケート

- ・例年同様、年度末に実施した。
- ・本科の回答数は171名(回答率:89%)、専攻科の回答数は29名(回答率:97%)

2. 令和6年度の活動について

(1) 鈴鹿高専の目的の周知に関するアンケート調査

- ・例年同様、4月に実施する。

(2) 学生との意見交換会

- ・今年度は、教務委員会・学生委員会をはじめとして改善点についてまだ審議がなされていないことから、来年度は前期中間試験後から夏休み前までを目途に実施し、12月ごろまでに各委員会で改善点について検討し、年度内にPDCAサイクルを回せるようにする。

(3) 答案保管状況のチェック

- ・¥¥azami¥data¥r06 答案保管状況(専攻科、非常勤を含む)の確認を行う。
- ・認証評価に備え、答案保管率に偏りがあるため、各科の点検評価担当者から保管率の低い教員へリマインドを行う。

(4) 自己点検評価報告書の作成

令和6年度についても、以下のスケジュールで自己点検評価報告書を作成する。

- ・11月上旬:各担当により、中間報告を元にした報告書原案(資料を含む)の完成
- ・11月中旬:点検評価担当によるチェック・修正
- ・12月中旬:自己点検評価・改善委員会メンバーによる確認
- ・3月:運営諮問会議で報告
- ・令和6年度自己点検評価報告書作成の担当について

■次期担当長より、自己点検評価報告書作成の担当について以下のとおりとする旨提案があった。令和6年度から中期目標が新しくなるため、機構本部の年度計画及び本校の年度計画作成後に正式決定する説明があり承認された。

事項	担当 (R5)	担当 (R6)
3.1-(1) 入学者の確保	■先生(I)	■先生(I)
3.1-(2) 教育課程の編成等	■先生(C)	■先生(C)
3.1-(3) 多様かつ優れた教員の確保	■先生(M)	■先生(C)1-6 ■先生(E)7-15
3.1-(4) 教育の質の向上及び改善	■先生(E)	■先生(E)
3.1-(5) 学生支援・生活支援等	■先生(G) ■先生(G)	■先生(G)1-17 ■先生(G)18-35

3.1-(6) 教育環境の整備・活用	■■■先生(M)	■■■先生(M)
3.2 社会連携に関する目標	■■■先生(S)	S科新任先生 1-20 ■■■先生(E) 21-29
3.3 国際交流に関する目標	■■■先生(E)	■■■先生(E)
4 業務運営の効率化に関する事項 5 財務内容の改善に関する事項 6 剰余金の使途 7 その他業務運営に関する事項	総務課	総務課

## (5) 学習・教育到達目標の達成度評価アンケート

- Formsによる回答の場合、全員に回答させることが難しいこと、また、各学年の学習目標達成状況を年度初めの個人面談で活用することになっているが、ポートフォリオデータ作成に労力がかかることについて岡先生から指摘があり、令和6年度から業務効率化のため、マークシートによる回答に変更することとなった。
- 令和5年度アンケート結果は、新第2学年・新専攻科2年はクラス全員分の折れ線グラフを、それ以外の学年は昨年度と同様のポートフォリオでデータ処理を行い、個人面談で使用する。
- 令和6年度からはマークシート回答用紙を保管し、そのまま個人面談で活用する。
- 実施時期は例年どおり、11月ごろに予告を行い、年明けに実施する。
- 担当員より、現状作成した資料を効果的に活用できていない状況であるため、ポートフォリオを効果的に活用するための仕組み作りが重要ではないかとの意見があった。

## (6) 卒業（専攻科修了）予定者満足度評価・達成度評価のアンケート

- Formsによる回答からマークシートによる回答に変更を行う。

## (7) 認証評価の受審について

- 認証評価受審の前年度にあたるので、自己点検書の作成等の準備が必要である。
- 次期担当長より、自己点検書作成の担当について以下のとおりとする提案があり承認された。
- 領域等内容に一部変更があるため、変更内容についての資料及び過去に受審した際の資料を■■■担当長から Teams で共有することとなった。

事項	担当 (R5)	担当 (R6)
領域1 教育の内部質保証システム	■■■先生(M)	基準数3・観点数10・ 点検評価項目数17
領域2 教育組織及び教員・教育支援者等	■■■先生(E)	基準数5・観点数13・ 点検評価項目数20
領域3 学習環境及び学生支援等	■■■先生(G)	基準数2・観点数9・ 点検評価項目数29
領域4 財務基盤及び管理運営	事務部	基準数5・観点数10・ 点検評価項目数22
領域5 準学士課程の教育活動の状況	■■■先生(C)	基準数11・観点数26・

	■先生(I)	点検評価項目数 54
領域6 専攻科課程の教育活動の状況	■先生(G) S科新任先生	基準数 11・観点数 27・ 点検評価項目数 49
合計		基準数 37・観点数 95・ 点検評価項目数 191

### 3. その他

- ・■担当員から、学生の学習・教育到達目標の達成度評価アンケートは本来年度当初に行っていたが、進級等の関係で複雑となるので年度末に行っている。達成度評価アンケートのうち目的の周知部分については年度初めに学級担任からオリエンテーションを行った時点でアンケートを行うことが良いのではないかとの意見があった。
- ・■担当員から実施方法としてFormを使用した場合、サインイン及び2要素認証の手間が必要になるため、設問が2つであれば紙配布し集計する方が効率的との意見がだされた。
- ・令和6年度は2個の質問で試行的にマークシート方式で年度初めに行うこととなった。  
また、年度初めオリエンテーションの際に教務主事からアンケートについて周知できるか、いつアンケート用紙を配布するかについては確認することとなった。

## 令和4年度学科卒業生及び修了生の教育の成果に関するアンケート調査結果

令和4年12月7日

鈴鹿高専テクノプラザ会員企業 御中

独立行政法人国立高等専門学校機構  
鈴鹿工業高等専門学校長

竹 茂 求

(公 印 省 略)

学科卒業生及び専攻科修了生の教育の成果に関するアンケート調査について（依頼）

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は、本校の教育及び研究に深いご理解と格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本校は、知徳体三育の全人教育を範とする建学の精神に則り、我が国の工業発展を支える創造的な実践的技術者を育成することを使命とし、技術者教育を担う高等教育機関に求められる民間企業等の社会的要請及び科学技術の高度化と国際化の進展等を踏まえ、教育理念、養成すべき人材像、教育目標を定めています。さらに、卒業生及び修了生が身に付けるべき姿勢・知識・技術・能力を各科の「学習・教育到達目標」「ディプロマ・ポリシー」として提示し、これらを常に念頭に置いた教育を実践するとともに、継続的に改善・改良を加えております。

今回、学科卒業生及び専攻科修了生の教育の成果について、現状での課題等を把握し、今後の改善を進めていくために、外部関係者に対するアンケートを実施させていただくことといたしました。

つきましては、ご多用のところ誠に恐縮ですが、これまでにお感じになった卒業生及び修了生の能力等を忌憚なくお聞かせいただきたく存じます。

お手数ですが、右図のQRコードを読み取り、回答フォームから、アンケートにご回答いただきますようお願いいたします。



(回答フォーム URL)

<https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=XYP-cpVeEkWK4KezivJfyCn0Nz7E19JFhx-wW1i-A4dUNzBFUD1BR0tMMkdaMzFKOUcyR0s1QTRTTy4u>

なお、アンケートは、令和4年12月21日（水）までにご回答いただければ幸いです。頂きました回答結果は3月末までに集計し、鈴鹿高専ホームページに公開等にてご案内させていただく予定です。

本校の教育につきまして、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

※ 本件につきまして、ご不明な点がございましたら、下記連絡先までお問い合わせ下さい。

連絡先：鈴鹿工業高等専門学校自己点検評価・改善委員会 点検評価担当長

電話 FAX E-mail :

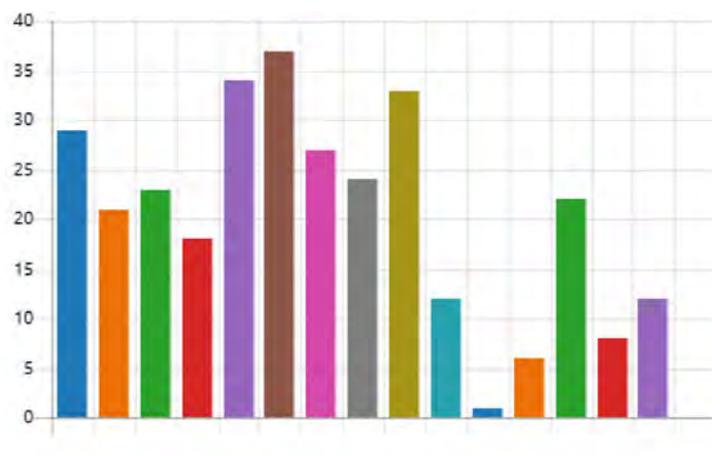
## 【鈴鹿高専】 本科卒業生及び専攻科修了生の教育の成果及び満足度等に関するアンケート調査

54 応答 08:50 完了するのにかかった平均時間 アクティブ 状態

1. 本校卒業生/修了生は，どのような資質・能力をもった人材だと思いますか？

※該当するものすべてを選んで下さい

● 協調性	29
● 主体性	21
● 創造性	23
● 責任感	18
● 誠実さ	34
● 行動力・実行力	37
● チャレンジ精神	27
● 論理的思考力	24
● 専門知識	33
● 一般知識	12
● 語学力	1
● リーダーシップ	6
● コミュニケーション能力	22
● プレゼンテーション能力	8
● コンピュータ活用能力	12
● その他	0

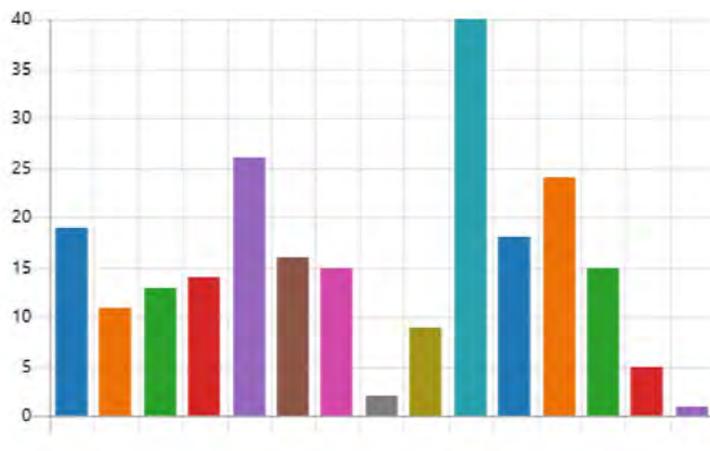


## 令和4年度学科卒業生及び修了生の教育の成果に関するアンケート調査結果

2. 今後、本校卒業生/修了者がより社会に貢献するためには、以下のどれを重視すべきだと思いますか？

※該当するものすべてを選んで下さい。

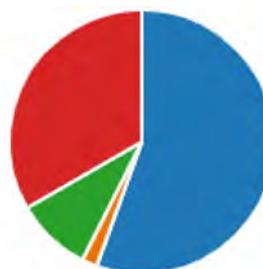
● 一般教養・知識	19
● 語学力（英語）	11
● 理系一般科目	13
● 専門科目の講義	14
● 専門科目の実験・実習	26
● 情報技術（プログラミング）	16
● 情報技術（ソフト操作・C A D...	15
● 卒業研究	2
● インターンシップ	9
● コミュニケーション能力	40
● プレゼンテーション能力	18
● 論理的思考力	24
● エンジニアリング・デザイン力	15
● 各種資格取得	5
● その他	1



3. 御社に本校卒業生/専攻科修了生は在籍していますか？

※該当するものすべてを選んで下さい

● 卒業生が在籍している	30
● 修了生が在籍している	1
● 卒業生と修了生が在籍している	5
● 卒業生・修了生は在籍していない...	18

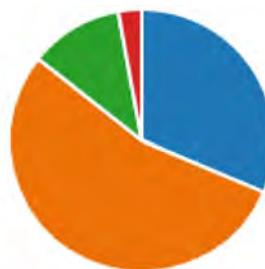


## 令和4年度学科卒業生及び修了生の教育の成果に関するアンケート調査結果

4. 本校の卒業生/修了生は、ディプロマ・ポリシーに定める以下（設問4（1/12）～設問15（12/12））の姿勢・知識・技術・能力をどの程度身に付けているでしょうか？

## 「人文社会の基礎知識と幅広い教養」（1/12）

● 十分身に付いている	11
● 身に付いている	19
● どちらともいえない	4
● 身に付いていない	1
● 全く身に付いていない	0



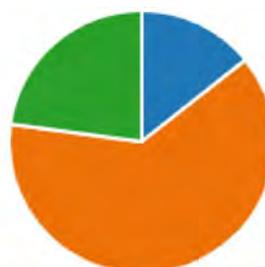
5. 「英語による基本的なコミュニケーションができる。」（2/12）

● 十分身に付いている	2
● 身に付いている	6
● どちらともいえない	22
● 身に付いていない	5
● 全く身に付いていない	0



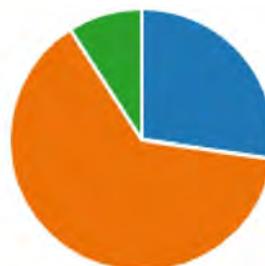
6. 「数学，自然科学および情報技術の知識を習得し，それを活用できる。」（3/12）

● 十分身に付いている	5
● 身に付いている	22
● どちらともいえない	8
● 身に付いていない	0
● 全く身に付いていない	0



7. 「基礎工学に加え，主となる専門分野において専門工学の知識を習得し，それを活用できる。」（4/12）

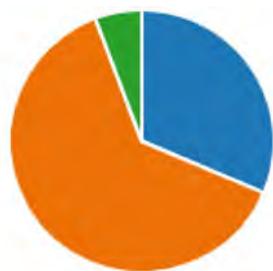
● 十分身に付いている	9
● 身に付いている	21
● どちらともいえない	3
● 身に付いていない	0
● 全く身に付いていない	0



## 令和4年度学科卒業生及び修了生の教育の成果に関するアンケート調査結果

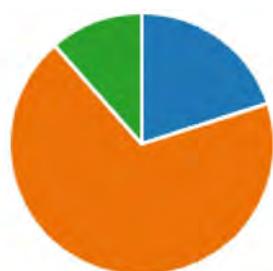
## 8. 「専門分野を主とした幅広い知識と技術を活用して論理的に思考し、課題を解決できる能力」(5/12)

● 十分身に付いている	11
● 身に付いている	22
● どちらともいえない	2
● 身に付いていない	0
● 全く身に付いていない	0



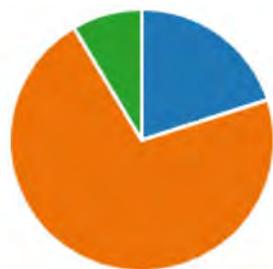
## 9. 「実験や実習を通じて、他者と協働しながら課題を解決し、その内容を文章や発表によって表現できる能力」(6/12)

● 十分身に付いている	7
● 身に付いている	24
● どちらともいえない	4
● 身に付いていない	0
● 全く身に付いていない	0



## 10. 「技術者としての倫理観」(7/12)

● 十分身に付いている	7
● 身に付いている	25
● どちらともいえない	3
● 身に付いていない	0
● 全く身に付いていない	0



## 11. 「自己と世界の間を関係し地球規模で物事を眺めることができる。」(8/12)

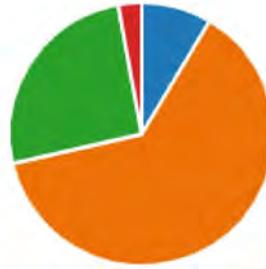
● 十分身に付いている	2
● 身に付いている	17
● どちらともいえない	14
● 身に付いていない	2
● 全く身に付いていない	0



## 令和4年度学科卒業生及び修了生の教育の成果に関するアンケート調査結果

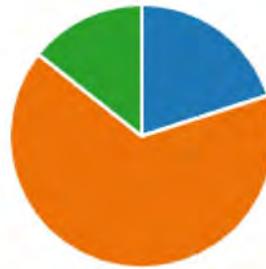
## 12. 「生産により生じる環境と社会への影響を認識し責任を自覚できる。」(9/12)

● 十分身に付いている	3
● 身に付いている	22
● どちらともいえない	9
● 身に付いていない	1
● 全く身に付いていない	0



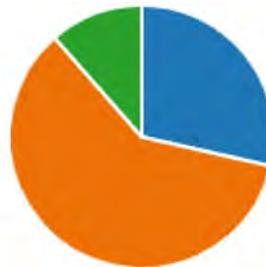
## 13. 「習得した知識・能力を超える問題に備えて、継続的・自律的に学習できる。」(10/12)

● 十分身に付いている	7
● 身に付いている	23
● どちらともいえない	5
● 身に付いていない	0
● 全く身に付いていない	0



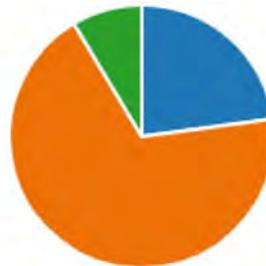
## 14. 「習得した知識をもとに創造性を発揮し、他者と協働しながら仕事を計画的に進めまとめることができる。」(11/12)

● 十分身に付いている	10
● 身に付いている	21
● どちらともいえない	4
● 身に付いていない	0
● 全く身に付いていない	0



## 15. 「自らの取り組む課題に関する成果・問題点等を論理的に記述・伝達・討論できる。」(12/12)

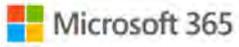
● 十分身に付いている	8
● 身に付いている	24
● どちらともいえない	3
● 身に付いていない	0
● 全く身に付いていない	0



16. 本校の教育について、何かお気づきの点、ご意見等がございましたら自由にご記入下さい。

6  
応答

最新の回答



Microsoft Forms | AI を活用したアンケート、クイズ、投票 [プライバシーと Cookie \(https://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=521839\)](https://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=521839) | [利用規約](https://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=866263)  
[独自のフォームの作成](#) (<https://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=866263>)

## 令和4年度第1回自己点検評価・改善委員会 兼 第2回PDCA推進会議 議事録

日 時：令和5年3月8日(水) 15:00-15:50

場 所：会議室B

出席者：■■■■ 校長、■■■■ 副校長、■■■■ 教務主事、■■■■ 学生主事、■■■■ 寮務主事、■■■■ 専攻科長、■■■■ 副専攻科長、■■■■ 学科長、■■■■ 学科長、■■■■ 教養教育科長、■■■■ 点検評価担当長、■■■■ 点検評価副担当長、■■■■ 事務部長、■■■■

欠席者：■■■■ 研究主事

陪 席：■■■■ 総務課長

## ◎自己点検評価・改善委員会議事内容

## 1. 運営諮問会議と他の外部機関による評価について

■■■■ 校長から資料0に基づき、運営諮問会議と他の外部機関による評価について説明があり、運営諮問会議でも説明するとの報告があった。

## 2. PDCA 推進担当者会議報告

## (1) 令和5年度 点検評価・改善活動(PDCA サイクル)について

■■■■ 副校長 (PDCA 推進担当長) から資料1-1に基づき、次年度の点検評価・改善活動 (PDCA サイクル) に関する説明があった。

## (2) 令和5年度自己点検評価\_外部評価\_アンケート等の実施計画

■■■■ 副校長 (PDCA 推進担当長) から資料1-2に基づき、次年度の自己点検評価・外部評価・アンケート等の実施計画に関する説明があった。

## 3. 点検評価担当報告

## (1) 学校の目的の周知のアンケートについて

■■■■ 点検評価担当長から、学校の目的の周知のアンケートについて、令和4年4月に全教職員向けに実施し、回答率は7割程度であったとの報告があり、次年度については、リマインド通知方法の変更等により、回答率を上げるよう改善を行うとの報告があった。

## (2) 令和4年度「学生との意見交換会」における意見等に対する対応実績のまとめについて

■■■■ 点検評価担当長から資料2-1に基づき説明があり、学生の要望に対する対応について、各主事、学生課及び総務課からの回答を、moodleにて学生に公開したとの報告があった。

## (3) 専攻科修了生及び学科卒業生上司に対するアンケート調査結果について

■■■■ 点検評価担当長から、以下のとおり今年度よりアンケートの方法が変更になったとの報告があった。また、資料2-2に基づき、アンケート依頼数は64、回答数は54で、語学力及びリーダーシップについては低い評価であったが、その他回答結果は高評価であったとの報告があった。

## ○アンケート方法の変更について

令和3年度実施した「令和元年度本科卒業生上司へのアンケート」において、依頼した企業から個々の社員の評価を求めることについて苦情等があったことから、アンケート方法を見直し、今年度より合同業界説明会の際に、参加企業60社程度(テクノプラザ会員)に対して卒業生一般に対する感想や意見を求めるアンケートを実施することとなった。(点検評価担当にて決定、自己点検評価・改善委員会にて報告済み)

## (4) 令和4年度自己点検報告書について

■■■■ 点検評価担当長から資料2-3-1に基づき自己点検評価報告書に関する説明があり、次年度も作成するとの報告があった。

## (5) 点検・評価のWEB情報公開について

- 1) 令和3年度自己点検評価報告書（令和3年度 年度計画 活動経過・結果報告書）
- 2) 運営諮問会議報告書（令和3年度 年度計画）

■■■■点検評価担当長から口頭により、令和4年度自己点検報告書と運営諮問会議報告書は、本校HPに掲載済みであるとの報告があった。

## (6) 点検評価・改善活動について

■■■■点検評価担当長から資料1-2に基づき、関係する委員会等と連携をしながら令和5年度も点検評価・改善活動を行っていくと報告があった。

## (7) 令和4年度「学習・教育到達目標」の達成度評価アンケート調査について

■■■■点検評価担当長から資料2-4に基づき、達成度評価シートの評価項目等に関する説明があった。「学習・教育到達目標達成度評価分析シート」について、現在は、学生自身がこの評価分析シートを確認するには担任に依頼しなければならない。■■■■校長より学生自身がシステムで達成度等を確認できる等仕組みを検討するよう依頼があった。

## (8) 令和4年度 専攻科修了予定者および学科卒業予定者への「学習・教育到達目標」の達成度及び満足度等に関するアンケート調査について

■■■■点検評価担当長から資料2-5に基づき、集計結果に関する説明があった。第5学年へのアンケートであるため、達成度は4や5であるべきという考え方もあるが、回答の中に1や2を記載した学生が181名中29名いた。アンケート項目の中で1や2の回答が1番多かった項目は「専門科目の学習または卒業研究に関連する英文を読んで内容を理解できるか」であった。■■■■校長から、アンケート結果で、ある学科が著しく異なる理由が質問され、委員から記載方法の説明が教員によって異なるのが理由かも知れないと説明があった。そうであれば、シナリオ（マニュアル）を用いて説明を統一したらどうかと提案があった。

## (9) その他

■■■■点検評価担当長より、定期試験の答案保管について、定期試験後答案保管のアナウンスを行っているが、令和4年度の答案保管状況は芳しくないとの報告があった。

## 4. その他

■■■■校長より、アンケート全般について、アンケート分析結果から、今後何に注意を払っていくべきか、弱いところをPDCAで改善するためにはどのようにしていくべきか等を議論する場を必ず設けることと発言があった。

— 以 上 —

## 令和4年度第2回点検評価担当者会議議事要旨

日 時：令和5年3月24日（金）10:30～11:45

場 所：会議室 B

出席者：■■■■ (R04 担当長、R05M) ■■■■ (R05 担当長)、■■■■ (R04 副担当長、R05S)、■■■■ (R05 副担当長)、■■■■ (R05E) ■■■■ (R05I) ■■■■ (R04C) ■■■■ (R05C) ■■■■ (G)、■■■■ (G) ■■■■ (学生課)、■■■■

欠席者：■■■■ (R04M) 、■■■■ (R04E)、■■■■ (R04I) ■■■■ (G) 、■■■■ (総務課)

## 議事

## 1. 令和4年度及び令和5年度の活動について

■■■■ 担当長より、令和4年度の活動結果及び令和5年度の活動について、事項書に基づき以下のとおり説明があった。

## (1) 鈴鹿高専の目的の周知に関するアンケート調査(4/4～4/28 に実施)

- ・ 令和4年度については、回答数：137件(回答率69%)、結果は昨年と同様で概ね良好(4、5が80%以上)。教員はほぼ100%であったが、職員の回答率が低かったため、令和5年度は回答率を上げるため、リマインド等を行う。
- ・ 令和5年度について、4月4日～28日に常勤・非常勤の全教職員対象にWebで実施する。4月4日実施の教務委員会にて、教務主事から本アンケートの説明があるが、教務主事説明の際に、本アンケートの時間を設けて実施することは可能か教務主事に確認する。

## (2) 学生との意見交換会

- ・ 令和4年度については、5月～10月に各科・専攻科で実施した。
- ・ 対応結果の学生への公開について、年度末にMoodleにて行った。■■■■ 教員より、対応結果の公開について、教職員への公開がなされていない旨指摘があり、全教職員への対応結果を公開することとなった。
- ・ 令和5年度について、前期中間試験明けから高専祭明けまでに各学科・専攻科で実施する。実施時期については、各科・専攻科に一任する。全科・専攻科で実施後、学校側への対応依頼を行う。

## (3) 答案保管状況のチェック

- ・ 令和4年度について、¥¥azami¥¥data¥¥r04 への答案保管状況（専攻科，非常勤を含む）の確認を行った。本科第4、5学年で、1科目も保管されていない学科があることから、運営会議で議題とし、学科長から依頼していただく等検討する。
- ・ 非常勤講師分について、未保管のものが多。非常勤講師分の答案の受け渡しについて、各科の保管担当、保管の仕方等を教務係に確認すること。
- ・ 令和5年度について、¥¥azami¥¥data¥¥r05 答案保管状況（専攻科，非常勤を含む）の確認を行う。
- ・ 令和7年度に認証評価を受審することから、特に令和4年度以降の答案を確実に保管すること。

## (4) 自己点検評価報告書の作成

- ・ 令和4年度自己点検評価報告書について、10月24日～11月16日に各担当により報告書原案（資料を含む）を作成、11月17日～11月28日に点検評価担当により確認を行い、1月に印刷を行った。
- ・ 令和5年度についても、以下スケジュールで自己点検評価報告書を作成する。
  - ① イベントの計画・実施時に、事務担当により資料の作成・保存する。  
「¥¥aspen¥all¥share¥事務書類¥委員会要旨部会報告」のフォルダにも議事録等を保存する。
  - ② 11月頭 各担当により、中間報告を元にした報告書原案（資料を含む）の完成
  - ③ 11月中 点検評価担当によるチェック・修正
  - ④ 12月中 自己点検評価・改善委員会メンバーによる確認
  - ⑤ 令和6年3月 委員会等活動報告、自己点検評価・改善委員会、PDCA推進会議にて報告及び確認
  - ⑥ 令和6年3月 運営諮問会議で報告

## (5) 学科卒業生及び専攻科修了生の教育の成果に関するアンケート調査

- ・ 令和4年度12月7日開催の合同企業説明会にて、参加テクノプラザ会員企業に実施していただいた。回答数は54/64であり、回答結果は、行動力があり、誠実で協調性もあり、専門知識もあると高評価であった一方、語学力やリーダーシップ、プレゼンテーション能力はもう少し身につけてほしい、コミュニケーション能力が大切であるという評価を受けたと分析している。

## (6) 平成30年度学科卒業生、専攻科修了生へのアンケート調査

- ・ 令和5年度は以下のとおりの実施する予定である。  
実施方法：依頼文を郵送(7月下旬)し、Webで回答(9月中)

## (7) 学習・教育到達目標の達成度評価アンケート

- ・ 令和4年度については、回答数は934、回答率は85%程度であった。
- ・ 前年度結果に今年度の結果を加えた達成度評価シートを作成し、令和5年度の担任に提供し学生面談等に活かしてもらう。
- ・ 令和5年度について、年度末のオリエンテーションで実施するが、学級担任に説明しながら、全学生に自己評価を入力してもらうよう依頼する。  
■■■■ 教員より、年度末ではなく12月ごろに依頼、1月ごろ実施する等実施時期を早めてほしいとの依頼があった。

## (8) 卒業（専攻科修了）予定者満足度評価・達成度評価のアンケート

- ・ 令和4年度については、回答数は181、回答率は73%程度であった。他学年よりも回答率が低い原因は、オリエンテーション等で実施しているクラスが少ないことが考えられる。
- ・ 達成度のいずれかの項目に「2」以下の自己評価をした学生が29名(16%)いた。評価が低い原因については、オリエンテーション等できちんと説明されず、評価基準を理解せず回答してい

るため、低い評価となっている可能性がある。

- ・ 令和5年度について、年度末のオリエンテーションで実施するが、学級担任に説明しながら、全学生に自己評価を入力してもらうよう依頼する。

## 2. その他

- ・ K I S（国立高専教育国際標準）評価の受審時期について

■■■担当長より、K I S（国立高専教育国際標準）評価を受審する旨報告があり、受審希望時期について、以下のとおりを予定しているとの報告があり、特に意見はなかったため、点検評価担当として、教務委員会にて報告するとお話があった。

第1希望：令和9年度、第2希望：令和10年度、第3希望：令和8年度

※ 認証評価を令和7年度受審予定のため、認証評価の結果を受け、令和8年度にK I Sの準備をし、令和9年度にK I Sを受審する。

- ・ 令和5年度自己点検評価報告書作成の担当について

■■■次期担当長より、自己点検評価報告書作成の担当について以下のとおりとする旨報告があり、特に意見はなく了承された。令和5年度の年度計画が確定後に正式決定する説明があった。

	R4	R5	項目数
3.1-(1) 入学者の確保	■■■先生(I)→■■■先生(I)		3
3.1-(2) 教育課程の編成等	■■■先生(C)→■■■先生(C)		11
3.1-(3) 多様かつ優れた教員の確保	■■■先生(M) (変更無し)		5
3.1-(4) 教育の質の向上及び改善	■■■先生(E)→■■■先生(E)		12
3.1-(5) 学生支援・生活支援等	■■■先生(G)→■■■先生(G)・■■■先生(G)		17
3.1-(6) 教育環境の整備・活用	■■■先生(M)→■■■先生(M)		5
3.2 社会連携に関する目標	■■■先生(S)(変更無し)		12
3.3 国際交流に関する目標	■■■先生(G)→■■■(E)		4

- ・ ■■■次期担当長より、令和5年度の第1回点検評価担当者会議について、例年4月に実施しているが、本会議にて令和5年度の担当も決定したため、4月には対面での会議は実施しないとの提案があり、了承された。また、Aspen内に過去のJABEEや点検評価部会関係等のフォルダが分散しており、点検評価担当のフォルダ（¥¥aspen¥group¥share¥各種委員会¥点検評価部会）に集約頂きたい発言があった。

令和7年3月7日

点検評価担当

## 令和5年度運営諮問会議でのご意見を受けての対応

## 1. 今後の起業家工房の運用方法について

## 【運営諮問会議での回答】

現在は教職員がついて指導しているが、今後は地域の企業と連携したり、高専 OG の起業家たちと連携を取りながら、学生たちが運用するシステムを計画している。しかし不十分な部分があるので今後の課題となっている。

## 【その後の取り組み】

現在は起業家工房サポーター学生による自主運営の形式に移行している。DCON2025 特別講義（高専訪問）、鈴鹿高専グローバルキャンプ、高専ビジネスコンテスト in 鈴鹿高専 2024(Winter)等のイベントにも活用され他高専の学生にも展開しながらスタートアップ教育の一翼を担っている。

## 2. 鈴鹿高専の取組みのPR方法について

## 【運営諮問会議での回答】

現在は教職報道機関と毎年懇談会を開催して、教職員と報道機関の方々との関係性を向上している。今後も報道機関から宣伝してもらうためにはより情報発信の回数を増やす必要があると考えている。

## 【その後の取り組み】

1月28日に実施した記者懇談会の他に「新聞記事から見る鈴鹿高専」の発行、ウェブサイトのトップページにある「メディア情報」等で積極的に情報発信を行っている。令和5年度はメディア情報に19件が掲載されたが、令和6年度は1月末現在で既に25件が掲載され昨年度の実績を既に上回っている。

## 3. 生成AI教育について

## 【運営諮問会議での回答】

来年度、本校にて地域企業と連携した生成AIの授業を行う予定である。また本校学生が生成AIの活用方法と注意点を学ぶことで、これから高専を目指す中学生にも魅力的な教育機関ということをアピールしていきたいと考えている。

## 【その後の取り組み】

令和6年度前期に課題研究として生成AI講座を実施した。定員40名を大きく上回る70名の学生が応募し関心の高さを伺えた。このため、後期に別途生成AIに関する講演会を開催することとなった。さらに、教職員向けに「生成AI 大規模言語モデル(LLM)を利用した教育・学習支援」講習会を開催予定である。

## 4. 鈴鹿高専ホームページの改善について

## 【運営諮問会議での回答】

ホームページの効果については分からない部分があるが、今後もマイナスな印象を受ける掲載は避けるようにしていきたい。

## 【その後の取り組み】

フォト広報等への掲載時には、広報室および総務課が原稿および写真の内容をチェックし、マイナスな印象を受ける表現等を避けるような点検体制を継続している。

## 5. 鈴鹿高専ホームページの教員一覧ページに教員の専門分野が一目で分かるようにしてほしい。

## 【運営諮問会議での回答】

専門分野が一目で分かるように修正を検討していく。

## 【その後の取り組み】

鈴鹿高専ウェブサイトの「教員一覧」のページについて、氏名、役職、リンク先の右側に研究分野、専門分野のキーワードを掲載した。

すべてのチーム

自己点検評価・改善委員会

メインチャンネル

- 一般
- 01\_連絡・情報共有
- 02\_年度計画関係

【依頼】運営諮問会議でのご意見を受けての対応」作成について  
01\_連絡・情報共有

【鈴鹿】 02/12 10:30

【依頼】運営諮問会議でのご意見を受けての対応」作成について

【鈴鹿】先生(CC: 【鈴鹿】様)

学外の運営諮問会議委員に、「運営諮問会議でのご意見を受けての対応」という文章を点検評価担当文責で送っているのですが、作成していただけないでしょうか？  
昨年度出た意見は、添付の議事概要の(3)意見交換の内容です。昨年度のファイルを添付します。(ワード版は、流用して作成するのに必要かと思ってお送りします。最終的にはpdf版が完成版です。)  
お忙しいところ大変恐れ入りますが、会議開催前に送る必要があるため2/21(金)までお願いいたします。

4\_令和5年度運営諮問会... (修正版) R04運営諮問... 9\_令和4年度運営諮問会...

【鈴鹿】 02/12 14:51

【鈴鹿】様(CC: 【鈴鹿】様)

ご連絡有難う御座います。添付ファイル【案】R05運営諮問会議でのご意見を受けての対応 (鈴鹿高専).docx]のようでいかがでしょうか。小職の主観も含まれているかわかりませんが運営会議の皆様へ御覧頂き、修正等をお願い出来ないでしょうか。よろしくお願いたします。

【案】R05運営諮問会議でのご意見を受...

【鈴鹿】 02/12 15:45

自己点検評価・改善委員会各位

【鈴鹿】先生に、学外の運営諮問会議委員にお送りする「運営諮問会議でのご意見を受けての対応」を作成していただきましたので、上記ファイルをご確認いただき、修正等ありましたら2/19(水)までお願いいたします。

2月28日

## 令和7年度 点検評価・改善活動（PDCAサイクル）実施計画

	時期	担当	事項
PLAN Re-PLAN	4月	機構本部	機構本部年度計画の決定
		3主事	年度方針説明会及び年度初めオリエンテーションを開催し、学科教育目標を含む主要な教育方針等を教職員、学生に周知する。
	5月	副校長	前年度3月の委員会等活動報告会で挙げた次年度検討事項、運営諮問会議での意見、内部質保証点検結果を受けて自己点検評価・改善委員会において検討した対応策及び高専機構年度計画を基に年度計画（案）を作成する。
		運営会議	年度計画の正式決定
		教職員会議	年度計画の周知
	6月	総務企画係	策定された年度計画を反映した当該年度「自己点検評価一覧」のPLAN・CHECKシートを作成する。 担当委員会等ごとに「自己点検評価シート」のPLAN・CHECKシートを作成し、各委員会等フォルダへのリンクを作成する。
PDCA推進会議		当該年度「自己点検評価一覧」のPLAN・CHECKシートおよび担当委員会等ごとの「自己点検評価シート」のPLAN・CHECKシートのチェック	
DO	4月～9月	各学科・専攻科・委員会・事務部等	各学科、委員会等にて学校運営・教育・学生支援・研究活動等を行う。
	適宜		年度計画に追加・修正事項があれば適宜「自己点検評価シート」のCHECKシートの「追加・修正事項」欄へ記入する。
CHECK	10月～11月	各委員会等	各評価項目に応じた中間報告を「自己点検評価シート」のCHECKシートへ記入する。 検討・改善を要する事項は「検討事項」欄へ記入する。
		総務企画係	各委員会等から提出された「自己点検評価シート」のとりまとめ
		PDCA推進会議 点検評価担当	「追加・修正事項」、「検討事項」のとりまとめ 学外・学内関係者へのアンケート調査結果のとりまとめ
ACTION Re-PLAN		PDCA推進会議 点検評価担当	アクションプラン（案）等を策定する。 中間報告会－中間報告、「追加・修正事項」、「検討事項」、アクションプラン（案）を審議し、必要に応じて改善勧告案を各学科、委員会等へ連絡する。  PDCA推進担当報告、点検評価担当報告
DO	10月～3月	各学科・専攻科・委員会・事務部等	各学科、委員会等で学校運営・教育・学生支援・研究活動等を行う。
	適宜		年度計画に追加・修正事項があれば適宜「自己点検評価シート」のCHECKシートの「追加・修正事項」欄へ記入する。
CHECK	1月～3月	各委員会等	各評価項目に応じた実績・自己評価・自己評定を「自己点検評価シート」のCHECKシートへ記入する。 次年度に検討・改善を要する事項は「次年度の検討事項」欄へ記入する。
		総務企画係	各委員会等から提出された「自己点検評価シート」をとりまとめ、「自己点検評価一覧」を完成する。
		PDCA推進会議 点検評価担当	「追加・修正事項」、「次年度の検討事項」のとりまとめ 学外・学内関係者へのアンケート調査結果のとりまとめ
		自己点検評価・改善委員会	自己点検評価及び内部質保証点検を行い、校長へ報告する。 自己点検評価報告書を作成し、校長へ報告する。
		運営諮問会議	自己点検評価・改善委員会が作成した自己点検評価報告書に基づき、点検評価（第三者評価）を実施する。
		PDCA推進会議 点検評価担当	アクションプラン（案）等を策定する。
ACTION Re-PLAN	翌年度 4月	機構本部	機構本部年度計画の決定
		3主事	年度方針説明会及び年度初めオリエンテーションを開催し、学科教育目標を含む主要な教育方針等を教職員、学生に周知する。
		副校長	前年度3月の委員会等活動報告会で挙げた次年度検討事項、運営諮問会議での意見、内部質保証点検結果を受けて自己点検評価・改善委員会において検討した対応策及び高専機構年度計画を基に年度計画（案）を作成する。
	5月	運営会議	検討された対応策を反映した次期中期目標・中期計画または次年度年度計画について審議し、年度計画の正式決定
			自己点検評価・改善委員会 総務企画係